

(様式第10)

厚生労働大臣 殿
開設者名 国立大学法人東京医科歯科大学
学長 田中 雄二郎
番 東医歯病監第 8 号
令和 5 年 10 月 5 日

東京医科歯科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
氏名	国立大学法人 東京医科歯科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立大学法人 東京医科歯科大学病院

3 所在の場所

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
電話(03)5803-6111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科	<input type="radio"/>	
診療実績							
腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、リウマチ科については、合同内科において診療を行っている。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
○	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科		8小児外科
診療実績							
乳腺外科、消化器外科については、合同外科において診療を行っている。 小児外科については、小児科において診療を行っている。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経外科	2	形成外科	3	病理診断科	4	リハビリテーション科	5	脳神経内科
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41	0	0	0	772	813

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	320	357.8	677.8	看護補助者	60	診療エックス線技師	0
歯科医師	110	128.7	238.7	理学療法士	23	臨床検査技師	102
薬剤師	75	1.5	76.5	作業療法士	9	衛生検査技師	0
保健師	1	0	1	視能訓練士	7	その他	0
助産師	28	0.7	28.7	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	939	20.9	959.9	臨床工学士	37	医療社会事業従事者	6
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	52
歯科衛生士	39	1.4	40.4	歯科技工士	28	事務職員	302
管理栄養士	11	1	12	診療放射線技師	68	その他の職員	0

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	83	眼科専門医	7
外科専門医	45	耳鼻咽喉科専門医	19
精神科専門医	13	放射線科専門医	6
小児科専門医	34	脳神経外科専門医	13
皮膚科専門医	2	整形外科専門医	33
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	17
産婦人科専門医	20	救急科専門医	11
		合計	311

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (藤井 靖久) 任命年月日 令和 5 年 4 月 1 日

R2.4.1から病院長就任前のR5.3.31までは医療安全担当の副病院長として医療安全管理委員会への出席や、レベル3b以上の事例及び死亡退院事例検証会の検証結果の報告を受ける等、院内の医療安全管理に携わり、R5.4.1～ 医療安全管理委員会委員長として関わっている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	550.4 人	32.2 人	582.6 人
1日当たり平均外来患者数	2054.5 人	1299.3 人	3353.8 人
1日当たり平均調剤数	外来:217.4 入院:899.2		剤
必要医師数	130		人
必要歯科医師数	4		人
必要薬剤師数	20		人
必要(准)看護師数	404		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要	
集中治療室	302 m ²	SRC(一部S)	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	14 床 有 有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台数	210 m ² 台	病床数	17 床
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 [共用室の場合] 共用する室名	41 m ²		
化学検査室	622 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	検体検査自動分析装置一式、検体検査情報システム一式
細菌検査室	104 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	同定・感受性分析装置一式、細菌検査情報システム一式
病理検査室	544 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	病理標本作製システム一式
病理解剖室	54 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	緩衝ホルマリン作成装置一式、病理解剖撮影システム一式
研究室	1107 m ²	SRC(一部S)	(主な設備)	高速液体クロマトグラフィー一式
講義室	0 m ²	SRC(一部S)	室数	室 収容定員 人
図書室	65 m ²	SRC(一部S)	室数	2 室 蔵書数 2200 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	79.1	%	逆紹介率	65.3	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		17849		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		17405		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		3207		人
	D: 初診の患者の数		26634		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
中島 勸	虎の門病院 医療安全部 部長	○	虎の門病院医療安全部 長として、医療安全に 対し豊富な経験と知識を 有している。	無	1
児玉安司	新星総合法律事務所 弁護士国立がん研究セ ンター 理事医師		医療安全の問題に取り 組むなど、医学及び法 学の立場から幅広い視 野視点を有し、医療安 全に関し精通している。	無	1
豊田 郁子	NPO法人 架け橋 理事長		患者・家族と医療 をつなぐ NPO 法人架 け橋理事長として、患 者・家族と医療従事者 のより良い関係の促進 やコミュニケーションに 関する豊富な知見を有 している。	無	2
岡田 就将	本学政策科学分野 教 授 本学寄附講座 東京都 地域医療政策学講座寄 附講座教授		日本における保険医療 政策に対し豊富な経験 と知識を有している。	有	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
本学及び本院のHPに掲載。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	同種造血幹細胞移植	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 造血器腫瘍、難治性造血器疾患に対する同種造血幹細胞移植治療			
医療技術名	造血器腫瘍、難治性造血器疾患に対する同種造血幹細胞移植治療	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 患者自身のTリンパ球を用いて、腫瘍細胞の表面の抗原(CD19)を認識するキメラ抗原受容体を発現させ改変する技術。難治性急性リンパ性白血病またはびまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する免疫療法の一つ。			
医療技術名	治療抵抗性の多発性筋炎・皮膚筋炎に対するリツキシマブの使用	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 既承認薬が無効の難治性病態であり、世界各国の最新知見に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性のSLE、皮膚筋炎/多発性筋炎、成人発症スナル病、血管炎症候群、全身性強皮症に対するミコフェノール酸モフェチルの使用	取扱患者数	19
当該医療技術の概要 既承認薬無効の難治性病態であり、世界各国より発出されている本剤の有効性を示唆する学術報告に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の全身性エリテマトーデスに対するリツキシマブの使用	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 既承認薬無効の難治性病態であり、当該薬は有効性が世界で評価されているものの開発が困難な状況が確認されているため、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の関節リウマチに対するリツキシマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬での治療困難な難治性病態であり、当該薬は世界的には公知の治療薬であるいっぽう本邦では開発要望に対して現時点では承認見込みが立っていないことから、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の高安動脈炎に対するインフリキシマブの使用	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の多発性筋炎・皮膚筋炎に対するアバタセプトの使用	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	52

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	TAFRO症候群に対するリツキシマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 きわめて希少疾病であり保険承認された治療薬がほとんど存在しないため、海外等の学術論文等に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の全身性強皮症に対するトシリズマブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	エルドハイムチェスター病に対するペガシス(ペグインターフェロンアルファ2a)の使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 きわめて希少疾病であり保険承認された治療薬がほとんど存在しないため、海外等の学術論文等に基づき、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の乳び胸水、乳び腹水に対するサンドスタチン注の使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の高安動脈炎に対するトファチニブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した。			
医療技術名	治療抵抗性の石灰沈着症に対するトファチニブの使用	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 既承認薬が無効である難治性病態であり、海外等の使用実績報告を参考として、当院が設置している未承認医薬品等評価検討委員会で審査承認のもとで治療した			
医療技術名	CSII(インスリンポンプ療法)/SAP(Sensor Augmented Pump)療法	取扱患者数	21
当該医療技術の概要 電動式携帯ポンプにより可変的かつ持続的に皮下にインスリンを注入する治療			
医療技術名	副腎静脈サンプリング	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 左右の副腎静脈より採血してアルドステロン濃度を測定することで、原発性アルドステロン症の責任病変を同定する検査(放射線科と共同で施行)			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	39

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	難治性内分泌疾患に対する薬物療法	取扱患者数	463
当該医療技術の概要 先端巨大症、プロラクチン産生腫瘍、原発性副甲状腺機能亢進症、クッシング症候群、副腎不全、性腺機能低下などの難治性内分泌疾患に対する専門的な薬物治療			
医療技術名	次世代シーケンスパネルによる網羅的腎臓病診断と治療選択の実施	取扱患者数	123
当該医療技術の概要 腎性尿崩症、塩喪失性腎症、遺伝性高血圧症、多発嚢胞性腎疾患、先天性代謝性腎疾患など既知の遺伝性腎疾患責任遺伝子群を同時にスクリーニングするNGSパネルを運用し、これまでに累積1339件の遺伝子診断を行なった。多くの診断に貢献し、また遺伝子型に応じた治療選択法の礎として注目を得ている。			
医療技術名	Fabry病に対する酵素補充療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 α -galactosidase A酵素をコードする遺伝子の異常によって起こる先天性脂質代謝異常症であるFabry病では、酵素活性低下で分解できない糖脂質が全身組織に蓄積し、腎不全、心不全、脳梗塞など多臓器障害が起こる。治療として、酵素活性低下を補うための酵素補充療法があり、2週に一度静脈内投与を行う。			
医療技術名	エキシマレーザーを用いたリード抜去術	取扱患者数	44
当該医療技術の概要 カテーテルの先端より照射される紫外域パルスエキシマレーザーにより、ペースメーカーや植え込み型除細動器などの癒着したリードの抜去に有効である。リードを含むデバイス感染例が増えており、大学病院を含む多くの医療機関からの紹介件数が増加している。			
医療技術名	冠動脈レーザー血管形成術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 冠動脈内に挿入されたカテーテルの先端より照射される紫外域パルスエキシマレーザーにより冠動脈のアテロームプラーク、石灰等を蒸散させる治療方法。血栓性病変、ステント再狭窄に有効である。			
医療技術名	光干渉断層法(OCT/OFDI)	取扱患者数	223
当該医療技術の概要 近赤外線を用いて冠動脈内膜の詳細を観察する画像診断法。OCT/OFDIを使用することで、冠動脈インターベンション術後の合併症、再狭窄率を低減させている。			
医療技術名	高速回転式冠動脈アテレクトミー	取扱患者数	36
当該医療技術の概要 冠動脈内に挿入されたカテーテルの先端よりダイヤモンドチップを埋め込んだバー(ドリル)を高速回転させることにより冠動脈の石灰を切削する治療方法。石灰の強い冠動脈プラークに威力を発揮する。件数の増加が見られる。			
医療技術名	難治性高安動脈炎に対する免疫抑制剤、生物学的製剤による治療	取扱患者数	63
当該医療技術の概要 通常ステロイド治療が無効な難治例に対して、免疫抑制剤、生物学的製剤による治療を行い高い奏効率を得ている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	960

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	バイポーラアブレーション	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 従来の高周波カテーテルアブレーションでは、心筋中層深部の不整脈基質を焼灼することが困難であった。そのような治療困難例において、心内膜と心外膜、または心室中隔の右室側と左室側で、対側に位置する2本のカテーテル間で高周波アブレーションを行うことで、治療成績の向上が得られている。			
医療技術名	心房細動に対するHigh-power高周波カテーテルによる肺静脈隔離術	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 従来の出力での高周波カテーテルと比較して、high-powerカテーテルで数秒の通電を行うことで不必要に大きな焼灼巣とならずに、短時間に安全に肺静脈隔離を施行することができる。			
医療技術名	低張液(half-normal saline)を灌流液として用いたカテーテルアブレーション	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 低張液(half-normal saline)を使用した焼灼では通常の生理食塩水を使用した場合に比して大きい焼灼巣が形成されるため、難治性の心室性不整脈治療に用いることで成績の向上が期待される。			
医療技術名	アテローム切除アブレーション式血管形成術用カテーテル	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 カテーテルの先端にカッターがついており、血管内の詰まった部分を直接削り取る治療法。冠動脈内の動脈硬化巣を削り取ることによって、病変の良好な拡張を得ることができる。			
医療技術名	心房細動に対するマーシャル静脈へのエタノール注入(化学的アブレーション)	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 通常のカテーテルアブレーションでは焼灼が困難な僧帽弁輪峡部へ修飾の有効な手段として、長期持続性心房細動、心房粗動症例に施行されている。			
医療技術名	MR enterocolonography (MREC)	取扱患者数	300
当該医療技術の概要 前処置および撮影方法の工夫により、一回の検査で小腸および大腸を同時に評価するMR検査。主な適応疾患はクローン病			
医療技術名	シングルバルーン胆道内視鏡(SBERC)	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 ダブルバルーン内視鏡により、通常の方法では到達が困難な術後などの症例に対し胆道鏡を行う。			
医療技術名	シングルバルーン内視鏡による外来小腸内視鏡検査	取扱患者数	212
当該医療技術の概要 入院せず外来で、経肛門的にシングルバルーン内視鏡を挿入し、低侵襲に小腸を検査する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	615

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	内視鏡的小腸狭窄拡張術	取扱患者数	39
当該医療技術の概要 深部小腸の狭窄に対し外科的手術を回避し低侵襲に内視鏡的に治療を行う。			
医療技術名	Nudix hydrolase 15 (NUDT15) 遺伝子codon139の遺伝子多型検査	取扱患者数	350
当該医療技術の概要 炎症性腸疾患の治療におけるチオプリン製剤の重篤な副作用の予測に有用なNUDT15 (Nudix Hydrolase 15) 遺伝子多型を検出することにより、チオプリン製剤による治療選択を補助し、最適な治療法の提供や医療費の適正化に貢献する。			
医療技術名	C型肝炎ウイルスの遺伝子解析による薬剤耐性変異検査	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 C型肝炎に対する抗ウイルス療法への耐性を規定するC型肝炎ウイルス変異を測定し、高精度の治療効果予測を行う。			
医療技術名	総合的な非侵襲的肝線維化・脂肪化診断に基づく個別化診療	取扱患者数	1200
当該医療技術の概要 複数の非侵襲的肝線維化診断法・脂肪評価法を駆使した病態リスク評価に基づく個別化医療。			
医療技術名	画像支援システムを駆使した肝癌ラジオ波治療	取扱患者数	100
当該医療技術の概要 総合画像診断と造影超音波および画像ナビゲーションシステムを駆使した肝癌局所療法。			
医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 同種骨髄、末梢血幹細胞、臍帯血を移植することにより、難治性白血病や、遺伝子異常に起因する先天性免疫不全症の根治治療をする。原発性免疫異常症に対する移植は、白血病に対する移植と異なり、様々な合併症があり難易度の高い移植である。また家族内ドナーからのHLA半合致移植も行っている。また、小児悪性軟部肉腫に対する大量化学療法・自家末梢血幹細胞採取も行っている。			
医療技術名	TCRabCD19除去移植	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 DNA損傷応答機構に異常を有し、放射線感受性を有する免疫不全症の移植には、HLA半合致移植のGVHD予防に大量のシクロフォスファミドを用いることができない。また重篤な感染症を有し、移植まで急ぐケースではGVHDを生じうるT細胞をあらかじめ除去したTCRabCD19除去移植が欧米を中心に行われている。本法は、輸血部との連携は必須であり、除去装置の取り扱いを習得する必要がある。			
医療技術名	再発・難治急性リンパ性白血病に対するCAR-T「キムリア」療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 本治療法は、遺伝子組換えレンチウイルスベクターを用いて、CD19を特異的に認識するキメラ抗原受容体 (CAR) 発現遺伝子を患者由来のT細胞に導入した再生医療等製品である。非常に予後不良であった再発難治B細胞型急性リンパ性白血病に対して、多くの症例において単回投与で長期寛解を維持できるなど、画期的な結果が得られている。CAR-T細胞療法は、サイトカイン放出症候群や中枢神経合併症など、時にICU管理を必要とする治療合併症が知られており、副作用が発現した際に集中治療を含めた必要な対応をとることができるよう、院内多職種連携のもと本治療が行われている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	1,752

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	重症原発性免疫不全症に対するTREC,KREC測定	取扱患者数	2290
当該医療技術の概要 本検査法は、原発性免疫不全症の中でもT細胞、B細胞欠損症に対するスクリーニング検査として、その有効性は非常に高い。現在新生児スクリーニングに向けて、実用化が進められているが、他の免疫異常症に対する免疫能の簡便な検査として、保険適用を目指し開発中であり、免疫異常症患者等で検査を行った。			
医療技術名	マルチカラーフローサイトメーターを用いた原発性免疫異常症、造血細胞移植後などに対するリンパ球解析	取扱患者数	385
当該医療技術の概要 本検査法は、マルチカラーのフローサイトメーターを用いて、少量の血液で、非常に詳細なリンパ球分化について解析可能な方法であり、有効性は非常に高い。免疫異常症および造血細胞移植後の免疫系の再構築の評価のため、多数例の検討を行った。			
医療技術名	肺動脈性肺高血圧症に対する標的治療薬による治療	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 小児肺高血圧症の中でも、肺動脈性肺高血圧症はその大部分を占め予後不良であり難病指定されている。近年、肺高血圧症の新規標的治療薬の開発が進み予後は大幅に改善しているが、エポプロステノールの持続皮下注射の導入や管理、エコーやカテーテル検査による適切な評価と方針の決定などを行える施設は限られている。特に小児の重症肺高血圧症の専門治療を行える施設は非常に少ない。			
医療技術名	先天性副腎皮質酵素欠損症(先天性副腎過形成:CAH)および性分化疾患の遺伝学的検査を含めた包括的な診断および治療	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 先天性副腎皮質酵素欠損症(先天性副腎過形成:CAH)および性分化疾患は、多くの細分化された病型があり、その治療法の選択は病型によっても異なる。さらに性分化疾患では正確な病態把握以外に、社会的性決定という特殊かつ高度な医療社会的判断を必要とする。当院では、これらに対し、遺伝学的手法を利用した包括的かつ正確な診断を行い、それに基づいた社会的性決定およびそれらに基づく治療の提供を行っている。			
医療技術名	重症先天性高インスリン血症に対するオクトレオチド持続皮下注およびランレオチド(ソマトスタチンアナログ徐放性製剤)皮下注を中心とした、包括的治療体制の提供	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 オクトレオチド持続皮下注は重症先天性高インスリン血症に対する有効な治療である反面、その特殊性・高度専門性から治療体制が整備された施設は限定されている。当院では、早期遺伝学的診断および画像診に基づく病型診断や持続血糖モニタリングによる安全な管理を基盤として、インスリンポンプを用いたオクトレオチド持続皮下注治療に加え、新たにランレオチド間欠皮下注による治療提供体制を整備している。			
医療技術名	性分化疾患における社会的性決定を含めた多職種医療チームによる対応	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 性分化疾患における社会的性決定は、将来的な性自認予後や、泌尿生殖器の解剖学的、機能的見地を含め、多職種のスタッフによる総合的な見地からの議論と決定を必要とし、高度の専門的な医療技術を要する。本疾患は頻度は少ないが、毎年数名の対応をおこなっている。			
医療技術名	小児リウマチ性疾患に対する、標的治療薬による治療	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 リウマチ性疾患および自己炎症性疾患は小児疾患の中でもまれであるが、難病指定されている疾患である。現在使用されている3種類の標的治療薬(抗IL-1抗体、抗IL-6製剤、抗TNF製剤)の静注薬あるいは皮下注製剤を病態に応じて、治療を行っている。従来の治療薬では改善が見込めなかった患者に対して適宜使用することによって、極めて高い寛解を図ることが可能となっている。			
医療技術名	難治性ネフローゼ症候群に対する分子標的薬療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 難治性ネフローゼ症候群は、通常免疫抑制剤であるシクロスポリンやミゾリピンでは、寛解を維持できない疾患である。このような上記疾患に対して分子標的薬(リツキシマブ)は、近年有効であることが示されたものであるが、顕著なInfusion reactionを呈することや、投与後一定期間Bリンパ球が枯渇することに伴うカリニ肺炎や、発熱性好中球減少性や白質脳炎出現の危険性が伴うため、薬剤の特性を熟慮した医師が、十分な注意をしつつ投与する必要がある。当院では、年4-5例程度であるが、5年以上の期間、この薬剤投与の経験を有しており、安全に投与することが可能である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	2,751

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	小児に対する急性血液浄化療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 急性血液浄化療法は、急性の機能不全、または慢性機能不全の急性増悪に陥った臓器に対する機能補助、もしくはサイトカインや抗体などの各種成分の除去を目的とした体外循環による治療である。小児ではその特性として、循環血液量が少ないため血行動態の変動が大きく危険性が高いこと、そのために1ml単位の細かな管理が必要であること、血管が細くブラッドアクセスの確保が困難であること、から高い専門技術を必要とする。			
医療技術名	新生児遷延性肺高血圧に対する一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 新生児遷延性肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入療法は、血管拡張作用のある一酸化窒素ガスを直接肺に吸入することにより、肺血管抵抗を下げて、循環動態を改善させる治療法である。他の薬剤療法と比べ、体血圧には影響を与えず肺動脈のみを選択的に拡張させることが利点であり、比較的安全に施行可能であるが、血小板機能障害やメヘモグロビン血症などの副作用に注意して行う必要がある。			
医療技術名	長時間ビデオ脳波同時記録	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 てんかん治療の進歩(外科治療など)に伴い、てんかん発作型の詳細な解析が重要性を増している。そのための最も標準的な方法はデジタル脳波計を用いて数時間～数日に及ぶ長時間ビデオ脳波同時記録を行うことであるが、小児においては記録・判読共に熟練を要し、施行可能な医療機関は限られている。			
医療技術名	自己免疫性神経疾患に対する血漿交換療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 抗NMDA受容体抗体脳炎、抗アクアポリン4抗体陽性視神経脊髄炎などでは、通常免疫調整療法に抵抗性の難治例や重症例において、血漿交換療法が有効な場合があるが、小児では治療選択に関して豊富な経験が必要である。また小児は、循環血液量が少ないため血行動態の変動が大きく細かな管理が必要であること、血管が細くブラッドアクセスの確保が困難であることから高い専門技術を必要とする。			
医療技術名	脊髄性筋萎縮症に対する核酸医薬品「ヌシネルセン」髄注	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 本治療法は、脊髄性筋萎縮症において、SMN2を標的として機能性SMN蛋白の産生を増加させる核酸医薬品である。今まで根本的治療のなかった本疾患に対し、画期的な効果が得られている。投与経路は髄注であり、投与にあたっては患者の神経学的評価を並行して行うことが必要である。当院は脊髄性筋萎縮症の診療経験を有しており、安全に適切に投与することが可能である。			
医療技術名	脊髄性筋萎縮症に対する遺伝子治療薬「オナセムノゲン アベパルボベク」	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 本治療法は、脊髄性筋萎縮症に対する遺伝子治療薬であり、有効性は非常に高い。アデノ随伴ウイルス9型のベクター製品であり、カルタヘナ法を遵守した投与が必要となる。また投与後の長期的なフォローも重要である。当院は脊髄性筋萎縮症の診療経験を有しており、またカルタヘナ法に対応した投与体制が整っており、安全に投与することが可能である。			
医療技術名	クロザピンによる治療抵抗性統合失調症患者の治療	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 従来の抗精神病薬に抵抗する難治性症状のため不安定な状態が続く統合失調症患者に対し、クロザピンによる治療を行う。クロザピンは、治療効果が高い反面、無顆粒球症、心筋障害、耐糖能異常等の副作用を引き起こし重症化し易い問題があるため、所定の講習を得た登録医により、血液内科・循環器内科・糖尿病・内分泌・代謝内科・薬剤部の協力体制が確立している限定された施設でのみ実施が許可されている。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法による難治性精神疾患の治療	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 薬物療法に抵抗する難治性のうつ病、双極性障害、統合失調症、口腔内セネストパチー、器質性精神疾患等を対象として、手術室において麻酔科による全身麻酔の管理のもとで、前頭部に電極を装着し、矩形波出力型のパルス浪通電装置を用い、脳への通電を行う。けいれんを生じさせず、副作用のリスクを低減した方法であり、修正型と呼ばれ、全身麻酔管理のできる施設と医師を要する高度な医療である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	70

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	免疫機序関与精神疾患に対する免疫学的治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 一部の統合失調症については、自己免疫性精神病が遷延している場合がある。その関与が疑われた患者に対して自己抗体の検出を行い、検出された症例に対して免疫学的な治療を行う。			
医療技術名	ロボット支援下胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 日本では2018年に診療報酬改定があり、食道癌に対するロボット支援手術が保険収載された。食道癌手術ではロボットを使うことで術後の合併症率を減らす効果がある可能性が報告されており、発声や食物嚥下など術後QOLに関わる重要な機能を温存するのに役立つと期待される。消化管外科学分野全体でロボット支援下手術の導入と症例数増加を図っているところであり、当科も着実に症例数を増やしつつある。			
医療技術名	縦隔鏡下食道切除術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 食道がん根治術における上縦隔郭清を伴う治療では経胸腔操作が必要であったが、縦隔鏡手術では、胸部操作が必要なく、分離肺換気および肺虚脱の必要もないため従来の胸腔鏡手術よりもさらに低侵襲となると予想され、体への負担が軽減される有用な治療法である。念のためにリンパ節郭清度が問題ないことを右胸腔より胸腔鏡を挿入して観察し、根治性が確保されていることを確認している。			
医療技術名	喉頭温存頸部食道切除(下咽頭後壁浸潤などにて超高位吻合を伴うもの)	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 頸部食道癌、中でも咽頭浸潤を伴うものは、手術の場合従来法では喉頭温存が困難であり声帯を含めた咽頭喉頭食道切除術が選択されるのが一般的である。当科では喉頭回転法を併用するなど視野展開を工夫しながら可及的に喉頭を温存し、QOLを保った頸部食道癌手術を心掛け、他院からも多くの紹介患者が来院している。			
医療技術名	表層拡大型食道早期癌に対する段階的内視鏡治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 食道表在癌のうち深達度ごく浅く粘膜に止まるものの多くは、内視鏡的粘膜下層剥離術を用いた一括切除により疾患のコントロールが期待できるが、切除範囲が広い場合は高度狭窄を来し患者のQOLの低下が生じる場合がある。当科では病変の一部を計画的に遺残させることで切除範囲を調整し、遺残部位にはアルゴンプラズマを用いた焼灼術を経時的に行い、狭窄予防を図りつつ、根治性を保つ治療を行っている。			
医療技術名	頸部食道浸潤T3下咽頭表在癌に対する経口的切除(ELPS+ESD)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 当科では1996年より食道癌に重複した頭頸部表在癌の内視鏡治療を開始し、現在300例500病変を超える治療経験を有している。頸部食道に浸潤した下咽頭表在癌はステージ3で一般的には経口的切除は困難で高度の技能を要するが頭頸部外科との協力で内視鏡治療と経口的切除をミックスして治療にあたり、喉頭温存可能な低侵襲治療を実現している。			
医療技術名	ロボット支援胃切除	取扱患者数	41
当該医療技術の概要 手術支援ロボット「ダビンチ・Xi」と「ダビンチ・X」を用いた胃切除術を行っている。手術支援ロボットの特長である、自然な3D画像、多関節機能、手振れのない手術操作により、従来の腹腔鏡手術と比較し、より精細な手術を行うことが可能となっている。術式は幽門側胃切除術、胃全摘術、噴門側胃切除術を施行している。			
医療技術名	ロボット支援鼠径ヘルニア修復術	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 ロボット支援ヘルニア修復術は、術後の疼痛軽減などに繋がるといわれているが、日本では保険適応外となっている。当院では高難度新規医療技術申請を行ない、ロボット支援下ヘルニア修復術を施行している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	67

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腹腔鏡下大腸全摘術	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 潰瘍性大腸炎の手術治療(大腸全摘)は、全身状態不良な患者が多く、時には緊急手術を要する場合があります、手術侵襲も高いことから高難度である。さらに腹腔鏡下大腸全摘術は手技の定型化が確立されておらず特に難易度が高い。一方で、腹腔鏡手術が完遂できた場合は、その手技の低侵襲性から術後回復は比較的速やかである。この腹腔鏡下手術を積極的に取り入れ、緊急下においても安全に施行し得ている。			
医療技術名	ロボット支援下大腸全摘術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 潰瘍性大腸炎(UC)に対する大腸全摘術では肛門管内における確実な直腸粘膜抜去および内肛門括約筋の温存が重要である。ロボット支援下大腸全摘術は手技の定型化が確立されておらず特に難易度が高い。一方で、特に骨盤内の緻密な操作に有用なロボット支援手術が完遂できた場合は、肛門機能・排尿障害・性功能障害などの後遺症のリスクを低減できるため、UC関連直腸癌症例、肥満症例、亜全摘後の残存直腸症例にロボットアプローチを適応としている。			
医療技術名	骨盤内臓器全摘術、ロボット支援下腹腔鏡下骨盤内臓器全摘術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 他臓器浸潤を伴うような高度進行直腸癌患者や直腸癌術後骨盤内局所再発患者に対する根治手術として骨盤内臓器全摘術が適応になることがあるが、腸管切除のみではなく泌尿生殖器臓器の合併切除と再建(人工肛門および回腸導管)が必要であり、高難度の術式である。中でも再発患者に対する手術については前手術の影響があり難易度がさらに上がる。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下直腸切除手術	取扱患者数	105
当該医療技術の概要 従来、開腹手術や腹腔鏡下手術で行ってきた直腸癌に対する前方切除術を手術支援ロボットを用いて行っている。ロボット支援下手術は、ロボットの特性や利点欠点を熟知した上で扱う必要があり、その特徴を最大限に活かすことによって、機能温存を保ちつつ確実な直腸癌根治術が可能となる。			
医療技術名	ロボット支援下腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	取扱患者数	67
当該医療技術の概要 従来、開腹手術や腹腔鏡下手術で行ってきた結腸癌に対する結腸悪性腫瘍切除術を手術支援ロボットを用いて行っている。手術支援ロボットの特性を活かして、腸管切除と再建を行い、より低侵襲で安全性の高い手術を実施することが可能となっている。			
医療技術名	乳癌における皮下乳腺全摘と腹部穿通枝脂肪弁を用いた同時再建	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 乳癌手術では、乳房皮膚を温存し全乳腺を切除する。その全乳腺の代用として腹部の脂肪を遊離移植(マイクロを用いた血管吻合あり)し、乳癌手術と同時に再建を行う。(形成外科との協力)			
医療技術名	遺伝性乳癌卵巣がん症候群の方に対する予防的乳房切除	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 遺伝科や婦人科と共同で診療にあたり、BRCA遺伝子変異が認められた方に行われる、高い倫理性が求められる手術である。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 開腹手術ではなく腹腔鏡手術下に肝切除を行なう。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	234

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腹腔鏡下膵体尾部切除術	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 開腹手術ではなく腹腔鏡手術下に膵体尾部切除を行なう。			
医療技術名	腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 開腹手術ではなく腹腔鏡手術下に膵頭十二指腸切除を行なう。			
医療技術名	ロボット支援下膵体尾部切除術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 開腹手術ではなくロボット支援下に膵体尾部切除を行なう。			
医療技術名	ロボット支援下膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 開腹手術ではなくロボット支援下に膵頭十二指腸切除を行なう。			
医療技術名	ロボット支援下肝部分切除術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 開腹手術ではなくロボット支援下に肝部分切除を行なう。			
医療技術名	難治性てんかんに対する迷走神経刺激	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 薬剤コントロール困難な難治性てんかん症例において、手術で迷走神経刺激装置を埋め込むことで発作を緩和する			
医療技術名	術中脳波、ナビゲーションシステム等マルチモダリティによるてんかん焦点	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 てんかん症例において、手術中に脳波、PETガイド、MRIナビゲーションを使用することでより効果的で安全性の高い焦点切除術を遂行する			
医療技術名	頭頸部および頭蓋底の腫瘍に対する手術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 脳神経外科、頭頸部外科、形成外科、耳鼻咽喉科の医師がチームとして頭頸部、頭蓋底部、ないしはその両方にまたがる腫瘍症例の摘出術を遂行する			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
扱い患者数の合計(人)	50

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	Met-PETガイド悪性脳腫瘍摘出術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 手術前に施行したアミノ酸代謝PETにおける結果(アミノ酸の悪性腫瘍細胞への取り込み)をもとに、適切な手術範囲の計画や手術中のガイド(摘出部位、摘出範囲)に役立てる			
医療技術名	非造影MRIによるASL perfusion MRI	取扱患者数	250
当該医療技術の概要 脳虚血性疾患(頭蓋内動脈狭窄/閉塞症、頸動脈狭窄/閉塞症、もやもや病、など)において、造影剤を使用することなく非侵襲に脳循環動態を計測することができる			
医療技術名	治療困難な脳動脈瘤に対するFlow diverterステント留置術	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 通常のコイル塞栓術(ステント併用を含む)では治療困難な脳動脈瘤に対して、動脈瘤内にコイルを留置することなく下記のステントとは全くことなるflow diverterステントのみを留置して動脈瘤を閉塞する新たな治療法。術者と実施施設が限定された治療法のため他の脳神経外科施設から治療依頼がある。			
医療技術名	硬膜動静脈瘻に対する塞栓術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 稀少な疾患、かつ重篤化する可能性のある硬膜動静脈瘻に対し、脳血管造影による適切な診断を基に、適切な治療法を決定する。血管内治療が可能な症例については、カテーテルを用いて「コイル」や「液体塞栓物質」を用いて標的血管をつめる治療を行う。			
医療技術名	膝前十字靭帯再建術	取扱患者数	63
当該医療技術の概要 関節鏡視下に解剖学的に前十字靭帯を再建する。			
医療技術名	膝複合靭帯損傷	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 膝複合靭帯損傷に対し鏡視下に靭帯を再建する。			
医療技術名	両側同時人工膝関節置換術	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 人工膝関節置換術を両側同時に施行する。			
医療技術名	半月板逸脱に対する関節鏡視下手術	取扱患者数	141
当該医療技術の概要 関節鏡視下に骨棘切除、関節包解離の後逸脱した半月板をアンカーを用いて内方化する。 また軟骨欠損に対する処置も併せて行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
扱い患者数の合計(人)	536

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	初期変形性膝関節症に対する膝周囲骨切り術	取扱患者数	91
当該医療技術の概要 大腿骨・脛骨を骨切りし、変形した膝関節のアライメントを矯正する。			
医療技術名	一期的両側人工股関節置換手術	取扱患者数	22
当該医療技術の概要 人工股関節置換手術を一度の麻酔のもとで、左右同日に行い、術後早期の回復と入院期間短縮を可能にする			
医療技術名	神経機能モニタリング下の人工股関節置換手術	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 下肢延長を伴う人工股関節置換手術において、下肢末梢神経延長に伴う麻痺を防止する技術			
医療技術名	脊髄誘発磁界測定による脊髄機能診断	取扱患者数	74
当該医療技術の概要 脊髄の電気活動が発生するごく微弱な磁界を測定し、脊髄機能を体表面から診断する技術。			
医療技術名	経頭蓋電気刺激筋誘発電位を用いた術中脊髄・末梢神経機能モニタリング	取扱患者数	130
当該医療技術の概要 脳を経頭蓋電気刺激し四肢の筋より筋誘発電位を測定することで、全身麻酔手術中に脊髄や末梢神経の機能をモニタリングし、安全に脊椎手術をおこなう技術。			
医療技術名	腫瘍脊椎骨全摘術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 脊椎に存在する腫瘍を一塊として摘出する手術。			
医療技術名	術中CTナビゲーションを使用した脊椎手術	取扱患者数	38
当該医療技術の概要 脊椎手術中にCT撮影を行うことで、除圧やスクリュー刺入の精度を高めたより安全な手術をおこなう技術。			
医療技術名	表面筋電図を用いた脊椎後弯症患者の痛みの客観的評価	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 脊椎後弯症患者の疲労性腰痛を表面筋電図の波形を用いて客観的に分析評価する技術			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
扱い患者数の合計(人)	384

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	人工骨と自己骨髄血を用いた、骨採取の必要のない脊椎固定術	取扱患者数	24
当該医療技術の概要 脊椎固定術をハイドロキシアパタイト/コラーゲン人工骨および自己骨髄血を用いてを行うことで、術後の採骨部痛を起こさない技術。			
医療技術名	原発性無汗症に対するステロイドパルス療法	取扱患者数	150
当該医療技術の概要 汗が出ないことにより、日常生活の行動に制限が出てしまう疾患で、指定難病であるが、それらの症例に対してステロイドパルス療法を施行することによって良好な結果を得ている。			
医療技術名	原発性無汗症に対する発汗検査	取扱患者数	106
当該医療技術の概要 汗が出ないことにより、日常生活の行動に制限が出てしまう疾患で、指定難病であるが、それらの症例の診断に必須である発汗検査を行い、上記のステロイドパルス療法へ繋げている。			
医療技術名	悪性黒色腫に対する免疫療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 抗PD-1抗体や抗CTLA4抗体を使用した新規の免疫療法を悪性黒色腫に対して行い、良好な経過を得ている。			
医療技術名	悪性黒色腫に対する分子標的療法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 BRAF阻害剤・MEK阻害剤を使用した新規の分子標的療法を悪性黒色腫に対して行い、良好な経過を得ている。			
医療技術名	難治性痒疹患者のNB-UVB療法	取扱患者数	34
当該医療技術の概要 難治性痒疹は通常の外用療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例に対して、narrow band UVBを照射するという治療を行っており、良好な結果を得ている。			
医療技術名	重症アトピー性皮膚炎のNB-UVB療法	取扱患者数	52
当該医療技術の概要 重症アトピー性皮膚炎の加療は、ガイドラインで示される通常の外用、内服療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例において、narrow band UVBを照射するという治療を併用しており、良好な結果を得ている。			
医療技術名	重度アトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤療法	取扱患者数	71
当該医療技術の概要 重症アトピー性皮膚炎の加療は、ガイドラインで示される通常の外用、内服療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例において、新規生物学的製剤を併用しており、良好な結果を得ている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
扱い患者数の合計(人)	445

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	重度アトピー性皮膚炎に対するJAK阻害薬投与	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 重症アトピー性皮膚炎の加療は、ガイドラインで示される通常の外用、内服療法ではなかなかコントロールが難しい。そのような症例において、新規JAK阻害薬を併用しており、良好な結果を得ている。			
医療技術名	重症乾癬に対する生物学的製剤療法	取扱患者数	53
当該医療技術の概要 乾癬は慢性に経過する炎症性皮膚疾患の代表的なものである。重症な本疾患に対して、生物学的製剤の投与が保険適応となった。当科においても重症例に対して使用しており、良好な効果を得ている。			
医療技術名	自己免疫性水疱症に対する免疫抑制療法	取扱患者数	1141
当該医療技術の概要 自己免疫性水疱症(尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡など)は、皮膚科で入院を要する疾患の代表的なものであり、指定難病である。当科においても入院下にて高用量ステロイドや免疫抑制剤、大量ガンマグロブリン療法、血漿交換療法などを施行し、良好な効果を得ている。			
医療技術名	Stevens-Johnson症候群・中毒性表皮壊死症に対する免疫抑制療法	取扱患者数	61
当該医療技術の概要 Stevens-Johnson症候群・中毒性表皮壊死症は、致死的で後遺症を残す重症薬疹であり、指定難病である。当科においても入院下にて高用量ステロイドや免疫抑制剤、大量ガンマグロブリン療法、血漿交換療法などを施行し、良好な効果を得ている。			
医療技術名	神経線維腫症1型に対する診療	取扱患者数	144
当該医療技術の概要 神経線維腫症1型は遺伝性疾患で、指定難病である。当科では、診断を皮膚科的診察で行い、適宜、合併症検索と腫瘍切除術を行っている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除	取扱患者数	83
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下前立腺全摘除である。現在では標準術式としてほぼ確立しており、本邦でも前立腺全摘除の80%以上が本術式で行われているとされているが、比較的難易度の高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀する形となっている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除	取扱患者数	23
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下膀胱全摘除である。手術侵襲を低減するべく、本邦でも普及が進んできている手術である。比較的難易度の高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀する形となっている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除	取扱患者数	32
当該医療技術の概要 小径の腎腫瘍の多くは腎部分切除の適応となる。手術支援ロボット(da Vinciサージカルシステム)を用いた腹腔鏡下腎部分切除はその低侵襲性から標準術式となりつつあり、術中腎血流遮断時間の短縮や出血の低減、疼痛の軽減、入院期間の短縮などを可能としている。難易度は比較的高い手術であり、十分なトレーニングを積み、Certificateを受けた者のみが術者として執刀を行っている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	1,539

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 骨盤臓器脱に対する外科治療において、高い有効性や安全性から腹腔鏡下仙骨腔固定術は世界的な標準治療として広く普及していた。腹腔鏡下仙骨腔固定術にとって高難度の操作性が欠点であったが、内視鏡手術用支援ロボットの導入により克服され、今後ますます普及すると考えられる。当院では泌尿器科・婦人科合同のロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術チームを結成し、より綿密な治療を提供できる体制を整えており、近隣の泌尿器科・婦人科より多くの紹介を受けている。			
医療技術名	ミニマム創内視鏡下手術(腹腔鏡下小切開手術)	取扱患者数	36
当該医療技術の概要 ガスレス・シングルポート・後腹膜アプローチの低コストをみたく先端的低侵襲手術。対象臓器はすべての泌尿器科臓器(副腎・腎・尿管・膀胱・前立腺)。頭部装着型立体ディスプレイを用いたガスレス・シングルポート・ロボサーजन型手術を開発し、2011年途中より行っている。			
医療技術名	浸潤性膀胱癌の膀胱温存療法	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 筋層浸潤性膀胱癌の標準的根治治療は膀胱全摘であるが、一部の患者では膀胱を摘出せずに根治可能であることが知られている。これより、適切な症例選択のもと、膀胱腫瘍の最大限の経尿道的切除後に化学放射線療法を施行する膀胱温存療法を施行している。また、当科で規定している基準を満たす転移のない筋層浸潤性膀胱癌患者に対し、膀胱腫瘍の最大限の経尿道的切除後に化学放射線療法、さらにミニマム創内視鏡下膀胱部分切除および骨盤リンパ節郭清を組み合わせた膀胱温存療法を、倫理審査委員会の承認のもとに行っている。			
医療技術名	腎癌の無阻血低侵襲腎部分切除術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 小径の腎腫瘍の多くは腎部分切除の適応となるが、通常は出血をコントロールする目的で術中に腎血流遮断が行われ、術後腎機能低下や仮性動脈瘤発生などのリスクがある。術後の腎機能を良好に保ち合併症を回避するために、腎血流を遮断しない術式を開発し、施行している。			
医療技術名	前立腺癌の前立腺部分治療	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 限局性前立腺癌の根治療法(前立腺全摘除、放射線療法)は治療による合併症やQOL低下を伴う場合がある。一方、積極的待機療法(無治療経過観察)も標準治療の一つであるが、根治の機会を逃す可能性への不安を伴う場合も少なくない。十分な治療効果を持ち、かつ合併症の少ない治療法として、前立腺を部分的に治療する前立腺部分治療を適応を満たす患者に導入している。本治療は倫理委員会の承認のもとに行われている。			
医療技術名	MRI/経直腸超音波画像弾性融合前立腺針生検法	取扱患者数	227
当該医療技術の概要 高齢化社会において増加している前立腺癌の患者の診断をより正確に行うべく、前立腺針生検の検査前にMRIを施行し、電磁追跡型装置であるUroNav(InVivo社)を用いてMRI画像を生検時の経直腸超音波画像にリアルタイムで弾性融合させることにより、より精度の高い前立腺針生検を行うことを可能としている。従来超音波では検出不能とされている癌もMRI所見を融合させることにより十分検出可能となる。			
医療技術名	重度尿失禁患者に対する人工尿道括約筋埋込/交換	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 男性の前立腺全摘術や経尿道的前立腺切除術に伴う尿道括約筋の損傷により、一定頻度で重度の尿失禁が引き起こされ、患者のQOLを著しく下げてしまう。従来治療抵抗性であったこれらの尿失禁に対して、人工尿道括約筋埋込術は現在根治的に尿失禁を改善できる保険適応のある唯一の方法とされる。当院は先進医療や保険に収載される前から本手術を行っており、日本でも有数の人工尿道括約筋埋込施設として全国から患者が集まってきている。			
医療技術名	間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張	取扱患者数	12
当該医療技術の概要 希少疾患である間質性膀胱炎は2015年より難病指定を受け(ハンナー潰瘍を伴うものに限る)、今後ようやく検査・治療が発展していくものと予想される。間質性膀胱炎に対する唯一の保険適応のある治療が膀胱水圧拡張であるが、当院では先進医療であった時期より積極的に本手術を行っており、現在もコンスタントに患者が集まってきている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	323

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	下大静脈あるいは右心房までの浸潤を伴う腎癌に対する、根治的腎摘除および腫瘍塞栓摘除	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
腎癌においては、しばしば下大静脈、あるいは右心房にまで到達するような腫瘍塞栓を形成することがあり、治療としては、根治的腎摘除に加え、下大静脈あるいは右心房を切開し腫瘍塞栓を摘除する必要がある。本手術は、ときに体外循環を要するなど、術後管理も含め非常に高度な技術や知識を要求される。			
医療技術名	エクस्प्रेस インプラント 緑内障手術	取扱患者数	13
当該医療技術の概要			
内障手術。2012年5月に保険適用となった直径は380 μ m(0.38mm)、全長2.6mmの新しいインプラント装置であるEX-PRESSを眼球内に挿入し、安定かつ合併症の少ない安全な術後眼圧管理が可能になる			
医療技術名	多焦点眼内レンズを使用した白内障手術	取扱患者数	39
当該医療技術の概要			
通常の白内障手術の単焦点レンズに加え、多重焦点レンズを使用する白内障手術。老眼の解消になり、多様化する患者のニーズに答えている。			
医療技術名	前房水PCRでの診断治療	取扱患者数	73
当該医療技術の概要			
これまで原因不明であるぶどう膜炎に対して有用であり、診断がつくことで治療方針の決定に役立っている。			
医療技術名	側頭骨頭蓋底腫瘍の手術加療	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
外耳道癌は100万人に一人とも言われるきわめて稀な疾患であり、その手術加療を行える施設は極めて限られる。当科では外耳道癌に対する外側側頭骨切除ならびに側頭骨全摘術に関し国内屈指の症例数をもつ。また、脳神経外科と共同で頸静脈孔腫瘍の手術も施行している。その他の側頭骨頭蓋底腫瘍の手術も多数行っている。また最近では、外視鏡ORBEYEの導入や、OarmとStealthStationを用いた最先端の術中CTナビゲーションによる手術リスクの低減も行っている。COVID-19感染拡大により、症例数はまだ回復していない。			
医療技術名	人工内耳埋込術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要			
内耳障害により両側聾となった症例に対し、人工内耳埋込による聴覚の再獲得が可能となる。当科では本手術と術後の人工内耳のマッピングを継続して施行している。また、残聴保存型人工内耳や人工中耳、BAHAなどの埋込術も施行している。COVID-19感染拡大により、症例数はまだ回復していない。			
医療技術名	めまいの手術治療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
メニエール病や遅発性内リンパ水腫に対する内リンパ嚢開放術、良性発作性頭位めまい症に対する半規管遮断術などめまいに対する内耳手術を施行している。COVID-19感染拡大により、症例数はまだ回復していない。			
医療技術名	4K内視鏡を用いた経外耳道内視鏡下耳科手術	取扱患者数	50
当該医療技術の概要			
低侵襲の経耳的内視鏡下耳科手術に最新の4K内視鏡を導入し、低侵襲かつ安全な手術を行っている。COVID-19感染拡大により、症例数はまだ回復していない。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	213

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	頭蓋底手術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 頭蓋内外にわたる領域の腫瘍性病変の手術は各専門科の連携と、高度の手術技術が必要である。高度な術後管理体制も必要とする。			
医療技術名	的咽頭悪性腫瘍切除手術(ELPS: Endoscopic Laryngo-Pharyngela surgery)	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 咽頭表在癌に対する経口的切除術は、低侵襲治療として有用である。先進的な治療であり高度の医療技術が必要である。			
医療技術名	小児悪性腫瘍手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 小児悪性腫瘍の手術は各専門科の連携と、高度の手術技術が必要である。高度な術後管理体制も必要とする。			
医療技術名	頭頸部悪性腫瘍に対する化学放射線療法	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 頭頸部癌に対する化学放射線療法は、高い効果が得られるが有害事象も多い。高度の治療管理技術と高度の管理体制の整備が必要である。			
医療技術名	再発転移頭頸部癌に対する光免疫療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 頭頸部がん専門医認定施設で頭頸部がん専門医のみ施行可能な治療である。分子標的薬を点滴投与翌日に患部に対して近赤外線を照射する治療。			
医療技術名	強度変調放射線治療	取扱患者数	248
当該医療技術の概要 限局性悪性腫瘍に対し照射野内の放射線強度を変調させながら照射する技術で、従来よりも照射標的の形状に一致した線量分布を得ることができる			
医療技術名	定位放射線治療	取扱患者数	41
当該医療技術の概要 5cm以下の小さな腫瘍に対し、4D-CTを用いて呼吸状態などの体の生理的可動域を加味しながら、小さな照射標的に複数の狭小X線ビームを用いて短期間に大量の線量を照射する技術。			
医療技術名	小線源治療	取扱患者数	127
当該医療技術の概要 口腔癌および前立腺癌に対しては低線量率線源を用い、子宮や乳腺に対しては高線量率線源を用いて、患部に直接的に線源を挿入し、専用コンピュータを用いた線量評価を行いながら病変を直接照射する技術。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類の数	8
扱い患者数の合計(人)	495

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ド受容体放射性核種療法 (Peptide Receptor Radionuclide Therapy; PRRT)	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 ソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍に対する治療。ソマトスタチン類似物質に放射性同位元素のルテチウム177を標識した医薬品(ルタテラ)を投与し、ソマトスタチン受容体に結合し、ルテチウム177から放出される放射線ががん細胞を直接攻撃する。			
医療技術名	神経筋疾患の遺伝子診断(厚生労働省 高度先進医療Aに該当)	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 当科では、本学に受診された患者さんに必要な遺伝子診断を行っている。さらに、学外からの依頼も受けており、2020年度は20名の患者の遺伝子診断を行った。また、未診断疾患イニシアチブ Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases (IRUD)の拠点病院としての役割も分担している。			
医療技術名	脳表シデロースに対する硬膜瘻孔閉塞術や鉄キレート剤デフェリプロン投	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 脳表ヘモジデリン沈着症は種々の原因で中枢神経系の軟膜下層にヘモジデリンが沈着し、小脳障害、聴神経障害、嗅覚障害、脊髄障害などの中枢神経障害を引き起こす難病である。当院では、整形外科で硬膜瘻孔閉塞術、耳鼻科で人工内耳移植術、脳神経内科で鉄キレート剤投与によるヘモジデリン除去療法の臨床治験を行っている。昨年度までに35例の瘻孔閉鎖術を施行し、鉄キレート剤の内服は19例(うち10例は内服終了)し、3例が近日中に開始予定で、人工内耳移植術は3例で施行され、それぞれ有益な結果が得られている。多施設共同研究を行っている。			
医療技術名	植込型補助人工心臓 (BTT)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 従来の治療法では救命できない重症心不全に対して心臓移植までのつなぎとして使用される植込み型の補助人工心臓治療である。植込型補助人工心臓は以前に使われていた体外型補助人工心臓と比べ、脳血管合併症や感染症の頻度が低く、術後は外来通院をしながら自宅にて移植待機が可能となる。			
医療技術名	植込型補助人工心臓 (DT)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 心臓移植までのつなぎとして使用される植込み型の補助人工心臓治療(BTT)に対して、心臓移植を前提としない植込型補助人工心臓を指す。			
医療技術名	ハートシート移植	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 世界初※となる心不全治療用の再生医療製品。虚血性心疾患による重症心不全を対象として自家細胞から製造した本品をシート状に調製し、心臓表面に移植する治療。			
医療技術名	iPS細胞を用いた心筋再生治療薬HS-001	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 他家iPS細胞由来の純化精製心筋細胞を微小組織(心筋球)にしたものを冠動脈バイパス術中に心筋に直接打ち込む治療。重症心不全に対して開発中の再生医療等製品。			
医療技術名	肺尖部胸壁浸潤肺癌に対する術前化学療法放射線併用療法後の外科治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 肺尖部胸壁浸潤肺癌(Pancoast肺癌)に対して術前化療放射線併用療法後に肺切除術			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	80

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	局所進行肺癌 (cN2, T4) に対する術前化学療法放射線併用療法後の外科	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 IIIA/B期 非小細胞肺癌に対して術前化療放射線併用療法後に肺切除術			
医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する根治的胸膜摘除および術中胸腔内温熱抗癌剤灌流療法	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 悪性胸膜中皮腫に対する根治的胸膜摘除および術中胸腔内温熱抗癌剤灌流、術後抗癌剤化学療法の集学的治療			
医療技術名	胸部悪性腫瘍に対する気管・気管支形成術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 気道中枢に位置する胸部悪性腫瘍に対して、根治性と機能温存の両者を追求する気管・気管支形成術			
医療技術名	びまん性肺疾患に対するMDD診断	取扱患者数	50
当該医療技術の概要 びまん性肺疾患は稀少疾患を多く含み、診断が困難なことが多い。国際ガイドラインや本邦のガイドラインでは呼吸器専門医、胸部専門の放射線科医、肺病理専門の病理医の3者が合議し診断することが推奨されている (MDD (multidisciplinary discussion) 診断)。日本呼吸器学会びまん性肺疾患学術部会では MDD診断の普及を進めているが、3つの領域の専門医が揃っている施設は全国でも少ないのが現状である。当院では2020年にクライオバイオプシーを導入し以後 2回/月の頻度でMDD診断を実施している。			
医療技術名	慢性過敏性肺炎疑い例に対する抗原回避試験	取扱患者数	40
当該医療技術の概要 過敏性肺炎は特発性肺線維症など複数のびまん性肺疾患と臨床経過、画像、病理所見とも酷似しており一般の呼吸器内科では診断が困難な疾患である。近年、国際的にも注目されている疾患であり2020年にはじめて国際ガイドラインが作成された。環境中の抗原が原因である過敏性肺炎では診断の要諦は環境と疾患との関連を明らかにすることであるが、当院では積極的に抗原回避試験 (原因として疑わしい環境因子の除去や入院による改善の有無の評価) を実施し過敏性肺炎の鑑別を行っている。			
医療技術名	間質性肺炎合併肺癌に対する積極的な化学療法の実施	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 間質性肺炎ではしばしば肺癌の合併がみられる。特発性肺線維症では5~30%が肺癌を合併、相対リスクが7~14倍と報告されている。進行例の場合は化学療法の適応だが、薬剤投与が契機となり間質性肺炎の急性増悪を発症するリスクがあることから薬物療法の選択は限られ、一般の呼吸器内科では治療困難と判断する場合が少なくない。当院では間質性肺炎の豊富な臨床経験を生かし、間質性肺炎合併肺癌に対し積極的に化学療法を実施している。			
医療技術名	マイクロサージャリー (皮弁、リンパ浮腫など)	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 手術用顕微鏡を用いて、微小血管吻合、神経吻合やリンパ管静脈吻合を行い、遊離組織移植、知覚再建やリンパ浮腫に対する治療を行っている。			
医療技術名	穿通枝皮弁、その他の自家組織による乳房再建	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 乳腺外科と協力して乳がん切除と乳房再建を実施している。各種の穿通枝皮弁などの自家組織では放射線科と協力しMDCTによる血管評価、3Dカメラを用いたシミュレーションを行っている。2021年10月より、第二種再生医療を用いた脂肪注入治療を開始した。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること (当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計 (人)	181

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	赤外観察カメラシステムを用いた各種皮弁の血行評価、リンパ管走行評価	取扱患者数	31
当該医療技術の概要 より安全・確実に組織移植、リンパ管走行確認ができるように上記システムを利用した手術や研究を行っている。			
医療技術名	虚血肢に対する集学的治療	取扱患者数	51
当該医療技術の概要 血管外科、放射線科、内科、皮膚科と協力して血管内治療、バイパス治療、血管再生治療、遊離組織移植の技術を用いて、できるだけ組織を温存し歩行機能を考慮した治療を行なっている。			
医療技術名	多項目迅速ウイルスPCR法によるウイルス感染症の早期診断	取扱患者数	73
当該医療技術の概要 先進医療Aとして、血液中のウイルスDNAをPCR法を用いて定量することにより、造血幹細胞移植後の患者に合併するウイルス感染症の確定診断や治療効果判定に寄与した。			
医療技術名	ウイルスに起因する難治性の眼感染症患に対する迅速診断(PCR法)	取扱患者数	60
当該医療技術の概要 先進医療Aとして、眼房水中のウイルスDNAをPCR法を用いて定量し、眼ウイルス感染症の確定診断や治療効果判定に寄与した。			
医療技術名	新型コロナウイルスの変異株スクリーニングPCR検査	取扱患者数	1306
当該医療技術の概要 新型コロナウイルスPCR検査の陽性例に対して、変異の有無を解析するPCR検査(解離曲線解析)を行い、種々の変異株を同定した。			
医療技術名	血漿交換	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 病因物質を含む血漿を廃棄し、それと同量の新鮮凍結血漿もしくはアルブミン溶液を補充する、まさしく血漿を交換する治療法である。難病を中心とした難治性自己免疫性疾患(例:血栓性血小板減少性紫斑病、重症筋無力症、全身性エリマトーデス)などに対して施行することが多く、救命や病態寛解のため必要となる。			
医療技術名	血漿吸着	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 血漿を吸着カラムに通すことにより病因物質を除去する治療法である。当院では難病である家族性高コレステロール血症や巣状糸球体硬化症、閉塞性動脈硬化症などに対してLDL吸着(レオカーナ 含む)を、自己免疫性疾患に対し免疫吸着を行っている。			
医療技術名	リンパ球/顆粒球吸着(白血球除去療法)	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 難病である潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に対して、病因の1つである活性化したリンパ球を吸着療法により除去することにより、病勢のコントロールを行っている。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	1,570

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腹水濾過濃縮再静注	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 ほかの様々な治療法では治療困難な難治性腹水症の患者の腹水を取り出し、それを濾過及び濃縮し、患者に再静注する治療法であり、癌や肝硬変による大量腹水のコントロールを行っている。			
医療技術名	膝関節靭帯再建、半月板縫合、骨切り術後選手に対する術前から競技復帰までのアスレティックリハビリテーションおよびリコンディショニング	取扱患者数	111
当該医療技術の概要 膝関節靭帯損傷は代表的なスポーツ外傷であり、スポーツ活動の継続を希望する選手には靭帯の再建手術が治療の第一選択となる。スポーツ活動の再開、元の競技レベルへの復帰には、術後早期からの適切な診断と、専門的なリハビリテーションおよびコンディショニングが不可欠である。本学では、整形外科と連携しながら、術前からスポーツ復帰に至るまで科学的根拠に基づいて選手をサポートしている。選手の膝機能やスポーツパフォーマンスに関する診療データを蓄積・分析するシステムを構築し、常に情報をアップデートしながら選手に還元している。半月板損傷例や複合靭帯損傷例に加えて、大腿骨および脛骨の骨切り術後症例にも対応し、再損傷率を抑えながら、高い競技復帰率を誇っている。			
医療技術名	早期スポーツ復帰に向けた運動器外傷に対する高気圧酸素治療	取扱患者数	57
当該医療技術の概要 捻挫、肉離れ、靭帯損傷等の軟部組織外傷や骨折等の急性期における高気圧酸素治療は、外傷の治癒促進となるエビデンスが我々の示したものを含め複数存在する。オリンピック選手/プロ選手やトップアスリート等、可及的早期にスポーツ競技復帰を望む選手やチームからの社会的要請は高い。本学では、スポーツ選手における軟部組織外傷急性期の診療体制を確立しており、高度医療の提供と位置づけている。			
医療技術名	難治性疾患である放射線照射後の晩期障害に対する高気圧酸素治療	取扱患者数	45
当該医療技術の概要 遅発性放射線障害である出血性膀胱炎、出血性腸炎、放射線性咽頭炎等は難治性である。出血がコントロールされない放射線性出血性膀胱炎では、定期的な輸血や膀胱摘出術などの処置を要することも多い。高気圧酸素治療は80%以上の有効性がある。全国的には本疾患に対する高気圧酸素治療を実施している施設は希少で、本学の治療は高度医療と位置づけられる。実際に、高気圧酸素治療目的での他院からの紹介が多くなっている。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞移植	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血・細胞治療センターでは末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。			
医療技術名	同種骨髄移植	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。HLAハプロ一致(半合致)移植が増えている(血縁者間移植は5例中4例がハプロ一致移植であった)。輸血・細胞治療センターでは骨髄バンクドナーを含む採取、移植細胞の評価、血液型不適合移植の場合の処理を担当している。			
医療技術名	同種末梢血幹細胞移植	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。HLAハプロ一致(半合致)移植が増えている(血縁者間移植は6例中5例がハプロ一致移植であった)。輸血・細胞治療センターでは末梢血に動員された造血幹細胞の成分採血による採取と細胞の評価、凍結保存を実施している。			
医療技術名	CAR-T細胞療法	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血・細胞治療センターでは末梢血からのリンパ球採取と細胞の評価、凍結保存、細胞の製造所への送付と、遺伝子改変後の細胞製剤の受け入れおよび管理を実施している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	261

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ヒト間葉系幹細胞	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 血液内科・小児科が主たる診療科として取り組んでいる。輸血・細胞治療センターでは製剤の保管管理および使用前の調製を担当している。			
医療技術名	クリオシール(自己生体組織接着剤)	取扱患者数	44
当該医療技術の概要 患者自己血から自己生体組織接着剤を調製し、術中止血に使用する。周産女性診療科、脳神経外科を中心に利用されている。			
医療技術名	PRP膝関節内注射	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 整形外科が主たる診療科として取り組んでいる。PRP治療は患者自身の血液から抽出した血小板多血漿を患部に注射で投与することにより患部の疼痛の軽減を目的とする治療である。輸血・細胞治療センターではPRP調整のための採血、およびPRP調整を担当している。			
医療技術名	PRP股関節内注射	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 整形外科が主たる診療科として取り組んでいる。PRP治療は患者自身の血液から抽出した血小板多血漿を患部に注射で投与することにより患部の疼痛の軽減を目的とする治療である。輸血・細胞治療センターではPRP調整のための採血、およびPRP調整を担当している。			
医療技術名	筋・腱・靭帯損傷・障害部へのPRP注射	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 整形外科が主たる診療科として取り組んでいる。PRP治療は患者自身の血液から抽出した血小板多血漿を患部に注射で投与することにより患部の疼痛の軽減を目的とする治療である。輸血・細胞治療センターではPRP調整のための採血、およびPRP調整を担当している。			
医療技術名	大動脈バルーンパンピング法(IABP)	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 急性心筋梗塞後の心原性ショックや急性心筋梗塞に伴う心室中隔穿孔や僧帽弁閉鎖不全、開心術後のポンプ機能不全が適応となる。胸部下降大動脈に留置したバルーンを、駆動装置を用いて心拍に同期させて収縮・拡張させる装置である。心臓の拡張期にバルーンを拡張することによって、大動脈圧拡張末期圧を上昇させ冠血流量を増加させる効果と、収縮期直前にバルーンを急速に収縮させ拡張末期圧を低下させ心拍出を容易にする効果を有する。			
医療技術名	経皮的心肺補助装置(PCPSあるいはVA-ECMO)	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 緊急心蘇生や重症心不全に対する循環補助が適応となる。大腿静脈から遠心ポンプにより脱血した静脈血を、膜型人工肺を用いて酸素化し動脈血として大腿動脈に沿う血閉鎖回路による補助循環である。			
医療技術名	VV-ECMO	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 遠心ポンプと膜型人工肺を用いた閉鎖回路の人工心肺装置をもちいて、呼吸補助を行う装置である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	99

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	持続腎代替療法 (CRRT)	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 急性腎傷害を合併した循環動態が不安定な重症患者が適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し、小型の濾過器を用い限外濾過により持続的に体液を脱水する。同時に透析液を流すことによって、拡散によっても物質を除去する血液浄化療法である。24時間以上持続して施行する			
医療技術名	Plasma exchange (PE): 血漿交換	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 劇症肝炎、多発性骨髄腫、薬物中毒、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎などが適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し血漿成分だけを分離し、その血漿成分は破棄する。その代替として新鮮凍結血漿あるいは5%アルブミン製剤で補う血液浄化療法である。血漿中に存在する病因関連物質や病態を悪化させている物質を除去する治療法である。			
医療技術名	Polymyxin B-immobilized fiber column hemoperfusion (PMX): エンドトキシン吸着療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 グラム陰性菌感染によるエンドトキシンショックが適応となる。ブラッドアクセスを介して、血液を体外に導出し、エンドトキシンの吸着剤であるポリミキシンBを不溶性の線維に固定したカラム(トレミキシン)に灌流させ、エンドトキシンを吸着除去した後、血液を体内に戻す血液浄化療法である			
医療技術名	左心補助人工心臓 (LVAS)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 治療抵抗性の急性重症心不全と末期的慢性重症心不全の場合に適応となる。左室から脱血し、血液ポンプを用いて上行大動脈に送血することにより、左室ポンプ機能をほぼ100%代行できる補助循環装置である。			
医療技術名	右心補助人工心臓 (RVAS)	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 左心補助人工心臓駆動下において内科的治療に反応しない右心不全の場合に適応となる。右房から脱血し、血液ポンプを用いて肺動脈に送血することにより、右室ポンプ機能を100%代行できる補助循環装置である。			
医療技術名	IMPELLA	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 インペラ(IMPELLA)とは、左心室負荷を直接軽減する補助人工心臓の一つで、小型モーターを内蔵したポンプカテーテルを、経皮的に大動脈などから心臓の左心室に挿入する左室補助循環装置である、			
医療技術名	染色体異常に対する出生前診断	取扱患者数	232
当該医療技術の概要 出生前診断として、クアトロ検査6件・NIPT221件・羊水染色体検査5件の実施および、染色体異常・先天異常の疾患概要、検査のメリット・デメリット・リスクの説明を行っている。			
医療技術名	遺伝性疾患に対する遺伝カウンセリングおよび遺伝子診断(確定診断・発症前診断・保因者診断)、出生前診断に対する遺伝カウンセリング	取扱患者数	822
当該医療技術の概要 各種遺伝性疾患の遺伝リスクの説明、家族に対する遺伝リスクの説明を行っている。また、院内臨床各科との連携によって遺伝性腫瘍等の遺伝性疾患に対する遺伝子検査(確定診断、発症前診断)、および小児期発症の遺伝性疾患に対する保因者診断を実施している。加えて、院内関連診療科との連携および院外連携病院からの紹介によって、出生前診断に対する遺伝カウンセリングを実施している			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取り扱い患者数の合計(人)	1,097

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	遺伝性がん症候群の遺伝子診断	取扱患者数	66
当該医療技術の概要			
遺伝性乳がん・卵巣癌症候群、リンチ症候群、Von Hippel-Lindau病、Gorlin病など腫瘍関連症候群の、66件について遺伝子診断を実施し、うち陽性例が10件あり適切に対応している。			
医療技術名	遺伝性心疾患の遺伝子診断	取扱患者数	7
当該医療技術の概要			
先天性QT延長症候群、心筋症、家族性高コレステロール血症、マルファン症候群などの遺伝学的検査を7件実施し、循環器領域のエキスパートパネルを通して5件の陽性例を認めた。1件については「臨床的意義不明の変異VUS」であった。今後、活用が広がっていく領域であると考えられる。			
医療技術名	がんゲノム医療	取扱患者数	162
当該医療技術の概要			
標準治療で進行した又は進行見込みの患者に対して、がん遺伝子パネル検査を実施し、検出された遺伝子変異に基づき個別化治療を行う。			
医療技術名	術後のアスピリン経口投与療法	取扱患者数	6
当該医療技術の概要			
Stage III (UICC-TNM分類 第7版)の下部直腸を除く大腸癌[結腸(C、A、T、D、S)、直腸S状部(RS)、上部直腸(Ra)]の治療切除患者を対象とし、術後補助療法として低用量アスピリンを併用することが、プラセボに対して、無病生存期間において優れていることを検証する。JCOG1503C試験 先進医療Bの制度下のもとJCOG大腸がんグループ参加施設により実施し、公知申請を目指す。			
医療技術名	16S rRNAシーケンスによる細菌の同定	取扱患者数	24
当該医療技術の概要			
細菌がもつ16S rRNA遺伝子をPCRにて増幅し、次世代シーケンサーにて解析することで細菌の存在と菌種を明らかにする。通常の培養検査では検出できない細菌を同定でき、適切な感染症治療につなげることができる。			
医療技術名	薬剤耐性機序の精密解析、遺伝子解析	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
薬剤耐性菌の感受性検査をより精密に行ったり、耐性遺伝子を解析したりすることによって耐性機序や効果の期待できる抗菌薬を詳細に明らかにする。これにより薬剤耐性菌に対して適切な抗菌薬選択を行う。			
医療技術名	唇顎口蓋裂患者に対する矯正歯科治療	取扱患者数	254
当該医療技術の概要			
唇顎口蓋裂は先天的に上顎骨の欠損や変形ならびに劣成長を有し、それに付随して前歯の先天欠損を有する不正咬合である。それに対して、口腔外科や補綴科、言語治療部等との連携も必要な矯正歯科治療であり、専門性の高い治療である。			
医療技術名	顎変形症患者に対する矯正歯科治療	取扱患者数	2038
当該医療技術の概要			
著しい上下顎間関係の不調和を有し、矯正歯科治療単独では対応困難な不正咬合に対して、(上)下顎の骨切り術を併用した矯正歯科治療である。咬合機能の回復のみならず、審美性の回復や呼吸機能の改善にも寄与する医療技術である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	8
取扱い患者数の合計(人)	2,559

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	先天性部分無歯症患者に対する矯正歯科治療	取扱患者数	232
当該医療技術の概要 6歯以上の永久歯の先天性欠損を有し、矯正歯科治療単独では対応困難な不正咬合に対して、補綴治療やインプラント治療、歯周外科治療、審美歯科治療など多数診療科に亘る包括的アプローチが必要な矯正歯科治療である。そのため、多数診療科に亘り高度な医療技術を要する。			
医療技術名	前歯及び小臼歯の永久歯のうち3歯以上の萌出不全に起因する不正咬合患者に対する矯正歯科治療	取扱患者数	51
当該医療技術の概要 3歯以上の永久歯の萌出不全を有し、それに起因する不正咬合に対して、開窓牽引術を併用した矯正歯科治療である。萌出不全は片側に偏って発生することが多く、また牽引時は固定源を確保する必要があるが、矯正用アンカースクリューが若年患者の場合使用できないため、左右・前後の咬合平面管理が非常に難しく、治療期間も長期にわたるため、高度な医療技術を要する。			
医療技術名	ACイオントフォーシス	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 三叉神経ニューロパチー患者に適用する。交流電流を用いたイオン導入法で、直流電流とは異なり、長時間(当科では40-60分)作用させることが可能なため、TENSと同様の刺激療法としての効果も期待できる。			
医療技術名	顎関節人工関節全置換術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 顎関節の関節窩、関節頭ともに人工関節で置換する手術で、2020年に新規保険収載された。キャダバーサージカル研修を受講した術者、施設のみが実施できる。当病院が主導的立場にある。			
医療技術名	口臭ガスクロマトグラフィーを用いた口臭診断	取扱患者数	622
当該医療技術の概要 高精細な口臭測定器であるガスクロマトグラフィーを用いて口臭の原因物質である揮発性硫黄化合物の濃度を測定し、認知閾値を基準に口臭を評価する。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	5
取扱い患者数の合計(人)	916

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	27	56	原発性免疫不全症候群	181
2	筋萎縮性側索硬化症	54	57	IgA腎症	49
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	多発性嚢胞腎	46
4	原発性側索硬化症	1	59	黄色靱帯骨化症	31
5	進行性核上性麻痺	15	60	後縦靱帯骨化症	134
6	パーキンソン病	117	61	広範脊柱管狭窄症	28
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	特発性大腿骨頭壊死症	83
8	ハンチントン病	3	63	下垂体性ADH分泌異常症	14
9	神経有棘赤血球症	1	64	下垂体性TSH分泌亢進症	2
10	シャルコー・マリー・トウス病	1	65	下垂体性PRL分泌亢進症	4
11	重症筋無力症	120	66	クッシング病	5
12	多発性硬化症／視神経脊髄炎	140	67	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	24
13	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	38	68	下垂体前葉機能低下症	36
14	封入体筋炎	2	69	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
15	多系統萎縮症	50	70	先天性副腎皮質酵素欠損症	24
16	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	182	71	アジソン病	2
17	ライゾーム病	6	72	サルコイドーシス	144
18	副腎白質ジストロフィー	1	73	特発性間質性肺炎	137
19	ミトコンドリア病	13	74	肺動脈性肺高血圧症	11
20	もやもや病	252	75	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	9
21	プリオン病	2	76	リンパ脈管筋腫症	3
22	進行性多巣性白質脳症	1	77	網膜色素変性症	22
23	HTLV-1関連脊髄症	2	78	特発性門脈圧亢進症	2
24	特発性基底核石灰化症	2	79	原発性胆汁性胆管炎	29
25	全身性アミロイドーシス	29	80	原発性硬化性胆管炎	10
26	ウルリッヒ病	1	81	自己免疫性肝炎	17
27	ベスレムミオパチー	1	82	クローン病	658
28	神経線維腫症	13	83	潰瘍性大腸炎	1335
29	天疱瘡	31	84	好酸球性消化管疾患	4
30	表皮水疱症	2	85	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
31	膿疱性乾癬(汎発型)	5	86	クリオピリン関連周期熱症候群	9
32	高安動脈炎	108	87	若年性特発性関節炎	27
33	巨細胞性動脈炎	18	88	先天性ミオパチー	6
34	結節性多発動脈炎	13	89	筋ジストロフィー	16
35	顕微鏡的多発血管炎	47	90	アイザックス症候群	2
36	多発血管炎性肉芽腫症	40	91	脳表ヘモジデリン沈着症	22
37	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	56	92	前頭側頭葉変性症	1
38	悪性関節リウマチ	19	93	先天性無痛無汗症	1
39	パージャール病	16	94	片側巨脳症	1
40	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	95	限局性皮質異形成	1
41	全身性エリテマトーデス	421	96	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	2
42	皮膚筋炎／多発性筋炎	236	97	ウエスト症候群	1
43	全身性強皮症	125	98	大田原症候群	1
44	混合性結合組織病	51	99	PCDH19関連症候群	1
45	シェーグレン症候群	129	100	結節性硬化症	3
46	成人ステル病	41	101	色素性乾皮症	1
47	再発性多発軟骨炎	15	102	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	23
48	ベーチェット病	193	103	特発性後天性全身性無汗症	108
49	特発性拡張型心筋症	34	104	マルファン症候群	4
50	肥大型心筋症	12	105	ウィルソン病	1
51	再生不良性貧血	28	106	低ホスファターゼ症	1
52	自己免疫性溶血性貧血	3	107	ウィリアムズ症候群	2
53	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5	108	歌舞伎症候群	2
54	特発性血小板減少性紫斑病	42	109	ウェルナー症候群	1
55	血栓性血小板減少性紫斑病	5	110	修正大血管転位症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	アルポート症候群	3	166		
112	急速進行性糸球体腎炎	1	167		
113	一次性ネフローゼ症候群	60	168		
114	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	3	169		
115	紫斑病性腎炎	7	170		
116	先天性腎性尿崩症	1	171		
117	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	172		
118	オスラー病	1	173		
119	副甲状腺機能低下症	2	174		
120	偽性副甲状腺機能低下症	1	175		
121	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1	176		
122	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	177		
123	筋型糖原病	4	178		
124	脳髄黄色腫症	1	179		
125	脂肪萎縮症	2	180		
126	家族性地中海熱	12	181		
127	慢性再発性多発性骨髄炎	4	182		
128	強直性脊椎炎	40	183		
129	進行性骨化性線維異形成症	1	184		
130	骨形成不全症	2	185		
131	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	4	186		
132	後天性赤芽球癆	5	187		
133	遺伝性鉄芽球性貧血	1	188		
134	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	2	189		
135	クローンカイト・カナダ症候群	2	190		
136	非特異性多発性小腸潰瘍症	1	191		
137	胆道閉鎖症	2	192		
138	IgG4関連疾患	26	193		
139	遅発性内リンパ水腫	3	194		
140	好酸球性副鼻腔炎	19	195		
141	遺伝性自己炎症疾患	2	196		
142	特発性多中心性キャッスルマン病	11	197		
143			198		
144			199		
145			200		
146			201		
147			202		
148			203		
149			204		
150			205		
151			206		
152			207		
153			208		
154			209		
155			210		
156			211		
157			212		
158			213		
159			214		
160			215		
161			216		
162			217		
163			218		
164			219		
165			220		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	142
合計患者数(人)	6,295

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7:1)	・データ提出加算2
・特定機能病院入院基本料(精神病棟10:1)	・入退院支援加算2(総合機能評価加算)
・救急医療管理加算	・認知症ケア加算1
・超急性期脳卒中加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・診療録管理体制加算1	・精神疾患診療体制加算
・医師事務作業補助体制加算1(20:1)	・精神科急性期医師配置加算
・急性期看護補助体制加算(25:1)	・排尿自立支援加算
・看護職員夜間配置加算	・地域医療体制確保加算
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・救命救急入院料1
・重症者等療養環境特別加算	・救命救急入院料2
・無菌治療室管理加算1	・特定集中治療室管理料1
・無菌治療室管理加算2	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・緩和ケア診療加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・精神科身体合併症管理加算	・小児入院医療管理料2
・精神科リエゾンチーム加算	・緩和ケア病棟入院料1
・栄養サポートチーム加算	・重症患者初期支援充実加算
・医療安全対策加算1	・摂食障害入院医療管理加算
・感染防止対策加算1	・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)
・患者サポート体制充実加算	・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・看護職員処遇改善評価料
・ハイリスク妊娠管理加算	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・ハイリスク分娩管理加算	・歯科外来診療環境体制加算2
・呼吸ケアチーム加算	・歯科診療特別対応連携加算
・後発医薬品使用体制加算2	
・病棟薬剤業務実施加算1	
・病棟薬剤業務実施加算2	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・糖尿病合併症管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・がん性疼痛緩和指導管理料	
・がん患者指導管理料イ	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・がん患者指導管理料ロ	・遺伝学的検査
・がん患者指導管理料ハ	・骨髄微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料ニ	・染色体検査の注2に規定する絨毛染色体検査
・外来緩和ケア管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・こころの連携指導料(Ⅱ)	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・がんゲノムプロファイリング検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・先天性代謝異常症検査
・小児運動器疾患指導管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・肝エラストグラフィ加算	・検体検査管理加算(Ⅰ)
・外来腫瘍化学療法診療料1	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・婦人科特定疾患治療管理料	・国際標準検査管理加算
・一般不妊治療管理料	・遺伝カウンセリング加算
・生殖補助医療管理料1	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・二次性骨折予防継続管理料1	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・二次性骨折予防継続管理料3	・長期継続頭蓋内脳波検査
・下肢創傷処置管理料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・院内トリアージ実施料	・胎児心エコー法
・外来放射線照射診療料	・ヘッドアップティルト試験
・ニコチン依存症管理料	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・がん治療連携計画策定料	・終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・脳波検査判断料1
・外来排尿自立指導料	・単線維筋電図
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・神経学的検査

・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・補聴器適合検査
・薬剤管理指導料	・黄斑局所網膜電図
・医療機器安全管理料1	・全視野精密網膜電図
・医療機器安全管理料2	・コンタクトレンズ検査料1
・在宅酸素療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算	・小児食物アレルギー負荷検査
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算	・内服・点滴誘発試験
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・経気管支凍結生検法
・画像診断管理加算1	・腎代替療法指導管理料
・画像診断管理加算3	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・ポジトロン断層撮影	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・センチネルリンパ節加算
・CT撮影及びMRI撮影	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る)
・冠動脈CT撮影加算	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・外傷全身CT加算	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・心臓MRI撮影加算	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・乳房MRI撮影加算	・椎間板内酵素注入療法
・小児鎮静下MRI撮影加算	・腫瘍脊椎骨全摘術
・頭部MRI撮影加算	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・全身MRI撮影加算	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・外来化学療法加算1	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・連携充実加算	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・無菌製剤処理料	・頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る)

・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・角結膜悪性腫瘍切除手術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・障手術(濾過胞再建術(needle法))
・がん患者リハビリテーション料	・人工中耳植込術
・集団コミュニケーション療法料	・網膜再建術
・療養生活環境整備指導加算	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・療養生活継続支援加算	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・救急患者精神科継続支援料	
・精神科ショート・ケア「大規模なもの」	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・精神科デイ・ケア「大規模なもの」	
・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)
・医療保護入院等診療料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・硬膜外自家血注入	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・自家脂肪注入	
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・禁煙治療補助システム指導管理加算	
・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	

・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る)	
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・胸腔鏡下弁形成術	
・胸腔鏡下弁置換術	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	
・経皮的中隔心筋焼灼術	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカーの場合)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)
・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下肝切除術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・生体部分肝移植術
・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	・腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術 ・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術 ・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 ・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・補助人工心臓	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・骨格筋由来細胞シート心表面移植術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的下肢動脈形成術	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・人工尿道括約筋植込・置換術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)	・病理診断管理加算2
・画像誘導密封小線源治療加算	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法

・精巣内精子採取術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・腹腔鏡下仙骨腫固定術	・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)
・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・体外式膜型人工肺管理料
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・精密触覚機能検査
・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術)	・睡眠時歯科筋電図検査
	・歯科画像診断管理加算1
・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)(医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術)	・歯科画像診断管理加算2
	・歯科口腔リハビリテーション料2
・輸血管管理料 I	・手術用顕微鏡加算
・貯血式自己血輸血管管理体制加算	・口腔粘膜処置
・コーディネート体制充実加算	・歯根端切除手術の注3
・自己生体組織接着剤作成術	・口腔粘膜血管腫凝固術
・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)	・歯周組織再生誘導手術
・同種クリオプレシピテート作製術	・手術時歯根面レーザー応用加算
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・顎関節人工関節全置換術(歯科診療に係るものに限る。)
・レーザー機器加算	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・麻酔管理料(I)	・歯科麻酔管理料
・麻酔管理料(II)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・放射線治療専任加算	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・外来放射線治療加算	・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
・高エネルギー放射線治療	・歯科矯正診断料
・一回線量増加加算	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・強度変調放射線治療(IMRT)	・歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料
・画像誘導放射線治療(IGRT)	・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査
・体外照射呼吸性移動対策加算	・有床義歯咀嚼機能検査2の口および咬合圧検査

・定位放射線治療	・口腔病理診断管理加算2
・定位放射線治療呼吸移動対策加算	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
冷痛覚過敏の治療ターゲットとして展開する炎症時TRPA1チャネルの動態解析	田澤 建人	むし歯科	1,733,366	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ゲノム・フェノーム統合解析に立脚した顎顔面非対称の成立機構の解明	森山 啓司	顎顔面矯正学	3,120,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
先端の因果推論手法を用いた、ビッグデータからの口腔と全身の健康の関連	相田 潤	健康推進歯学	1,040,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脊髄性筋萎縮症の早期診断法の確立に関する研究	水野 朋子	国際健康推進医学分野	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
樹脂含浸スマア層を抑制するスマア層デプロテイン化に適応した1-SEAの開発	中島 正俊	う蝕制御学分野	910,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顎顔面発生のエピジェネティクス解析:低酸素環境の及ぼす影響	長岡 亮介	顎顔面外科学分野	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
入院後に肺炎を発症するリスクの高い患者のスクリーニングと新規口腔機能管理法の開発	倉沢 泰浩	口腔外科	390,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
病変局所のIL-23産生マクロファージを標的とした炎症性筋疾患の新規治療開発	梅澤 夏佳	膠原病・リウマチ内科学	65,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膵癌予後不良サブタイプに対する特異的治療の開発	渡邊 秀一	肝胆膵外科	1,040,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Intraoperative real-time non-invasive cerebral blood flow analysis by Laser Speckle Contrast Imaging	清水 一秀	血管内治療学	1,560,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ミエリンイメージングと拡散MRIによる小児・成人もやもや病の認知機能障害病態解明	原 祥子	脳神経外科	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
変形性膝関節症の慢性疼痛化に対する疾患特異的マクロファージの作用の解明とその制御	星野 傑	スポーツ医学診療センター	1,560,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
小児がん患者の卵巣組織凍結における適切な凍結手法の解析	岩原 由樹	生殖機能協関学	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
咬合支持を失った患者に対する咀嚼訓練と栄養指導の効果についてのランダム化比較研究	鍋島 玄	生体補綴歯科学分野	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顎骨壊死に対するアドレナリン受容体アゴニスト投与による治療効果の検討	山田 峻之	顎顔面外科学分野	910,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
舌痛症患者における脳活動～甘味刺激による疼痛緩和～	渡邊 素子	歯科心身医学	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
質の高い日本版臨床研修指導歯科医評価表の開発	則武 加奈子	歯科総合診療科	390,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腸管免疫寛容誘導と炎症性腸疾患発症過程の解析	永石 宇司	消化管先端治療学講座	4,810,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肺線維症責任遺伝子同定と疾患由来iPS細胞分化肺細胞による細胞死と線維化の関連性	瀬戸口 靖弘	統合呼吸器病学	2,880,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
細胞増殖制御に注目した筋損傷回復機構の解明-筋損傷治療のための基盤研究	猪瀬 弘之	整形外科外科治療開発学講座	4,940,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨格筋における代謝異常・サルコペニア肥満と歯周炎の関わり-健康長寿を目指して-	片桐 さやか	歯周病科	3,445,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
有床義歯補綴における臨床と教育のデジタルトランスフォーメーション	水口 俊介	高齢者歯科学	390,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
妊娠期の間欠的低酸素がもたらすエピゲノム変化の分子機構解明と医療応用の基盤構築	小野 卓史	咬合機能矯正学	2,600,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞-細胞間および細胞-細胞外コミュニケーションによる器官形成メカニズムの解読	岩本 勉	小児歯科学・障害者歯科学分野	4,160,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
プルキンエ細胞と登上線維のタイムラプス観察によるシナプス刈り込み機構の解明	越膳 真弓	心肺統御麻酔学分野	900,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
婦人科がん患者に特化した心理療法プログラムの開発	中山 菜央	心身医療科	1,560,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
医師に対する起業教育プログラムと日本語版起業の自己効力感・意図尺度の開発	井津井 康浩	医療連携支援センター	455,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
超急性期脳梗塞に対する脂質ライガンド結合型ヘテロ核酸による経静脈的病態制御薬開発	石橋 哲	脳神経病態学分野	650,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
白血病の遺伝子パネル検査とシグナル蛋白解析を統合した分子標的薬感受性検査法の開発	東田 修二	臨床検査医学	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
アルツハイマー病治療とコンパニオン診断における定量的根拠の解明	三條 伸夫	脳神経病態学	910,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
せん妄に対する高照度光療法の有効性-脳波による検証-	武藤 仁志	精神行動医科学	520,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
親のメンタルヘルスリテラシー向上を目指した家庭用がん教育教材の開発	竹内 崇	精神行動医科学	97,500	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
遺伝子改変iPS細胞を用いたHBVゲノムの組み込みによる発癌メカニズムの解明	新田 沙由梨	検査部	1,040,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
NK細胞サブセットによるクローン病新規治療標的の抽出	藤井 俊光	消化器連携医療学講座	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ヒトクローン病モデル構築による粘膜治癒機構の解明	大塚 和朗	光学医療診療部	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
小胞体選択的オートファジーの制御システムを標的とした心不全発症機序の解明	前嶋 康浩	循環制御内科学	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
筋電計測原理を用いて視覚的に接触状態が提示可能な心筋細胞生検用ロボット鉗子の開発	梅本 朋幸	循環器内科	65,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
過敏性肺炎の肺線維化病態解明:抗原提示細胞と γ δ T細胞	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
食道周囲の密性結合織の組織学的発生的研究	東海林 裕	消化管外科学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
誘電率測定を用いた直接経口抗凝固薬の薬効評価システムの確立	内田 篤治郎	心肺統御麻酔学	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
microRNA解析に基づく悪性脳腫瘍の新規治療法とバイオマーカーの開発	田村 郁	脳神経機能外科学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
てんかんにおけるアデノシンA1受容体活性と心拍変動の関連の研究	稲次 基希	脳神経機能外科学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
主幹動脈閉塞性脳梗塞に対する血管内治療を用いた新たな側副血行賦活化治療の開発	三木 一徳	血管内治療学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
メッセンジャーRNA医薬を用いた神経障害性疼痛の新規治療開発	平井 高志	整形外科学	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
DWIBSおよびSyMRIによる去勢抵抗性前立腺癌のradiomics評価	吉田 宗一郎	腎泌尿器外科学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
内耳メカトランスダクション欠損マウスを用いたシスプラチン難聴の発症機序の解明	川島 慶之	耳鼻咽喉科学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
デルタ型グルタミン酸受容体の異常による内耳synaptopathyの病態解明	藤川 太郎	耳鼻咽喉科学	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
SLC26A4遺伝子変異で見られる多彩な表現型に関する要因の解明	伊藤 卓	耳鼻咽喉科学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
多角的アプローチによるHTLV-1関連眼疾患のバイオマーカー同定	鴨居 功樹	眼科学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯周病進行の契機となる細菌ネットワークの病原性とその形成機序の解明	竹内 康雄	歯周病学	1,235,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
光子圧を応用した治療阻害因子を越えた位置での根管治療を可能とする新規治療法の開発	渡邊 聡	歯髄生物学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
レーザー応用による非外科的低侵襲歯周組織再生療法の確立と治癒促進効果の解明	青木 章	歯周病学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
固体NMR測定によるフッ化物効果解析、う蝕予防方法確立へのエビデンス提供	平石 典子	う蝕制御学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
超高密度度表面電荷の付与によるポーラスβ-TCPの骨形成能の制御	山下 仁大	生体補綴歯科学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CAD/CAM冠の加工精度を向上させる切削加工条件の最適化	根本 怜奈	義歯科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ナイトデンチャーは多数歯欠損歯列を睡眠時ブラキシズムによるストレスから守れるか？	犬飼 周佑	生体補綴歯科学分野	260,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高次構造制御チタニアナノシートを用いた抗菌性歯科補綴装置の開発	野崎 浩佑	生体補綴歯科学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
表面電荷制御された生体活性型インプラントの臨床応用に向けた基礎的研究	上野 剛史	生体補綴歯科学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顎骨骨髓炎の慢性化に関わる細菌病原因子の同定	道 泰之	顎口腔外科学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔がんにおけるRBPとmRNP granulesによるmRNA制御機構の解明	黒嶋 雄志	顎口腔外科学	1,092,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腱・靭帯細胞の骨化制御の解明とアデノシン経路に着目した治療法開発	佐久間 朋美	口腔外科	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
成長期鼻呼吸障害の早期改善による顎顔面成長機構への影響と治療意義の解明	米満 郁男	矯正歯科	715,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
根尖部ニッチにおけるセメント質形成微小環境の構築と歯根吸収予防・修復への臨床展開	松本 芳郎	咬合機能矯正学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
GPCRクラスA転写マップの作成～唾液腺由来のRNA核酸医療の骨再生への応用	渡 一平	矯正歯科	975,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Functional MRIを用いた子どもの不正咬合と脳活動の縦断研究	保田 裕子	顎顔面矯正学分野	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
成長期骨代謝に与える身体運動刺激と咀嚼刺激の相乗作用:血中ホルモン動態に着目して	清水 康広	咬合機能矯正学分野	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
セロトニンを標的とした小児睡眠時無呼吸症モデル動物における軟骨性骨形成障害の検証	細道 純	咬合機能矯正学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
極地閉鎖環境における口腔疾患発症メカニズム解明に関する研究	財津 崇	健康推進歯学	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
特定機能病院における医療安全の定量評価法の開発と有害事象に伴う追加的医療費の検討	鳥羽 三佳代	クオリティ・マネジメント・センター	975,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
日々の患者状態と診療情報を用いた病棟の忙しさと有害事象発生に関する研究	森脇 睦子	クオリティ・マネジメント・センター	585,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
服薬時嚥下障害への新規治療戦略:薬剤Dosage Forms(剤型)による解析	山脇 正永	臨床医学教育開発学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
近赤外蛍光検査システムを応用した新しい嚥下機能評価に関する基礎的研究	吉見 佳那子	摂食嚥下リハビリテーション科	585,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肺小細胞癌における新たな診断マーカーの探索的研究	榊原 里江	肺免疫治療学講座	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
活性化NK細胞を用いた新たなCAR-NK細胞療法の開発	神谷 尚宏	臨床試験管理センター	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
横隔膜エコーを用いた横隔膜機能不全評価の標準値・計測方法の確立と教育コースの開催	山田 徹	総合診療科	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ドパミン機能障害の視点からみた抑うつ:DAT-SPECTへのテクスチャ解析の応用	田村 赳紘	画像診断・核医学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
ゲーム障害におけるハームリダクションの観点に基づいた入院治療の効果とその神経基盤	小林 七彩	精神行動医科学分野	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
日中の眠気の新規客観的評価・鑑別法の確立—脳波の聴覚情報処理反応の応用	高木 俊輔	精神行動医科学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自閉スペクトラム症における意思決定や行動選択の柔軟性低下について	藤野 純也	精神行動医科学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ネフローゼ新規治療開発を目指した腎糸球体ポドサイトの足突起制御機序の解明	宇田川 智宏	小児科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
IKZFファミリーの協調的な転写制御の異常によるリンパ球分化障害の病態解明	山下 基	発生発達病態学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肺高血圧症の病態におけるインスリン分泌促進ホルモン、その分解酵素の役割は？	細川 奨	茨城県小児・周産期地域医療学講座	1,833,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脳室周囲白質軟化症児の歯髄幹細胞解析による幹細胞移植基盤構築と発症機序解明	岩田 はる香	発生発達病態学分野	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
全エクソン解析による日本人における間質性肺炎疾患関連遺伝子の解明	岡本 師	肺免疫治療学講座	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
酸化ストレスを用いた間質性肺炎の病勢評価に関する研究	飯島 裕基	呼吸器内科	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
悪性黒色腫発症機序の解明と発症早期における癌幹細胞の特定	西田 真紀子	皮膚科	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
PECAM-1と骨髄間質細胞が白血病難治化に及ぼす影響の検討	梅澤 佳央	血液内科学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
DIC患者に対する、誘電コアグロメーターによる凝固能測定の有効性の検討	高山 渉	救急災害医学	260,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
敗血症DICにおける神経因性ペプチドを介した病態制御と治療応用	末金 彰	救命救急センター	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
軟骨再生での間葉系幹細胞の増殖機序の解明と増殖を制御する関節内完結型治療法の発案	日山 鐘浩	運動器外科学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腎癌の発育形態と被膜周囲微小環境の病理学的探索および新規リスクモデルの構築	田中 一	腎泌尿器外科学	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
本邦における重症筋無力症合併妊娠の臨床予後検討およびデータベース構築	羅 ことい	生殖機能協関学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Pendred症候群モデルマウスにおける平衡障害の評価	渡邊 浩基	耳鼻咽喉科学	1,010,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
神経吻合部の早期機能回復に対する多血小板血漿の効果の検討	黒澤 小百合	形成・再建外科学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
慢性腎臓病へ歯周病が与える影響についての疫学調査ならびにメカニズムの基礎的解析	三上 理沙子	口腔健康管理科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
歯髄炎におけるHMGB1とネクロトーシスの関連の解明とその制御	橋本 健太郎	むし歯科	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯冠修復用ジルコニア材に対するイオン注入法の確立	佐藤 隆明	むし歯科	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病状態におけるβ-TCPを用いた歯周組織再生療法の効果への影響	武田 浩平	歯周病学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
miRNA内包エクソソームによる歯髄炎抑制・修復促進機構の解明と臨床応用への展開	奈良 圭介	むし歯科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病モデル動物の歯周組織の創傷治癒に経口糖尿病治療薬が与える効果	城戸 大輔	歯科総合診療科	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
インプラント周囲炎の再生と予防ー細胞増殖因子と表面性状ー	井川 貴博	歯周病学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Ge-132含有類脂肪体由来幹細胞スフェロイドによる骨再生療法の開発	山本 麻衣子	口腔再生再建学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病を伴う睡眠時無呼吸症に対する口腔内装置療法の有効性ー糖代謝へ及ぼす影響ー	宮園 敬資	咬合機能健康科学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔がんにおけるmiR-3140の抗がん核酸薬治療応用性の検討	外内 えり奈	口腔外科	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
医原性歯根吸収を予防する新規矯正歯科治療法の開発;CBCTデータベースの展開	大石 修史	咬合機能矯正学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
機械的受容体シグナルを応用した新規硬組織形成誘導法の開発	杉本 明日菜	小児歯科	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
メカノバイオロジー統合解析による歯槽骨のリモデリング制御機構の解明	小笠原 毅	矯正歯科	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔周囲筋性質(筋量、筋質、筋硬度)を用いた、新しい口腔機能評価法の確立	山口 浩平	摂食嚥下リハビリテーション学分野	260,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯周病は骨格筋合成・収縮を阻害するかー歯周病誘発ラットでの運動介入研究	林 海里	義歯科(専)スポーツ歯科外来	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔科学的知見に基づく新規アスリートコンディション評価法開発にむけた実測調査	田邊 元	義歯科(専)スポーツ歯科外来	130,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
臨床研修歯科医を対象とした歯科医療安全教育プログラムの開発	木村 康之	歯科心身医学	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ICUにおける抗菌薬適正使用支援プログラム手法の開発	三島 有華	生体集中管理学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
術後遺残疼痛に対する理学療法の作用機序の解明と多角的定量評価による効果の検証	中村 香織	運動器外科学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膝ACL再建術後選手の競技復帰基準となる新たな跳躍能力指標の標準化に向けた研究	廣幡 健二	リハビリテーション医学分野	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
前十字靭帯再建術後アスリートの反応時間の遅れに着目した新たなスポーツ復帰指標作成	大路 駿介	スポーツ医学診療センター	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
血液脳関門を自由自在に通過するオーバーハング2本鎖核酸技術の創生	吉岡 耕太郎	脳神経病態学	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
異所性骨化における線溶系酵素の役割の解明と新規骨形成薬の開発	吉井 俊貴	整形外科学	3,120,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
固体核磁気共鳴法による、フッ化物含有生体活性ガラスの歯質欠損修復機能の解析	平石 典子	う蝕制御学	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
幹細胞自己複製メカニズム解明による新規癌治療法の開発	並木 剛	皮膚科学	1,100,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
制御領域の変異同定と非コードRNA転写・スーパーエンハンサー活性化機構の解明	磯田 健志	発生発達病態学	4,290,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ヒトiPS細胞由来複合型自己組織化腸管組織を用いた難治性腸炎モデルの確立	水谷 知裕	消化器病態学	4,940,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
PKA関連疾患の病態解明と治療薬開発	安藤 史顕	腎臓内科	5,850,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ミトコンドリア関連小胞体膜を介した褐色脂肪細胞の即時的熱産生亢進機構の解明	池田 賢司	分子内分泌代謝学	6,240,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
疾患解明アプローチによる筋・骨組織の機能回復を目指した腱組織再生の分子基盤解析	依田 哲也	顎顔面外科学	5,070,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
敗血症性ショックの蘇生における個別化戦略:多施設ランダム化試験とメタアナリシス	遠藤 彰	救急災害医学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ES細胞による歯周組織再生と顎顔面領域発生のメカニズムの解明	森田 和機	歯周病学分野	700,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
刑事責任能力鑑定における精神障害が犯行に与えた影響の機序の描出と読解に関する研究	岡田 幸之	精神行動医科学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
表在型食道扁平上皮がん浸潤様式の総合的評価法の確立と分子基盤の探究	大橋 健一	人体病理学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CRISPR libraryを用いた網羅的細胞間相互作用解析モデルの開発	倉田 盛人	包括病理学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
大腸癌治療薬の基礎解析データからの血中循環バイオマーカー同定と生物学的意義の解析	末永 光邦	臨床腫瘍学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
プルキンエ細胞特異的遺伝子発現に着目したSCA31モデルマウスの病態解析	石川 欽也	長寿・健康人生推進センター	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
てんかん発作発生に寄与する患者個別の時間生物学的・心理的指標の探索	宮島 美穂	精神行動医科学	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨痛の客観的評価のための画像研究	立石 宇貴秀	画像診断・核医学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
クローン病の腸管MR画像におけるマルチベンダー対応AI画像診断支援システムの開発	北詰 良雄	医療情報部	812,500	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
DNA損傷修復異常が糖代謝に与える影響とインスリン抵抗性糖尿病発症機序の解明	高澤 啓	発生発達病態学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CD4-CD8 $\alpha\beta$ -TCR $\alpha\beta$ +T細胞のアナジー誘導性抗原提示能の解析	根本 泰宏	消化器病態学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肝癌ゲノム情報と癌微小環境の空間的多様性の機械学習による臨床予測モデルの構築	北畑 富貴子	消化器内科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
肝癌オルガノイドを用いた肝癌微小環境中免疫学的プロファイルに関わる病態解明	村川 美也子	消化器内科	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患における小腸難治化機構の解明	竹中 健人	消化器連携医療学講座	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腎臓オルガノイドを用いた腎線維化増悪因子の探索	須佐 紘一郎	腎臓内科学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ウロモジュリンの生理的制御メカニズムと病態生理学的機序の解明	森 崇寧	血液浄化療法部	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
好中球異常を伴う自己炎症性疾患の病態解明と治療法開発	尾崎 富美子	発生発達病態学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
成人免疫異常症の診断と病態理解のための基礎的研究	木村 直樹	生涯免疫難病学講座	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
副腎皮質ステロイドを補完する新規炎症制御薬の開発	細矢 匡	膠原病・リウマチ内科学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膵臓癌における化合物スクリーニングによる新規抗がん剤併用療法の開発と臨床応用	田邊 稔	肝胆膵外科学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膵臓癌における悪性形質メカニズムに関連するRRM1の機能解析と治療薬への応用	小野 宏晃	肝胆膵外科学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ウイルス感染症による血液凝固メカニズムを踏まえたECMO内血栓予防技術の開発	藤原 立樹	心臓血管外科学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
経時的遺伝子発現解析を用いた敗血症慢性重症経過の病態解明と予測モデル構築	内御堂 亮	生体集中管理学分野	1,131,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
半月板の形成、恒常性及び損傷後修復におけるBMPの生理機能の解析	辻 邦和	分子生命医学講座	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
重症心身障害児(者)の続発性骨粗鬆症の病態を解明し、治療方法を作成する。	酒井 朋子	リハビリテーション部	1,664,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
更年期症状に対するピロキシサミンの効果についての閉経モデル動物を用いた基礎的研究	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
超高齢化社会における転倒リスク評価のための重力認知機能パラメータ開発	堤 剛	耳鼻咽喉科学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
シングルセル解析による内リンパ嚢の発生メカニズムの解明	本田 圭司	耳鼻咽喉科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
再発転移頭頸部癌に対する近赤外光線免疫療法症例におけるバイオマーカー探索研究	朝蔭 孝宏	頭頸部外科学	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
外陰圧リンパ浮腫モデルでの脂肪増生の検討 -スキャフォールド移植の新たな可能性-	森 弘樹	形成・再建外科学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
HSP40ファミリーと変異p53間の相互作用を標的とした新規癌治療法の開発	戒田 篤志	歯科放射線科	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
胃食道逆流症疾患と酸蝕症との関連性および口腔胃食道領域における医科歯科連携の構築	北迫 勇一	う蝕制御学分野	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
NiTiファイル形成システムを構築するために手の動きをシミュレートする	海老原 新	歯髄生物学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯内療法対象疾患に伴う疼痛制御因子の解明とその疼痛緩和に向けた実験モデルの構築	砂川 光宏	歯科総合診療科	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
残存歯質保護を考慮した次世代高強度メタルフリー支台築造の検討	駒田 亘	咬合機能健康科学分野	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔機能低下症とフレイルの縦断調査:口腔機能におけるフレイルリスク因子の解明	濱 洋平	義歯科(専)高齢者歯科外来	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
人工知能を活用した部分床義歯設計システムの開発研究	笛木 賢治	咬合機能健康科学分野	1,105,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高齢者における食前ガム咀嚼は血糖値上昇を抑制するか?	駒ヶ嶺 友梨子	高齢者歯科学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顎変形症の術後の長期経過患者における睡眠時無呼吸症の発症リスクと顎骨移動の関係	友松 伸允	口腔外科	1,365,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
甘草由来フィトケミカルによる気管支調節機構の分子機序解明	脇田 亮	歯科麻酔・口腔顔面痛制御学分野	715,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ゲノム検査を用いた口腔多発癌症例の特異的遺伝子変異の解析	平井 秀明	口腔外科	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
幼若永久歯再植後の新規治療法を探索する:NFκBデコイ核酸導入の効果	石田 雄之	咬合機能矯正学	1,105,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
咬合刺激低下歯の歯周組織に与えるペリオスチンスプライスバリエントの機能的差異	白見 莉沙	矯正歯科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯の萌出に伴う生理的機能獲得の解明-歯根膜咀嚼筋反射応答機構の成熟過程の評価-	桐本 博章	咬合機能矯正学分野	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
病院ビッグデータを用いた歯科疾患の決定要因の解析	梅森 幸	総合診療歯科学	130,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口臭からの全身疾患の発見を目指したイオン付着質量分析法による広範囲の口臭測定	大城 暁子	歯科総合診療科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
高位脛骨骨切り術前後の患者のランニング中の膝内反モーメントを抑える運動療法の開発	大見 武弘	スポーツ医学診療センター	468,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膵神経内分泌癌の起源の解明	木脇 祐子	包括病理学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脱細胞化骨を用いた、新しい人工ヒト骨髄およびヒト骨髄異形成症候群モデルの作成	大西 威一郎	病理部	2,470,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞外に留置した金粒子による放射線治療増感法の開発	長野 拓也	放射線治療科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
背部の外部振動による乳房MR elastographyの撮像法確立と有用性検証	山鹿 絵美	放射線診断科	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
モヤモヤ病、大動脈狭窄など全身性に血管狭窄をきたす新規疾患の病態解明	鹿島田 彩子	総合教育研修センター	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ヒト小腸・大腸運命決定因子の同定による人工的腸管長制御の開発	日比谷 秀爾	光学医療診療部	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規iPS由来肝細胞・肝オルガノイド系を用いた肝発癌モデルによる発癌機構解明	三好 正人	消化器病態学	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
食餌由来因子ゲニステインの腸上皮機能調節作用の解析	河本 亜美	消化器内科	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
慢性閉塞性肺疾患の病態における好塩基球、間質マクロファージの役割	柴田 翔	統合呼吸器病学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ALOX15を軸とした腎内脂質メディエーターの網羅的解析と慢性腎臓病への応用	松浦 喜明	腎臓内科学分野	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
マスト細胞と発汗の相互作用の研究	飯田 忠恒	皮膚科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
関節リウマチにおける高密度環境がもたらす線維芽細胞への影響の解析とその治療応用	山本 晃央	膠原病・リウマチ内科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
摂食時間制限が糖脂質代謝を改善する分子メカニズムの解明	辻本 和峰	分子内分泌代謝学	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脂肪組織に由来するエクソソームmiRNAを介した肝細胞増殖機構の解明	小宮 力	分子内分泌代謝学	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膵神経内分泌腫瘍の予後予測のためのイメージングバイオマーカーの開発	上田 浩樹	肝胆膵外科学	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
悪性胸膜中皮腫におけるがん幹細胞マーカーの機能解析	中島 康裕	呼吸器外科学分野	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
シングルセル解析による外傷後肺障害の病態解明	千田 篤	救命救急センター	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高静水圧印加処理による脱細胞化半月板を用いた新たな半月板再生方法の確立	渡部 直人	整形外科	2,730,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
膝滑膜由来間葉系幹細胞のIL1 β による増殖の分子機序の解析と再生医療への応用	松村 恵津子	運動器外科学分野	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
卵子中の脂肪滴を管理することで、胚発生や出生後の発育までも変化させうる	辰巳 嵩征	生殖機能協関学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
セツキシマブ長期投与による舌癌細胞の細胞骨格系と細胞内タンパク輸送に及ぼす影響	奥山 紘平	顎口腔外科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
NiTiファイルの応力発生への形成動作の影響:自動計測システムを用いた規格化解析	木村 俊介	むし歯科	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
最小限の根管形成・狭窄根管での根管治療を確立するためのLAI応用による総合的解析	高野 晃	歯髄生物学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯周組織再生療法においてFGF-2と併用する理想的な骨補填材の究明	星 嵩	歯周病学分野	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
メカニカルストレス存在下における歯根膜と骨構成細胞のクロストーク機構の解明	土谷 洋輔	歯周病科	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
低酸素誘導因子HIF1 α により誘導されるマイクロRNAの歯髄炎進展における役割	藤井 真由子	むし歯科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
3Dプリンタと成長因子FGF-2を応用した顎骨増大とインプラント同時埋入法の開発	岡田 宗大	歯周病科	2,860,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
入院・入所高齢者の「食のQOL」とオーラルフレイルの関連	鈴木 啓之	義歯科	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自己乏血小板血漿による骨形成機序の解明と歯槽骨増生法の確立	寺内 正彦	口腔外科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Nager症候群の発症機序の解明と頭蓋顔面の形態形成不全の予防	山田 隆彦	顎顔面外科学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
H19長鎖非コードRNAの作動原理に基づく核酸医薬による神経障害性疼痛治療	伊藤 孝哉	歯科麻酔科	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯科矯正用アンカースクリュー植立に伴う骨損傷が周囲軟組織の免疫応答に与える影響	上園 将慶	矯正歯科	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脳および全身の運動機能を支える臼歯・前歯の役割ーファンクショナルMRIによる検討	吉澤 英之	矯正歯科	650,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
AIエンジンを使用した学習者表情分析による講義満足度の検証	赤石 雄	茨城地域医療学講座	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
医療従事者の手指衛生モニタリング方法の新規開発とその精度に関する研究	田頭 保彰	統合臨床感染症学分野	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔がん患者の錠剤内服困難についての検証と解決策の究明	吉住 結	摂食嚥下リハビリテーション学分野	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
グルコース輸送体の生物学的機序を活用した血液脳関門通過型抗体の開発	平田 浩聖	脳神経病態学	6,500,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
宇宙実験を利用した機械的ストレス応答マイクロRNAの同定と老化バイオマーカー開発	佐藤 信吾	緩和ケア科	3,510,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
PhotobiomodulationとES細胞由来MSCを用いた再生療法の新戦略	片桐 さやか	歯周病科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
国際比較によるユニバーサル・ヘルス・カバレッジの受診格差抑制効果の検証	相田 潤	健康推進歯学	1,664,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
PKA直接活性化法を用いた肥満症の病態解明および新規治療薬の開発	藤木 珠美	腎臓内科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腎組織リポミクスを用いた慢性腎臓病の病態解明および新規治療薬の開発	高橋 直宏	腎臓内科学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
全身投与で脳に到達し遺伝子制御可能な新規siRNA核酸医薬の創出	浅見 裕太郎	脳神経病態学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
滑膜線維芽細胞におけるGLI3の機能解析	小宮 陽仁	膠原病・リウマチ内科学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
滑膜線維芽細胞サブセットとマクロファージサブセットの病的相互作用関連分子の同定	田川 泰寛	膠原病・リウマチ内科学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
がん幹細胞を標的にした新規近赤外光線免疫療法の開発	岡田 隆平	頭頸部外科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
神経内分泌腫瘍の治療方針の層別化～臨床病理学的アプローチとバイオマーカーの検索～	浅野 大輔	肝胆膵外科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
過敏性肺炎の線維化メカニズムの解明	古澤 春彦	統合呼吸器病学	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腸管上皮細胞-上皮間リンパ球細胞間接触を標的とした新規腸管腫瘍免疫療法の開発	森川 亮	がん先端治療部	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
非症候性部分無歯症におけるOPN3の機能と分子制御解明	稲垣 有美	顎顔面矯正学分野	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ポリグリコール酸/キトサン複合体を用いた生体接着性シートの開発	稲田 大佳輔	口腔外科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Photobiomodulation活性型歯根膜由来幹細胞による再生療法の新展開	新見 ひろみ	歯周病科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
標的臓器における受容体発現量調節を目的とした骨粗鬆症の新規治療戦略の開発	三木 裕仁	歯科総合診療科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
COVID-19蔓延期における行政と病院間の連絡体制に関する実態調査	宮前 繁	災害テロ対策室	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
難治性消化管疾患に対する統合オルガノイド医療の創成	岡本 隆一	消化器病態学	13,000,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
ARスマートグラスを用いた双方向性同期型遠隔歯科臨床技能教育システムの開発	新田 浩	総合診療歯科学	4,420,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
血液脳関門通過型核酸医薬としてのヘテロ核酸搭載グルコースミセルの開発	桑原 宏哉	脳神経病態学	3,900,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞外小胞を介した慢性腎臓病によるサルコペニア・腎性老化の全容解明	萬代 新太郎	血液浄化療法部	6,500,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
グリオーシス回避を可能とする2本鎖核酸医薬の開発	吉岡 耕太郎	脳神経病態学	2,860,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
病態に直結するPKAシグナル伝達機構の解明と治療法開発	内田 信一	腎臓内科学	6,500,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
皮膚筋炎特異的自己免疫反応を基盤とする疾患モデル動物の確立と病態解析	沖山 奈緒子	皮膚科学	6,500,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
加齢や過栄養摂取が白色脂肪組織の細胞連関に及ぼす影響の解明	山田 哲也	分子内分泌代謝学	6,500,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
神経・血管の視点から解き明かす筋骨格系の恒常性維持機構と筋骨格系疾患の新たな病態	佐藤 信吾	緩和ケア科	6,370,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
間葉系幹細胞エクソソームによる創傷治癒・抗炎症作用メカニズムの解析	岩田 隆紀	歯周病学	5,070,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
機械学習を用いた外科手術中の安全な筋弛緩薬ロクロニウム維持投与量予測方法の創出	朝田 瑞穂	心肺統御麻醉学分野	480,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新生仔期の環境インプリンティングにより中枢の代謝調節機構が変容する機序の解明	北川 悠梨	分子内分泌代謝学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
左室駆出率の保たれた心不全の病態形成におけるGAPDHシグナルの役割の解明	中村 峻	循環制御内科学分野	900,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
マルチオミクス解析を用いた歯周病の「褐色脂肪ネットワーク」への影響の全容解明	畑佐 将宏	歯周病学分野	1,200,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯周病菌によるオートファジー異常が心不全HFpEFの病態発現に与える影響の解明	渡辺 由佳	循環制御内科学分野	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
4Dプリント技術を応用したデジタル全部床義歯の開発	羽田 多麻木	高齢者歯科学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
RAN翻訳を抑制するRGq核酸の開発研究	石黒 太郎	脳神経内科	130,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規自己抗体が形成する進行性・難治性精神疾患のシナプス病態の解明	塩飽 裕紀	精神行動医科学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脳画像における精神疾患の特徴量抽出を可能にする汎用性の高い深層学習モデルの構築	杉原 玄一	精神行動医科学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
好中球減少とB細胞欠損に共通する発症機構の解明に関する研究	金兼 弘和	小児地域成育医療学講座	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
患者由来大腸オルガノイド移植法を用いたdysplasia-PDOXモデルの開発	福田 将義	光学医療診療部	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
細胞傷害性リンパ球を応用した炎症性腸疾患新規治療法の開発	長堀 正和	臨床試験管理センター	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患病態におけるT-T presentationの役割の解明	齊藤 詠子	消化器内科	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
心房細動アブレーションによる洞調律化が認知機能に与える効果の解明	宮崎 晋介	先進不整脈学講座	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞外小胞を介した、心房細動が合併症を生じる機構の解明と次世代先制医療への応用	笹野 哲郎	循環制御内科学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
間質性肺炎急性増悪の病態解明:GM-CSFによるペリサイト, マクロファージの制御	立石 知也	呼吸・睡眠制御学講座	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
サルコイドーシスの肺病変線維化と遺伝子素因	古澤 春彦	統合呼吸器病学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
アクアポリンナノディスク法による水チャネル直接阻害薬の開発	野田 裕美	腎臓内科学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
造血幹細胞移植後のトキソプラズマ症診断におけるPCR法の有用性の検討と臨床応用	森 毅彦	血液内科学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
細胞内浸透抗体-CpG-ODN複合体を用いた難治性B細胞リンパ腫治療の可能性	長尾 俊景	血液内科学	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
関節リウマチの滑膜細胞サブセット由来細胞外小胞の網羅的解析と診断・治療への応用	齋藤 鉄也	膠原病・リウマチ内科学	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
アルドステロン産生腺腫におけるWNTシグナルの新規制御因子に着目した病態解析	村上 正憲	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
神経内分泌腫瘍におけるマルチアナライトバイオマーカーの創設と疾患管理	工藤 篤	医療安全管理部	2,860,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
力覚提示機能を有する次世代手術ロボットを用いた心臓手術の力学的基礎データの検討	長岡 英気	心臓血管外科	832,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
小児患者の全身麻酔時の脳波変化とmicrovesiclesの役割についての検討	遠山 悟史	心肺統御麻酔学	728,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腸管虚血再灌流障害後の炎症収束脂質メディエーターへの迷走神経刺激の影響の解明	森下 幸治	救急災害医学	520,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
心電図解析によるてんかん患者の発作予後予測に関する検討	森 周介	救急災害医学	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
側頭葉てんかん低代謝域の電気生理学解析による新たなてんかんネットワーク概念の確立	前原 健寿	脳神経機能外科学	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規骨形成薬の局所注入による骨形成促進治療の開発とメカニズムの検討	吉井 俊貴	整形外科	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
間葉系幹細胞の可逆性、可塑性の分子機序の解析	古賀 英之	運動器外科学	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元
特発性溶骨症ゴーハム病に見出された候補原因遺伝子変異に基づく病態形成機構の解明	江面 陽一	運動器外科学分野	1,040,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
環状RNAによる骨代謝調節機構の解明	加藤 剛	整形外科	130,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
慢性疼痛下における後根神経節ニューロンとグリア細胞連関	榎本 光裕	整形外科	1,235,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規RASシグナル阻害剤の頭頸部癌治療応答基盤解明	加納 嘉人	臨床腫瘍学	1,365,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
内耳血液迷路関門の透過性制御に基づく薬剤性難聴の予防手段の樹立	西尾 綾子	耳鼻咽喉科	1,690,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
眼内悪性リンパ腫におけるCD79B遺伝子変異と疾病予後に関する研究	高瀬 博	眼科学	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自家移植組織の“質”に迫る First Step ～汗腺の術後機能回復に着目して	田中 顕太郎	生体組織再建外科学分野	2,210,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
低酸素特異的転写調節因子HIF1 α が誘導する歯髄組織特異的硬組織誘導のメカニズム	興地 隆史	歯髄生物学	520,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
インプラント周囲細菌叢を規定する危険因子を探る:疾患の発症予測モデル構築に向けて	下岸 将博	口腔インプラント科	780,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
マルチオミクス解析から紐解く新規インプラント周囲炎診断法の確立	小柳 達郎	歯周病科	1,170,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
睡眠時無呼吸症の口腔内装置療法の治療効果予測と検証ー予測モデルと内視鏡での判定ー	秀島 雅之	義歯科(専)快眠歯科(いびき・無呼吸)外来	1,690,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
クエン酸を用いた咳テストはMRIによる無症候性脳梗塞をスクリーニングできるか	中根 綾子	摂食嚥下リハビリテーション学分野	2,145,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
革新的数理科学的解析によるモノリシックジルコニア接着ブリッジ設計と臨床術式の確立	猪越 正直	高齢者歯科学	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
咬合調整フリー歯冠補綴装置の作製を可能にする革新的診療プロセスの構築	三浦 宏之	う蝕制御学分野	130,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
若年胃ろう患者に対する摂食嚥下訓練の有効性および胃ろう食が腸内細菌叢に及ぼす影響	戸原 玄	摂食嚥下リハビリテーション学分野	520,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Radiomicsアプローチによる口腔癌MRIバイオマーカーの開発	坂本 潤一郎	歯科放射線科	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯科心身症の疾患横断的な診断・治療法の開発とサブタイプの同定	豊福 明	歯科心身医学	1,430,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
周術期脳虚血モデルでの原因遺伝子の解析とデクスメトミジンの脳保護作用機序	前田 茂	歯科麻酔・口腔顔面痛制御学分野	1,300,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
多孔性テーラーメイドゲル材料を用いた柔軟な舌筋の再生	原田 浩之	顎口腔外科学	1,365,000	補 文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
顔面骨折治療支援に向けた骨構造FE解析とCAD形態解析による多面的評価の研究	中禮 宏	義歯科	2,262,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
咀嚼が脳機能を介し全身身体機能に与える影響:課題型/安静時fMRIを用いた検討	宮本 順	顎顔面矯正学分野	1,131,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯の異常に多様性をもたらす分子機構の解明へ向けた組織特異的横断的オミクス解析	小川 卓也	顎顔面矯正学	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
顎顔面領域におけるエピジェネティックな見地からみた上皮間葉ネットワークの解明	東堀 紀尚	顎顔面矯正学	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
超音波画像診断装置を用いた舌運動-頬舌圧同時記録法による口腔機能の定量的解析	辻 美千子	顎顔面矯正学	3,250,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
咀嚼機能低下がマイオカインを介し顎顔面領域と全身に与える病態メカニズムの解明	加藤 千帆	矯正歯科	2,015,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
力学的解析に基づいた改良型超弾性Ti-Ni合金ワイヤーの臨床応用に向けた取り組み	簡野 瑞誠	咬合機能矯正学分野	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
超高速MRI動画・流体シミュレーションによる新しい構音障害診断法・訓練法の開発	半場 紗里奈	咬合機能矯正学分野	1,235,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
海馬における記憶・学習機能の評価による、成長期咀嚼刺激回復の生物学的意義の検証	沖原 秀政	咬合機能矯正学分野	2,730,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
嚥下障害患者に用いるとろみ調整食品の栄養吸収代謝に関わる基礎的検討	中川 量晴	摂食嚥下リハビリテーション学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
接種理論を用いた診療参加型臨床実習における医行為の推進のための戦略の開発	岡田 英理子	臨床医学教育開発学	1,885,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
選択的自己多血小板血漿の筋内投与による筋損傷修復機序の解明	宮武 和正	運動器外科学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
抗原提示細胞に着目したCrohn病の病態形成におけるパターン認識受容体の解析	児玉 真	人体病理学分野	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
化合物スクリーニングによる小児肝芽腫に対する新規治療候補薬の機能解析	水野 裕貴	国際医療部	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨髄不全症における標的オトリ人工抗体開発に向けたネオエピトープ反応性T細胞の検出	野上 彩子	臨床検査医学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
個別化医療を目指した小児全身性エリテマトーデスの免疫学的再分類	伊良部 仁	茨城県小児・周産期地域医療学講座	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
蛍光色素変換を用いた腸炎惹起性メモリーCD4+T細胞traffickingの解析	森川 亮	がん先端治療部	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高周波アブレーション時の焼灼巣とSteam-popのリアルタイム予測AIの開発	滝川 正晃	先進不整脈学講座	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
高密度マッピングによる多形性心室頻拍のリエントリー回路の解明と治療への応用	西村 卓郎	循環器内科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
間質性肺炎で誘導されるドライバー遺伝子異常に非依存的腫瘍促進的ゲノム異常の同定	本多 隆行	呼吸器内科	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
抗菌物質であるリゾチーム・キトサン糖複合体の慢性緑膿菌気道感染への効果の解明	島田 翔	呼吸器内科	2,990,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
過敏性肺炎における抗原感作機序の解明:メモリー γ δ T細胞とMR1	山名 高志	呼吸器内科	4,030,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
成人慢性腎臓病患者におけるネフロン癆の臨床的特徴と病態生理の解明	藤丸 拓也	腎臓内科学分野	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
miRNA-9 delivery using lactosome, a newly-developed drug delivery system, in the treatment of rheumatoid arthritis	LEE WEN SHI	膠原病・リウマチ内科学分野	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
酸化ストレスを標的とした炎症性筋疾患の治療法開発	神谷 麻理	膠原病・リウマチ内科	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症性筋疾患における免疫疲弊分子及びエフェクター分子に着目した免疫表現型の解析	佐々木 広和	膠原病・リウマチ内科	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
進行膵癌の根治可能症例を見極める:オルガノイドを用いた遺伝子解析	浅野 大輔	肝胆膵外科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
AIを用いた食道癌術後反回神経麻痺の予後予測システムの確立	齋藤 賢将	消化管外科学分野	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
小児急性脳症マウスモデルの確立と低体温・平温療法の効果の比較検討	野坂 宜之	生体集中管理学	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
PET multi-tracerによるてんかんネットワーク障害の解明と治療	林 志保里	脳神経機能外科学分野	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
下肢スポーツ整形外科領域におけるT1 VIBE MRIによる骨評価の有用性の検討	片倉 麻衣	運動器外科学	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新規骨形成促進薬・高分子化合物複合体の開発と前臨床的動物モデルによる効果の実証	江川 聡	整形外科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
新しい椎間板変性治療	松倉 遊	整形外科	1,560,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
膝蓋下脂肪体の線維化の抑制を主な作用機序とする新規変形性関節症治療薬の開発	雨宮 正樹	スポーツ医学診療センター	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
核酸・蛋白情報とイムノグラムを併用した軟部肉腫浸潤性の病態解明	船内 雄生	整形外科	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
adipogenesisの視点から女性化乳房の機序を解明する研究	植村 法子	形成・再建外科学	2,340,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
摂食行動関連分子群および神経回路の観点からストレス応答に対する行動変化を解明する	遠井 政行	口腔健康管理科	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔癌の抗PD-1抗体治療効果を予測する、免疫応答を多角的に捉えた新規評価系樹立	西井 直人	口腔外科	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
光エネルギーを応用したES細胞による新たな歯周組織再生療法の確立	新見 ひろみ	歯周病科	3,250,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
妊娠中の母体の糖・脂質代謝異常および出産に対する歯周病の影響	佐々木 直樹	歯科総合診療科	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
自動根管形成・応力解析装置を用いた、NiTiファイルによる根管形成の規格化解析	牧 圭一郎	むし歯科	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
フッ化ジアンミン銀を応用した根面う蝕除去後の修復方法の確立	高橋 基	むし歯科	390,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
口腔粘膜再生治療に向けたiPRFの遠心条件の最適化と有効性の評価	押部 成美	口腔外科	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CAD/CAM冠脱離防止の為に切削抵抗測定に基づいた切削加工プロセスの開発	松村 茉由子	義歯科(専)歯科アレルギー外来	1,170,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
S-PRGフィラー含有義歯安定材の抗菌メカニズムと安全性の解明	波多野 恵太	高齢者歯科学分野	2,730,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
405nm波長光および光触媒を利用した双方向からの義歯清掃方法の開発	高草木 謙介	義歯科	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯槽骨内部の応力・ひずみが方向依存的に形成と吸収を制御するメカニズムの解明	大河原 久実	義歯科	2,080,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
PEEKと弾性を有する熱可塑性樹脂を用いたフルデジタルノンメタル部分床義歯の開発	副田 弓夏	義歯科	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
閉塞性睡眠時無呼吸における、分離型口腔内装置の有効性に関するランダム化比較試験	石山 裕之	義歯科(専)顎関節症外来	2,470,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
「光」を用いた骨代謝制御による薬剤関連顎骨壊死の新規予防・治療戦略	大杉 勇人	歯周病科	2,470,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
舌痛症の病態とその治療薬としての立効散の効果の検討	井村 紘子	歯科麻酔科(専)歯科ペインクリニック	1,040,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Ge-132含有SVF添加型コラーゲンスポンジによる骨再生材料の開発	山本 愛	口腔インプラント科	780,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
Ra-224線源からのα線が口腔がん細胞へ及ぼす致死効果の解明と至適刺入法の確立	野島 瞳	歯科放射線科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
成長期鼻呼吸障害が小脳シナプス刈り込みを介して嚥下機能に与えるメカニズムの解明	阿部 泰典	咬合機能矯正学分野	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
リラキシンを応用した新規骨縫合部制御法の開発	紙本 裕幸	顎顔面矯正学分野	2,730,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
流体解析を用いた上下顎移動術に関する検討:OSA発症予測システム開発に向けて	喜田 壮馬	咬合機能矯正学分野	1,950,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
可撤保隙装置製作におけるフルデジタル化ならびに機能形態付与の新たなシステム構築	小樋 香織	小児歯科	1,690,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
高齢者の口腔保健格差是正に向けた公的扶助制度の役割の検討	木野 志保	健康推進歯学	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
疑似ランダム化比較試験による口腔の全身影響の解明と医療経済評価指標の開発	松山 祐輔	国際健康推進医学	3,250,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
前十字靭帯再建後選手の片脚スクワットのスピードに基づく新たな膝伸展筋力指標の作成	見供 翔	スポーツ医学診療センター	1,820,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
癌免疫療法におけるPD-1-PD-L1/2経路の細胞群間格差の解析	沖山 奈緒子	皮膚科学分野	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
腎オルガノイドを用いたForward Geneticによる腎線維化制御機構の探索	蘇原 映誠	腎臓内科学	2,210,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
パーソナル化機能性蛋白産生オルガノイドの腸上皮移植による単回完結型補充療法の開発	岡本 隆一	消化器病態学	3,900,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脳への糖輸送機構を解明し、高分子医薬品を脳へ送達させる基盤技術を実用化する研究	西田 陽一郎	脳神経病態学	3,250,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
重症患者の急性肝傷害におけるmicrovesiclesの臨床的意義	若林 健二	生体集中管理学	3,900,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
間葉系幹細胞リプログラミングによるRejuvenationの挑戦	麻生 義則	分子生命医学講座	2,600,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
農作業が高齢者の精神的健康・認知症に及ぼす効果の検証	後藤 夕輝	国際健康推進医学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
髄腔内投与により到達しづらい脳深部を標的とする、高比重の核酸医薬化合物の創出	大原 正裕	脳神経病態学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CHAC1を介したスキルス胃癌発症メカニズムの解析と治療ターゲットの検索	和田 友里子	人体病理学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
脱分化型脂肪肉腫におけるテロメア維持機構:腫瘍進展機構の解明と予後予測への応用	國枝 純子	病理部	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
網羅的遺伝子解析による原発性眼球内リンパ腫の新規バイオマーカー探索	吉藤 康太	血液内科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
CRISPR libraryを用いた卵巣子宮内膜症におけるフェロトーシス誘導因子の同定	田口 登和子	包括病理学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患の腸上皮障害・再生反復モデルを用いた再生制御機構の解析	藤井 悟	消化器病態学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
尿細管オルガノイドによるsemi-personalized病態モデルの構築	森 雄太郎	腎臓内科学	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
尿路結石における潜在的腎機能障害の画像的解析とデルタラジオミクスによる特徴量抽出	早稲田 悠馬	泌尿器科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
頸動脈狭窄症の発症・進行に対するタンパクのシトルリン化が与える影響に関する研究	青山 二郎	血管内治療学分野	910,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
抗菌性根面う蝕修復材料の臨床応用を目指した抗菌メカニズムの解明と生体安全性評価	山本 真央	義歯科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
全エクソーム解析およびシングルセル解析による歯根短小症の発症要因の解明	佐川 夕季	矯正歯科	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
S.mutansのmembrane vesiclesを対象とした感染性心内膜炎の予防法の開発	岩淵 佑介	小児歯科(専)障害者歯科外来	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
歯胚発生におけるHippo-YAP/TAZシグナル伝達経路関連遺伝子の機能解析	仁木 佑紀	矯正歯科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
von Willebrand factor D and EGF domain の歯の発生段階における役割解明	岩田 こころ	小児歯科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌におけるリキッドバイオプシーを用いた経時的ゲノム解析の臨床的有用性の検討	野地 理夏	顎口腔外科学分野	1,300,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
抗酸化剤が2型糖尿病ラットのインプラントオッセオインテグレーションにもたらす効果	齋藤 夏実	歯周病科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
リゾリン脂質の三叉神経領域における神経障害性疼痛への関与の解明	栗栖 諒子	歯科麻酔科(専)歯科ペインクリニック	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
マルチオミックス解析から紐解く歯周炎発症・進行メカニズムの解明	根本 昂	歯周病学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
転写制御因子Mkxの歯科矯正学的な歯の移動における機能の解明	宮崎 貴行	矯正歯科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病状態の歯肉線維芽細胞にメホルミンが及ぼす影響	小湊 広美	歯周病学分野	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
海馬BDNF/TrkBシグナルの変調と成人期鼻呼吸障害改善の生物学的意義	石通 秀行	矯正歯科	1,430,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
DRPLAに対する核酸医薬を用いた遺伝子治療確立のための国際共同研究	中山 東城	脳神経病態学	3,900,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
疾患/臓器/領域レベルでのアナジー誘導性抗原提示細胞;DNT細胞研究の拡大	根本 泰宏	消化器病態学	5,590,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
病的近視による眼球変形メカニズム解明と眼球壁再生治療の確立	大野 京子	眼科学	3,900,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
骨格筋における代謝異常・サルコペニア肥満と歯周炎の関わり-健康長寿を目指して-	片桐 さやか	歯周病科	3,380,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
有床義歯補綴における臨床と教育のデジタルトランスフォーメーション	水口 俊介	高齢者歯科学	345,930	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
妊娠期の間欠的低酸素がもたらすエピゲノム変化の分子機構解明と医療応用の基盤構築	小野 卓史	咬合機能矯正学	1,720,489	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
婦人科がん患者に特化した心理療法プログラムの開発	中山 菜央	心身医療科	442,000	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
病的近視による眼球変形メカニズム解明と眼球壁再生治療の確立	大野 京子	眼科学	2,771,471	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
妊娠期の間欠的低酸素がもたらすエピゲノム変化の分子機構解明と医療応用の基盤構築	小野 卓史	咬合機能矯正学	5,068,663	補	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
テレワーカーの健康課題発生リスクや労働生産性に関連する生活・運動・睡眠習慣および身体機能の検証とそれに基づく指針作成のための研究	廣幡 健二	リハビリテーション医学分野	2,043,000	補	厚生労働省
原発性免疫不全症候群の診療ガイドライン改訂、診療提供体制・移行医療体制構築、データベースの確立に関する研究	森尾 友宏	発生発達病態学	10,000,000	補	厚生労働省
外傷患者に対する適切な救急医療提供体制の構築に資する研究	大友 康裕	救急災害医学	1,623,000	補	厚生労働省
外傷患者に対する適切な救急医療提供体制の構築に資する研究	大友 康裕	救急災害医学	2,192,984	補	厚生労働省
学童期及び思春期等における性に関する健康課題に対する診療及び支援体制の構築に向けた研究	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	4,193,000	補	厚生労働省
ゲーム障害の診断・治療法の確立に関する研究	治徳 大介	精神科	770,000	補	厚生労働省
がん治療薬効判定のための標準化画像診断に関する研究	立石 宇貴秀	画像診断・核医学	700,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
発達障害の社会的行動障害に関するマルチモーダルMRI研究	高橋 英彦	精神行動医科学	1,000,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
cT1-2N0-2胃癌におけるロボット支援下胃切除術の腹腔鏡下胃切除術に対する優越性を検証するランダム化比較試験	徳永 正則	消化管外科学	30,000	委	静岡県立静岡がんセンター
間質性肺炎に対する多施設共同前向き観察研究	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	410,000	委	国立大学法人東海国立大学機構
世界トップレベルの地域医療を東京に構築する事業	橋本 正良	総合診療医学分野	10,700,000	委	東京都
ゲーム障害の病態に関する神経画像的研究	高橋 英彦	精神行動医科学	1,000,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
多施設共同研究の質的向上に必要な生物統計手法に関する研究	平川 晃弘	臨床統計学分野	200,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
小児ARDSバイオレジストリを基盤とした新規バイオマーカー探索および予後予測モデル構築	若林 健二	生体集中管理学	100,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
脳動脈瘤の増大およびコイル塞栓術後再発におけるパロキセチンの抑制効果の後ろ向き検討	前原 健寿	脳神経機能外科学	15,000	委	独立行政法人国立病院機構京都医療センター
認定臨床研究審査委員会審査能力向上促進のための調査等事業一式	若林 健二	生体集中管理学	402,600	委	厚生労働省
認定臨床研究審査委員会審査能力向上促進のための調査等事業一式	高瀬 博	眼科学	391,908	委	厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
自家腸上皮オルガノイドを用いた潰瘍性大腸炎に対する粘膜再生治療の開発	岡本 隆一	消化器病態学	13,000,000	委	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
次世代血液脳関門通過性ヘテロ核酸の開発による脳神経細胞種特異的分子標的治療とブレインイメージング	横田 隆徳	脳神経病態学	122,200,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
注意欠如多動性障害の薬物療法の神経基盤の解明	高橋 英彦	精神行動医科学	32,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
ポイントオブケア型直接経口抗凝固薬・薬効評価システムの開発	内田 篤治郎	心肺統御麻酔学	21,345,081	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
トランスフェリン介在性中枢神経送達を利用した髄腔内投与型オーバーハングヘテロ2本鎖核酸の研究開発	吉岡 耕太郎	脳神経病態学	39,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
RNA標的創薬技術開発／核酸医薬品実用化のための製造及び分析基盤技術開発(革新的次世代核酸医薬-2)	横田 隆徳	脳神経病態学	143,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
リン酸化合物カルシウム塩と足場材料を用いた骨誘導能を有する新しい移植材料の開発	吉井 俊貴	整形外科学	1,650,000	委	国立大学法人筑波大学
アンチセンス核酸医薬を用いたRasGRP4阻害による多発性筋炎/皮膚筋炎の新規治療	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	2,450,000	委	国立大学法人北海道大学
認知症に対する非薬物療法のエビデンス創出に資するデータ品質一元管理センターの基盤構築と継続的研究支援のための体制整備	平川 晃弘	臨床統計学分野	54,598,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
毛細血管拡張性運動失調症に対する遺伝子治療法の開発	高木 正稔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	1,824,000	委	国立大学法人東京大学
環境温度ストレス適応におけるベージュ脂肪組織の誘導機構及び加齢による影響	池田 賢司	分子内分泌代謝学分野	13,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
カスパーゼ阻害薬を用いた慢性移植片対宿主病線維化病変に対する新規治療戦略	沖山 奈緒子	皮膚科学分野	1,350,000	委	国立大学法人筑波大学
精神疾患の神経自己免疫病態の包括的解明と治療法の開発	塩飽 裕紀	精神行動医科学	11,700,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
腫瘍の不均一性およびゲノム3次元構造の視点から見た乳児急性リンパ性白血病の理解と治療法に関する研究開発	高木 正稔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	13,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
iPS細胞を用いた自己組織化による複合型機能性ヒト腸管グラフト製造法の開発	水谷 知裕	消化器病態学	32,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
免疫担当細胞eQTL データを用いた免疫介在性疾患ゲノム情報からの層別化および予後予測モデルの構築	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	390,000	委	国立大学法人東京大学
自己複製するT/NK前駆細胞を用いた神経芽腫に対するCAR-NK細胞療法の開発	高木 正稔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	200,000	委	国立大学法人筑波大学
核酸医薬への応用を目指した非環状型人工核酸の開発	横田 隆徳	脳神経病態学	6,500,000	委	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学
幹細胞を中心とした皮膚レジリエンスの加齢性変容と臓器間フレイル関連機構の解明	沖山 奈緒子	皮膚科学	2,600,000	委	国立大学法人東京大学

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
働く女性の健康に関する非薬物的介入のシステマティックレビューと職域における女性の健康保持増進に向けたガイドライン作成	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	599,950	委	国立大学法人秋田大学
原発性免疫不全症・自己炎症性疾患・早期発症型炎症性腸疾患の臨床ゲノム情報を連結した患者レジストリの構築研究	森尾 友宏	発生発達病態学	10,942,100	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
前立腺特異的膜抗原をターゲットにした前立腺癌の画像診断法の確立と実用化に向けた機器開発に関する研究	立石 宇貴秀	画像診断・核医学	23,920,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
COVID-19感染症に伴う血管内皮障害の発生メカニズムの解明とその制御	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	3,770,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
患者レジストリを活用した脊柱靭帯骨化症の治療成績向上のための多施設臨床研究	吉井 俊貴	整形外科学	11,310,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
TDP-43タンパク質を標的とした筋萎縮性側索硬化症の核酸医薬開発	横田 隆徳	脳神経病態学	23,395,840	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
遺伝性腎線維化症ネフロン瘻の病態解明と新規治療法開発	蘇原 映誠	腎臓内科学	13,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
腎臓オルガノイドを用いた腎線維化修飾遺伝子の探索	須佐 紘一郎	腎臓内科学	9,100,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
COVID-19感染症に伴う血管内皮障害の発生メカニズムの解明とその制御	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	19,071,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
新規骨形成促進薬の効果の検証	吉井 俊貴	整形外科学	7,997,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
革新的オルガノイド技術を用いた肝線維化・発がん機構の解明と肝星細胞活性化制御をめざした治療法の創成	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	32,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
新規培養系を利用した肝星細胞の初期活性化機構の解明と抗線維化療法の標的分子の探索	三好 正人	消化器病態学	8,450,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
造血細胞移植後の治療抵抗性ウイルス感染症に対する第三者由来複数ウイルス特異的T細胞療法の開発と研究	森尾 友宏	発生発達病態学	48,100,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
脊髄小脳失調症31型に対する核酸医薬開発	横田 隆徳	脳神経病態学	74,620,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
ゲーム障害における視聴覚刺激による嗜癖行動悪化のメカニズム:アルコール依存症との比較を通じた検証	藤野 純也	精神行動医学分野	11,700,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
関節リウマチ滑膜線維芽細胞・マクロファージ炎症性サブセットを標的とした新規治療戦略の開発	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	20,410,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
重症COVID-19 治療薬開発の前臨床試験に向けたマウス急性低酸素性呼吸不全モデルの開発	若林 健二	生体集中管理学	50,700,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
腎臓オルガノイドを用いた腎線維化修飾遺伝子の探索	須佐 紘一郎	腎臓内科学	50,700,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
難治性クローン病に対する自家腸上皮オルガノイド移植の研究開発	岡本 隆一	消化器病態学	39,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
過敏性肺炎の全国疫学調査と疾患進行抑制のためのエクスポソーム研究	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	2,860,013	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
ポリグルタミン病に対する蛋白質凝集阻害薬の第II相試験□	横田 隆徳	脳神経病態学	5,265,000	委	国立大学法人新潟大学
性分化疾患・性成熟疾患に対する医療最適化に向けてのエビデンス創出	宮坂 尚幸	生殖機能協関学	910,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
特発性間質性肺炎の前向きレジストリの構築とインタラクティブMDD診断システムを用いた診断標準化に基づく疫学データの創出?人工知能(AI)診断システムと新規バイオマーカーの開発□	宮崎 泰成	統合呼吸器病学	260,000	委	国立大学法人浜松医科大学
Stage II大腸癌に対する術後補助化学療法の有用性に関する研究	絹笠 祐介	消化管外科学	2,340,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第III相試験	徳永 正則	消化管外科学	650,000	委	静岡県立静岡がんセンター
子宮頸癌 I B期- II B期根治手術例における術後放射線治療と術後化学療法の第III相ランダム化比較試験	吉村 亮一	腫瘍放射線治療学	65,000	委	静岡県立静岡がんセンター
HTLV-1の総合的な感染対策に資する研究	鴨居 功樹	眼科学	1,300,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
再生医療等安全性確保法に従い実施される再生医療等臨床研究および再生医療等製品等の開発を目指す医師主導治験等を支援する再生医療ナショナルコンソーシアムの実現	森尾 友宏	発生発達病態学	15,080,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
心拍変動解析によるてんかん発作予知AIシステムの研究開発	宮島 美穂	精神行動医科学	7,150,000	委	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学
自己免疫性疾患の臓器病変局所におけるシングルセルRNAシーケンスを用いたマルチオミクス解析による病態解明基盤の構築	梅澤 夏佳	膠原病・リウマチ内科学	130,000	委	国立大学法人東京大学
Stage I/II舌癌に対する予防的頸部郭清省略の意義を検証するための多施設共同臨床試験	朝蔭 孝宏	頭頸部外科学	910,000	委	愛知県がんセンター
未診断疾患イニシアティブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases(IRUD)):希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	森尾 友宏	発生発達病態学	5,200,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
運動失調症の治療法開発を見据えた病型別前向き自然歴・バイオマーカーの確立□	石川 欽也	ゲノム健康医療学分野	650,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
卵巣がんゲノム搭載細胞外小胞による新規リキッドバイオプシー戦略	平川 晃弘	臨床統計学分野	260,000	委	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学
「乳児急性リンパ性白血病の新規治療戦略確立をめざす国際共同第III相試験に向けた多施設共同第II相臨床試験」開発研究	平川 晃弘	臨床統計学分野	260,000	委	国立大学法人大阪大学
独自開発・革新性能の増殖制御型アデノウイルスの骨腫瘍(希少・難治性がん)承認への第II相医師主導治験	平川 晃弘	臨床統計学分野	1,300,000	委	国立大学法人鹿児島大学
次世代シーケンス技術を基盤としたC型肝炎ウイルス排除後における肝癌出現機序・病態変化の解明とバイオマーカーの開発	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	910,000	委	国立大学法人山梨大学
インターフェロンフリー治療がC型肝炎硬変患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	1,040,000	委	国立大学法人大阪大学

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
東京大学大学院における生物統計家育成のための卒業教育まで含めた一貫した教育プログラムの研究開発	平川 晃弘	臨床統計学分野	500,000	委	国立大学法人東京大学
血清・肝組織の網羅的グライコミクス等による、肝線維化の病態を効率的に評価・予後予測するバイオマーカーの探索	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	1,040,000	委	国立大学法人北海道大学
従来のゲノム解析で診断困難な原発性免疫不全症患者の診断法の開発	金兼 弘和	小児地域成育医療学講座	780,000	委	国立大学法人広島大学
女性ホルモンの影響による疾病の予防・治療に資するライフコース研究	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	390,000	委	国立大学法人群馬大学
非悪性疾患の小児患者に対する同種造血幹細胞移植におけるアテムツズマブの安全性および有効性に関する研究	金兼 弘和	小児地域成育医療学講座	520,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
B型肝炎培養細胞、抗ウイルス応答細胞モデルを用いた創薬シーズ化合物の大規模探索	朝比奈 靖浩	肝臓病態制御学講座	5,200,000	委	国立大学法人北海道大学
球脊髄性筋萎縮症に対する適正治療エビデンス創出のためのリアルワールドデータベース整備	平川 晃弘	臨床統計学分野	1,950,000	委	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学
原発性免疫異常症患者を対象としたシロリムスの有効性及び安全性を検討する医師主導治験	高木 正稔	茨城県小児・周産期地域医療学講座	41,730,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)
性差をみとめる運動器疾患の病態の解明とそれに基づく診断・治療・予防戦略の開発	寺内 公一	茨城県地域産科婦人科学講座	1,950,000	委	国立大学法人東京大学
植込型補助人工心臓装着予定患者を対象とした出血性合併症リスクの事前予測に基づいた個別化精密医療・最適化補助人工心臓治療の実現	水野 友裕	心臓血管外科学	208,000	委	国立大学法人東北大学
乾燥ろ紙血プロテオーム解析を用いた原発性免疫不全症診断の効率化研究	山下 基	発生発達病態学分野	780,000	委	国立大学法人京都大学
COVID-19を含む公衆衛生危機管理上、医薬品等の確保が必要な感染症に係る臨床研究を迅速かつ効率的に進めるための研究	平川 晃弘	臨床統計学分野	6,500,000	委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
原発性眼内悪性リンパ腫に対するブルトンキナーゼ阻害剤による医師主導による第Ⅱ相二重盲検比較試験	高瀬 博	眼科学	650,000	委	国立大学法人東京大学
COVID-19感染による血栓症発症・増悪機転の解明と治療介入の可能性の解明	保田 晋助	膠原病・リウマチ内科学	1,300,000	委	国立大学法人浜松医科大学
宿主免疫異常に着目したCOVID-19小児例における重症化の分子機構の解明	森尾 友宏	発生発達病態学	1,300,000	委	国立大学法人広島大学
インドネシアでの、てんかん診療の質向上をめざしたデジタル脳波のワイドバンド成分の記録解析普及の実装研究	前原 健寿	脳神経機能外科学	325,000	委	国立大学法人京都大学
DDS内在型2本鎖核酸医薬技術の創生	吉岡 耕太郎	脳神経病態学	7,800,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)
上皮細胞サーキュレーションによる疾患制御イノベーション	水谷 知裕	消化器病態学	9,100,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)
幻覚スペクトラムの操作と可視化	高橋 英彦	精神行動医科学	3,562,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
末梢臓器情報を中枢に伝達する分子機序解明とその制御法の開発	山田 哲也	分子内分泌代謝学	101,530,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
ウィズコロナに対応した健康ビッグデータプラットフォーム基盤強化と利活用の加速	平川 晃弘	臨床統計学分野	4,550,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
逆境の中でも前向きに生きられる社会の実現	高橋 英彦	精神行動医科学	12,480,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
健康を基軸とした経済発展モデルと全世代アプローチでつくるwell-being地域社会共創拠点	平川 晃弘	臨床統計学分野	2,999,100	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
試料集積の方法検討、トランスレーショナル実施案検討	三浦 雅彦	口腔放射線腫瘍学	100,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
フレイル高齢者に対する老年医学・老年栄養学的介入および老年医学の発展に関する研究	戸原 玄	摂食嚥下リハビリテーション学分野	500,000	委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
フレイル高齢者に対する老年医学・老年栄養学的介入および老年医学の発展に関する研究	中川 量晴	摂食嚥下リハビリテーション学分野	500,000	委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
近赤外蛍光を用いた誤嚥リスク検出装置の開発	中川 量晴	摂食嚥下リハビリテーション学分野	2,990,000	委	国立大学法人電気通信大学
歯ぎしりの咬合圧・咬筋筋活動測定フィードバックによる新しい治療システム開発	大森 浩子	矯正歯科	13,000,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
口腔内細菌叢破綻による生涯の代謝異常の病態解明	片桐 さやか	歯周病外来	11,039,600	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)
認定臨床研究審査委員会審査能力向上促進のための調査等事業一式	長堀 正和	臨床試験管理センター	259,870	委	厚生労働省
認定臨床研究審査委員会審査能力向上促進のための調査等事業一式	遠藤 明史	臨床試験管理センター	268,400	委	厚生労働省
間質性肺炎により促進される肺発がん機構の免疫ゲノム学的理解と治療戦略の提案	本多 隆行	呼吸器内科	1,300,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
高解像度3次元イメージングによる特発性後天性全身性無汗症の神経病態解析	飯田 忠恒	皮膚科	10,400,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
先天性心疾患を伴う肺高血圧症例の多施設症例登録研究	土井 庄三郎	小児科	12,870,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
高解像度3次元イメージングによる特発性後天性全身性無汗症の神経病態解析	飯田 忠恒	皮膚科	10,400,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
先天性腎性尿崩症と分類不能型免疫不全症に共通するLRBA依存性膜輸送機構の解明	安藤 史顕	腎臓内科	6,500,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
新生児マススクリーニング対象拡充のための疾患選定基準の確立	遠藤 明史	臨床試験管理センター	260,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
誰もが参加し繋がることでウェルビーイングを実現する都市型ヘルスコモンズ共創拠点に関する国立大学法人東京医科歯科大学による研究開発	藍 真澄	保険医療管理部	594,750	委	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(円)	補助元又は委託元	
脳性まひモデル動物慢性期に対する歯髄幹細胞投与による治療効果の作用機序の検討	森丘 千夏子	茨城県小児・周産期地域医療学講座	715,000	委	国立大学法人東海国立大学機構
AI及びリモートテクノロジーを用いた心房細動の早期発見により清水区を脳梗塞の少ないまちにする地域医療共同研究(臨床研究)	笹野 哲郎	循環制御内科学	28,530,000	委	静岡市
研究プロジェクト「注射剤・経口剤の粘膜吸収製剤への応用」において実施する臨床薬理試験にかかる助言、指導	平川 晃弘	臨床試験管理センター	600,000	委	国立大学法人富山大学
COVID-19感染者における健康と回復に関するコホート研究Ⅱ	野坂 宜之	生体集中管理学	20,000	委	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
化学療法未施行の切除不能進行・再発固形癌に対するマルチプレックス遺伝子パネル検査の有用性評価に関する臨床研究	池田 貞勝	がん先端治療部	400,000	委	国立大学法人京都大学
「化学療法未施行の切除不能進行・再発固形癌に対するマルチプレックス遺伝子パネル検査の有用性評価に関する臨床研究(FIRST-Dx trial)」の研究期間後フォローアップ観察研究	池田 貞勝	臨床腫瘍学	858,000	委	国立大学法人京都大学
歯周組織再生のための最適な間葉系幹細胞治療の開発	岩田 隆紀	歯周病学	1,140,000	委	文部科学省 独立行政法人日本学術振興会
世界トップレベルの地域医療を東京に構築する事業	橋本 正良	総合診療医学分野	11,562,900	委	東京都
不純物を極限まで減らしたMgとCaによる超高機能生体吸収膜によるハイブリッドインプラントの開発	吉井 俊貴	整形外科学	3,482,648	委	経済産業省
中小病院におけるポストコロナ時代の感染症健康危機への対応能力強化事業	具 芳明	統合臨床感染症学分野	30,000,000	委	東京都
世界初の自動培養と生体内環境を再現できるIoT・AI技術を融合した安価なスマートシステムの開発	岩本 勉	小児歯科学・障害者歯科学分野	490,315	委	公益財団法人千葉県産業振興センター
世界初の自動培養と生体内環境を再現できるIoT・AI技術を融合した安価なスマートシステムの開発	川島 伸之	歯髄生物学	1,482,927	委	公益財団法人千葉県産業振興センター
不純物を極限まで減らしたMgとCaによる超高機能生体吸収膜によるハイブリッドインプラントの開発	丸川 恵理子	口腔再生再建学分野	3,095,872	委	経済産業省
インクルーシブフードの開発及び試食会の実施	戸原 玄	摂食嚥下リハビリテーション学分野	6,000,000	委	東京都

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、該当医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計508件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Nogami A., Sasaki K	血液内科	Therapeutic Advances in Immunotherapies for Hematological Malignancies	Int J of Molecular Sci . 2022.09;23(19):11526	Review
2	Masahide Yamamoto, Maho Sato, Yasushi Onishi et al	血液内科	Registry data analysis of hematopoietic stem cell transplantation on systemic chronic active Epstein-Barr virus infection patients in Japan	Am J Hematol. 2022.06; 97 (6): 780-790.	Original Article
3	Satoru Aoyama, Shunichiro Yasuda, Huixin Li et al	血液内科	A novel chimeric antigen receptor (CAR) system using an exogenous protease, in which activation of T cells is controlled by expression patterns of cell-surface proteins on target cells	Int J Mol Med. 2022.04; 49 (4):42.	Original Article
4	Tomoko Niwano, Tadashi Hosoya, Saori Kadowaki, et al	膠原病・リウマチ内科	An adult case of suspected A20 haploinsufficiency mimicking polyarteritis nodosa	Rheumatology (Oxford). 2022.11; 61 (11): e337-e340	Case report
5	Umezawa N, Sasaki H, Furusawa H, et al	膠原病・リウマチ内科	Development of vasculitis in a case with severe asthma treated with benralizumab and low-dose corticosteroid	Allergology international : official journal of the Japanese Society of Allergology. 2023.01;72(1):179-181	Case report
6	Mari Kamiya, Fumitaka Mizoguchi, Shinsuke Yasuda	膠原病・リウマチ内科	Amelioration of inflammatory myopathies by glucagon-like peptide-1 receptor agonist via suppressing muscle fibre necroptosis Journal of Cachexia	Sarcopenia and Muscle. 2022.06; 13 (4): 2118-2131	Original Article
7	Yoshizuka R, Hasegawa H, Kamiya M, et al	膠原病・リウマチ内科	Refractory antiphospholipid antibody syndrome-induced thrombocytopenia successfully treated with belimumab	Lupus. 2022.04; 31 (5): 624-627	Case report
8	Komiya Yoji, Sugihara Takahiko, Hirano Fumio, et al	膠原病・リウマチ内科	Factors associated with impaired physical function in elderly rheumatoid arthritis patients who had achieved low disease activity	MODERN RHEUMATOLOGY. 2022. 12. (オンライン)	Original Article
9	Oba S., Hosoya T., Kawata D., et al	膠原病・リウマチ内科	SARS-COV-2 INFECTION CAUSED THROMBOSIS IN THE LUPUS MODEL WITH ANTIPHOSPHOLIPID ANTIBODY, WHEREAS COVID-19 ASSOCIATED THROMBOSIS WAS IRRELEVANT IN PATIENTS WITH POSITIVE ANTIPHOSPHOLIPID ANTIBODY	ANNALS OF THE RHEUMATIC DISEASES. 2022.06; 81 331-332.	Original Article
10	Kondo Fumiaki, Sugihara Takahiko, Umezawa Natsuka, et al	膠原病・リウマチ内科	Associated factors with poor treatment response to initial glucocorticoid therapy in patients with adult-onset Still's disease	ARTHRITIS RESEARCH & THERAPY. 2022.04; 24 (1): 92.	Original Article
11	Miyauchi M, Akashi T, Furukawa A, et al	糖尿病・内分泌・代謝内科	PHOX2B is a Sensitive and Specific Marker for the Histopathological Diagnosis of Pheochromocytoma and Paraganglioma	Endocr Pathol. 2022 Dec; 33 (4): 506-518	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
12	Masanori Murakami, Na Sun, Fengxia Li, et al	糖尿病・内分泌・代謝内科	In Situ Metabolomics of Cortisol-Producing Adenomas	Clin Chem. 2023 Feb;69(2):149-159.	Original Article
13	Kazunari Hara, Masanori Murakami, Yoshihiro Niitsu, et al	糖尿病・内分泌・代謝内科	Heterogeneous circulating miRNA profiles of PBMAH	Front Endocrinol (Lausanne). 2022 Dec; 13:1073328(オンライン)	Original Article
14	Horino Masato, Ikeda Kenji, Yamada Tetsuya	糖尿病・内分泌・代謝内科	The Role of Thermogenic Fat Tissue in Energy Consumption	CURRENT ISSUES IN MOLECULAR BIOLOGY. 2022 Jul;44(7):3166-3179.	Review
15	Ikeda Kenji, Yamada Tetsuya	糖尿病・内分泌・代謝内科	Adipose tissue thermogenesis by calcium futile cycling	JOURNAL OF BIOCHEMISTRY.2022 Sep;172(4):197-203.	Review
16	Mitsuhide Naruse, Masanori Murakami, Takuyuki Katabami, et al	糖尿病・内分泌・代謝内科	International multicenter survey on screening and confirmatory testing in primary aldosteronism	Eur J Endocrinol. 2023 Jan;188(1):lvac002.	Original Article
17	Nakano Yujiro, Murakami Masanori, Hara Kazunari, et al	糖尿病・内分泌・代謝内科	Long-term effects of primary aldosteronism treatment on patients with primary aldosteronism and chronic kidney disease	CLINICAL ENDOCRINOLOGY.2023 Mar;98(3):323-331	Original Article
18	Hara Y, Ando F, et al	腎臓内科	LRBA is essential for urinary concentration and body water homeostasis	Proc Natl Acad Sci U S A. 2022 July (オンライン)	Original Article
19	Yanagi T, Kikuchi H, Susa K, et al	腎臓内科	Absence of ULK1 decreases AMPK activity in the kidney, leading to chronic kidney disease progression	Genes Cells. 2023 Jan; 28(1): 5-14	Original Article
20	Koide T, Mandai S, et al	腎臓内科	Circulating Extracellular Vesicle-Propagated microRNA Signature as a Vascular Calcification Factor in Chronic Kidney Disease	Circ Res. 2023 Feb 17;132(4):415-431.	Original Article
21	Araki M, Park SJ, Dauerman HL et al	循環器内科	Optical coherence tomography in coronary atherosclerosis assessment and intervention	Nature reviews. Cardiology. 2022.10; 19(10): 684-703	Review
22	Yonetsu T, Kakuta T	循環器内科	FFR-Guided PCI Optimization Directed by High-Definition IVUS: Is its Benefit Worth its Cost? JACC	Cardiovascular interventions. 2022.08; 15(16): 1608-1610	Others
23	Takigawa M, Goya M, Ikenouchi T, et al	循環器内科	Confirmation of the achievement of linear lesions using 'Activation Vectors' based on omnipolar technology	Heart rhythm. 2022.11;19(11):1792-1801	Original Article
24	Takigawa M, Goya M, Ikenouchi T, et al	循環器内科	Slow continuous activity in the circuit of PV-gap reentry successfully diagnosed by an omnipolar technology	Indian pacing and electrophysiology journal. 2022.06; 22 (5): 235-237.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
25	Ono Shunzaburo, Komatsu Masaaki, Sakai Akira ,et a	循環器内科	Automated Endocardial Border Detection and Left Ventricular Functional Assessment in Echocardiography Using Deep Learning	BIOMEDICINES. 2022.05; 10 (5):1082	Original Article
26	Amemiya Miki, Takigawa Masateru, Goya Masahiko, et al	循環器内科	Comparison of two catheters measuring local impedance: local impedance variation vs lesion characteristics and steam pops	JOURNAL OF INTERVENTIONAL CARDIAC ELECTROPHYSIOLOGY. 2022.Nov;65(2):419-428	Original Article
27	Shun Kaneko, Masayuki Kurosaki, Toshie Mashiba, et al	消化器内科	Risk factors for hepatocellular carcinoma at baseline and 1 year after initiation of nucleos(t)ide analog therapy for chronic hepatitis B	J Med Virol. 2022.10; Online ahead of print	Case report
28	Ami Kawamoto, Toshimitsu Fujii, Ryuji Mitani, et al	消化器内科	Serum Levels of Infliximab Biosimilar in a Child Delivered From a Mother Treated for Ulcerative Colitis	Inflamm Bowel Dis. 2022.06;Online ahead of print	Case report
29	Yoshio Kitazume, Kento Takenaka, Kazuo Ohtsuka, et al	消化器内科	Motility Mapping Quantification Using the Classical Optical Flow Algorithm for Small Bowel Crohn's Disease: Comparison with Balloon-assisted Enteroscopy Findings	Magn Reson Med Sci. 2022.05; Online ahead of print	Original Article
30	Shuji Hibiya, Kazuo Ohtsuka, Kento Takenaka, et al	消化器内科	Mucosal healing of small intestinal stricture is associated with improved prognosis post-dilation in Crohn's disease	BMC Gastroenterol. 2022.05; 22 (1): 218	Original Article
31	Masanori Kobayashi, Shomei Ryozaawa, Kazuo Ohtsuka, et al	消化器内科	A convenient and reliable method for endoscopic mapping biopsy of cholangiocarcinoma using a double-lumen cytology device	VideoGIE. 2022.05; 7 (5): 182-184	Case report
32	Kento Takenaka, Ami Kawamoto, Ryuichi Okamoto, et al	消化器内科	Artificial intelligence for endoscopy in inflammatory bowel disease	Intest Res. 2022.04; 20 (2): 165-170	Original Article
33	Ami Kawamoto, Kento Takenaka, Ryuichi Okamoto, et al	消化器内科	Systematic review of artificial intelligence-based image diagnosis for inflammatory bowel disease	Dig Endosc. 2022 Nov;34(7):1311-1319	Review
34	Hiroki H, Akahane K, Inukai T, et al	小児科	Synergistic effect of combined PI3 kinase inhibitor and PARP inhibitor treatment on BCR/ABL1-positive acute lymphoblastic leukemia cells	International journal of hematology. 2022.12; 117 (5): 748-758	Case report
35	Motoi Yamashita, Shiori Eguchi, Dan Tomomasa, et al	小児科	Case report: HLA-haploidentical hematopoietic cell transplant with posttransplant cyclophosphamide in a patient with leukocyte adhesion deficiency type I	Front Immunol. 2022.10; 13 1020362	Case report
36	Satoshi Miyamoto, Takasuke Ebato, Eri Watanabe, et al	小児科	B-Cell Immune Reconstitution with Mixed Chimerism After Hematopoietic Cell Transplantation in a Patient with Severe Combined Immunodeficiency	J Clin Immunol. 2022.10; 42 (7): 1392-1395	Case report
37	Tomoya Isobe, Masatoshi Takagi, Aiko Sato-Otsubo,et al	小児科	Multi-omics analysis defines highly refractory RAS burdened immature subgroup of infant acute lymphoblastic leukemia	Nat Commun. 2022.08; 13 (1): 4501	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
38	Akira Nishimura, Satoshi Miyamoto, Kohsuke Imai, et al	小児科	Conditioning regimens for inborn errors of immunity: current perspectives and future strategies	Int J Hematol. 2022.07; 116 (1): 7-15	Review
39	Takagi M, Ogawa C, Iehara T, et al	小児科	First phase 1 clinical study of olaparib in pediatric patients with refractory solid tumors	Cancer. 2022.05; 128 (15): 2949-2957	Original Article
40	Miyamoto S, Umeda K, Kurata M, et al	小児科	Hematopoietic Cell Transplantation for Inborn Errors of Immunity Other than Severe Combined Immunodeficiency in Japan: Retrospective Analysis for 1985-2016	J Clin Immunol. 2022.04; 42 (3): 529-545	Original Article
41	Motoi Yamashita, Tomohiro Morio	小児科	AIOLOS Variants Causing Immunodeficiency in Human and Mice	Front Immunol. 2022.04; 13 866582	Original Article
42	Dan Tomomasa, Takeshi Isoda, Noriko Mitsuiki, et al	小児科	Successful TCR $\alpha \beta$ /CD19-Depleted Hematopoietic Cell Transplantation for a Patient With Artemis Deficiency	J Pediatr Hematol Oncol. 2023.03; 45 (2): e285-e289	Case report
43	Motoi Yamashita, Masae Kuroha, Yuko Kinowawki, et al	小児科	A SAMD5-SASH1 fusion in solitary infantile myofibromatosis	Pediatr Blood Cancer. 2023.03;70 (6): e30278	Letter
44	Matsumura T, Hosokawa S, Hanaoka M, et al	小児科	Transient ventricular bigeminy during emergence from general anesthesia in a pediatric patient with catecholaminergic polymorphic ventricular tachycardia	Journal of electrocardiology. 2022.05; 73 38-41	Original Article
45	Yusuke Noguchi, Atsuko Taki, Izumi Honda, et al	小児科	Transcriptome analysis of umbilical cord mesenchymal stem cells revealed fetal programming due to chorioamnionitis	Sci Rep. 2022.04; 12 (1): 6537	Original Article
46	Yawata T, Takagi S, Tamura T, et al	精神科	Psychosis treatment in a patient with Parkinsonian type multiple system atrophy using modified electroconvulsive therapy: a case report	Psychogeriatrics : the official journal of the Japanese Psychogeriatric Society. 2022.12; 23 (2): 364-367	Case report
47	Matsumoto Y, Nishida S, Hayashi R et al	精神科	Disorganization of Semantic Brain Networks in Schizophrenia Revealed by fMRI	Schizophrenia bulletin. 2023 Mar 15;49(2):498-506	Original Article
48	Takahashi Y, Yamamoto T, Oyama J et al	精神科	Increase in Cerebral Blood Flow After Catheter Ablation of Atrial Fibrillation	JACC. Clinical electrophysiology. 2022.11; 8 (11): 1369-1377	Original Article
49	Tamura Takehiro, Sugihara Genichi, Okita Kyoji et al	精神科	Dopamine dysfunction in depression: application of texture analysis to dopamine transporter single-photon emission computed tomography imaging	Translational psychiatry. 2022.08; 12 (1): 309	Original Article
50	Takagi Shunsuke, Yamashiro Katsumi, Sugihara Genichi, et al	精神科	Hippocampal calcification and its effects on cognitive function and symptoms in dementia	Psychogeriatrics : the official journal of the Japanese Psychogeriatric Society. 2022.07; 22 (4): 427-432	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
51	Shiwaku H, Katayama S, Kondo K et al	精神科	Autoantibodies against NCAM1 from patients with schizophrenia cause schizophrenia-related behavior and changes in synapses in mic	Cell Rep Med. 2022.04; 3 (4): 100597	Original Article
52	Takagi Shunsuke, Yamaguchi Tatsuya, Hori Hikaru et al	精神科	Motor Functional Characteristics in Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder and Autism Spectrum Disorders	A Systematic Review NEUROPSYCHIATRIC DISEASE AND TREATMENT. 2022; Aug 9;18 1679-1695	Review
53	Abe D, Inaji M, Hashimoto S et al	精神科	Epilepsy surgery for dominant-side mesial temporal lobe epilepsy without hippocampal sclerosis	Journal of clinical neuroscience : official journal of the Neurosurgical Society of Australasia. 2023.03; 111 16-21	Original Article
54	Kawata T, Sugihara G, Kakibuchi Y et al	精神科	Attention-deficit hyperactivity symptoms and risk of alcohol use relapse	Neuropsychopharmacology reports. 2023.03; 43 (1): 103-111	Original Article
55	Ishii S, Takagi S, Kobayashi N et al	精神科	Hyperfocality symptom and internet addiction in individuals with attention-deficit/hyperactivity disorder trait	Frontiers in psychiatry. 2023;Mar 16; 14: 1127777	Original Article
56	Ichikura Kanako, Matsuoka Shiho, Chiba Hiroki et al	精神科	Health care providers' perspectives on providing end-of-life psychiatric care in cardiology and oncology hospitals: a cross-sectional questionnaire survey	BMC PALLIATIVE CARE. 2023.03; 22 (1): 23	Case report
57	Yuya Sato, Jun Sese, Takatoshi Matsuyama, et al	胃外科	Preliminary study for developing a navigation system for gastric cancer surgery using artificial intelligence	Surgery today. 2022.10; 52 (12): 1753-1758	Original Article
58	Akitoshi Nankaku, Masanori Tokunaga, Hiroki Yonezawa, et al	胃外科	Maximum acceptable communication delay for the realization of telesurgery	Public Library of Science one. 2022.10; 17 (10): e0274328	Original Article
59	Takahiro Igaki, Daichi Kitaguchi, Shigehiro Kojima, et al	胃外科	Artificial Intelligence-Based Total Mesorectal Excision Plane Navigation in Laparoscopic Colorectal	Surgery Diseases of the colon and rectum. 2022.05; 65(5):e329-e333 (5)	Original Article
60	Miyauchi M, Akashi T, Furukawa A, et al	肝胆膵外科	PHOX2B is a Sensitive and Specific Marker for the Histopathological Diagnosis of Pheochromocytoma and Paraganglioma	Endocr Pathol. 2022.12; 33 (4): 506-518	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
61	Fujiwara S, Kobayashi M, Ohtsuka K, et al	肝胆膵外科	The Double-Max method: a novel method for gallbladder epithelial biopsy	VideoGIE. 2022.08; 7 (9): 334-336	Original Article
62	Kabashima A, Matsuo Y, Ito S, et al	肝胆膵外科	cGAS-STING signaling encourages immune cell overcoming of fibroblast barricades in pancreatic cancer	Scientific Reports. 2022.06; 12 (1): 10466	Original Article
63	Kato T, Kudo A, Kinowaki Y, et al	肝胆膵外科	A novel classification of portal venous tumor invasion to predict residual tumor status after surgery in patients with pancreatic neuroendocrine neoplasms	J Cancer Res Clin Oncol. 2022.04; 148 (4): 931-941	Original Article
64	Ishida H, Ogura T, Takahashi A, et al	肝胆膵外科	Optimal Region of Lymph Node Dissection in Distal Pancreatectomy for Left-Sided Pancreatic Cancer Based on Tumor Location	Ann Surg Oncol. 2022.04; 29 (4): 2414-2424	Original Article
65	Kudo A, Tateishi U, Yoshimura R, et al	肝胆膵外科	Safety and response after peptide receptor radionuclide therapy with ¹⁷⁷ Lu-DOTATATE for neuroendocrine tumors in phase 1/2 prospective Japanese trial	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2022.04; 29 (4): 487-499	Original Article
66	Ishii T, Akiyama Y, Shimada S, et al	肝胆膵外科	Identification of a novel target of SETD1A histone methyltransferase and the clinical significance in pancreatic cancer.	Cancer Sci. 2023.02; 114 (2): 463-476	Original Article
67	Morishita K, Kudo A, Uchida T, et al	肝胆膵外科	Unexpected Mechanical Ventilation Dysfunction in a Coronavirus Disease Patient With Severe Pneumonia Due to the Oxygen Flowsensor Failure	J Patient Saf. 2022.08; 18 (5): e867-e868	Original Article
68	Orihara Asumi, Inaji Motoki, Fujii Shoko, et al	脳神経外科	Validity of intraoperative ECoG in the parahippocampal gyrus as an indicator of hippocampal epileptogenicity	EPILEPSY RESEARCH. 2022.08; 184 106950	Original Article
69	Hara Shoko, Tanaka Yoji, Inaji Motoki, et al	脳神経外科	Spatial coefficient of variation of arterial spin labeling MRI for detecting hemodynamic disturbances measured with O-15-gas PET in patients with moyamoya disease	NEURORADIOLOGY. 2022.04; 64 (4): 675-684	Original Article
70	Naoto Watanabe, Kazumasa Miyatake, Ryohei Takada, et al	整形外科	The prevalence and treatment of osteoporosis in patients undergoing total hip arthroplasty and the levels of biochemical markers of bone turnover	Bone Joint Res. 2022.12; 11 (12): 873-880	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
71	Toshitaka Yoshii, Shingo Morishita, Satoru Egawa, et al	整形外科	Prospective Investigation of Surgical Outcomes after Anterior Decompression with Fusion and Laminoplasty for the Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament: A Propensity Score Matching Analysis	J Clin Med. 2022.11; 11 (23): 7012	Original Article
72	Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Hiroyuki Inose, et al	整形外科	Intraosseous Aggressive Schwannoma In The Lumbar Spine	A Case Report Spine Surgery and Related Research. 2022.10; Article ID: 2022-0168	Case report
73	Toshitaka Yoshii, Takashi Hirai, Satoru Egawa, et al	整形外科	Case Report: Dural Dissection With Ventral Spinal Fluid-Filled Collection in Superficial Siderosis: Insights Into the Pathology From Anterior-Approached Surgical Cases	Front Neurol. 2022.07; 13 919280	Original Article
74	Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, Jun Hashimoto, et al	整形外科	Clinical Characteristics of Patients with Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament and a High OP Index: A Multicenter Cross-Sectional Study (JOSL Study)	J Clin Med. 2022.06; 11 (13): 3694	Original Article
75	Takahisa Ogawa, Toshitaka Yoshii, Jun Oyama, et al	整形外科	Detecting ossification of the posterior longitudinal ligament on plain radiographs using a deep convolutional neural network: a pilot study	Spine J. 2022.06; 22 (6): 934-940	Original Article
76	Shingo Morishita, Toshitaka Yoshii, Hiroyuki Inose, et al	整形外科	Perioperative Complications of Anterior Decompression with Fusion in Degenerative Cervical Myelopathy-A Comparative Study between Ossification of Posterior Longitudinal Ligament and Cervical Spondylotic Myelopathy Using a Nationwide Inpatient Database	J Clin Med. 2022.06; 11 (12): 3398	Original Article
77	Yuko Hoshino, Shigenori Kawabata, Yoshiaki Adachi, et al	整形外科	Magnetoneurography as a novel functional imaging technique for the ulnar nerve at the elbow	Clin Neurophysiol. 2022.06; 138 153-162	Original Article
78	Shingo Morishita, Toshitaka Yoshii, Hiroyuki Inose, et al	整形外科	Comparison of perioperative complications in anterior decompression with fusion and posterior decompression with fusion for thoracic ossification of the posterior longitudinal ligament -a retrospective cohort study using a nationwide inpatient database	J Orthop Sci. 2022.05; 27 (3): 600-605	Original Article
79	Masahiro Tsutsumi, Isao Yamaguchi, Akimoto Nimura, et al	整形外科	In vivo magnetic resonance imaging study of the hip joint capsule in the flexion abduction external rotation position	Sci Rep. 2022.04; 12 (1): 6656	Original Article
80	Ryohei Takada, Tetsuya Jinno, Kazumasa Miyatake	整形外科	Difference in tapered wedge stem alignment between supine and lateral position in cementless total hip arthroplasty via modified Watson-Jones anterolateral approach	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2022.04; 32 (3): 497-503	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
81	Takuya Takahashi, Takashi Hirai, Toshitaka Yoshii, et al	整形外科	Risk factors for recurrence and regrowth of spinal schwannoma	J Orthop Sci. 2022.04; (22): 00069-0	Original Article
82	Masanobu Hirao, Kazumasa Miyatake, Ryohei Takada, et al	整形外科	Periprosthetic fragility fracture of the femur after primary cementless total hip arthroplasty	Mod Rheumatol. 2022.04; 32 (3): 626-633	Original Article
83	Takuya Takahashi, Toshitaka Yoshii, Kanji Mori, et al	整形外科	Comparison of radiological characteristics between diffuse idiopathic skeletal hyperostosis and ankylosing spondylitis: a multicenter study	Sci Rep. 2023.02; 13 (1): 1849	Original Article
84	Kentaro Yamada, Yusuke Hori, Toshitaka Yoshii, et al	整形外科	Pneumothorax by Penetrating Endplate Screw for Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis- Related Thoracolumbar Fracture	Cureus. 2023.01; 15 (1): e33440	Original Article
85	Shunichi Fujii, Kentaro Endo, Nobutake Ozeki et al	整形外科	Comparison of adhesion of thawed and cultured synovial mesenchymal stem cells to the porcine meniscus and the relevance of cell surface microspike	BMC Molecular and Cell Biology. 2022.12; 23 (1): 53	Original Article
86	Hiroki Katagiri, Bruce B Forster, Lars Engebretsen et al	整形外科	Epidemiology of MRI-detected muscle injury in athletes participating in the Tokyo 2020 Olympic Games	Br J Sports Med. 2022.12; 57 (4): 218- 224	Original Article
87	Yusuke Nakagawa, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura et al	整形外科	Mid-term clinical outcomes of a posterior stabilized total knee prosthesis for Japanese patients: A minimum follow-up of 5 years	J Orthop Sci. 2022.12; (ONLINE)	Original Article
88	Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura, Yusuke Nakagawa et al	整形外科	Simultaneous Correction of Varus Deformity and Posterior Tibial Slope by Modified Hybrid Closed-Wedge High Tibial Osteotomy	Arthrosc Tech. 2022.11; 11 (11): e2081- e2089	Original Article
89	Naoto Watanabe, Ryohei Takada, Takahisa Ogawa et al	整形外科	Short stature and short distance between the anterior acetabular rim to the femoral nerve are risk factors for femoral nerve palsy following primary total hip arthroplasty using the modified Watson-Jones approach	Orthop Traumatol Surg Res. 2022.10; 108 (6): 103351	Original Article
90	Takahiro Tanimoto, Kentaro Endo, Yuriko Sakamaki et a	整形外科	Human synovial mesenchymal stem cells show time-dependent morphological changes and increased adhesion to degenerated porcine cartilage	Scientific Reports. 2022.10; 12 (1): 16619	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
91	Masaaki Isono, Jun Takeuchi, Ami Maehara et al	整形外科	Effect of CD44 signal axis in the gain of mesenchymal stem cell surface antigens from synovial fibroblasts in vitro	Heliyon. 2022.10; 8 (10): e10739	Original Article
92	Ichiro Sekiya, Sho Sasaki, Yugo Miura et al	整形外科	Medial tibial osteophyte width strongly reflects medial meniscus extrusion distance and medial joint space width moderately reflects cartilage thickness in knee radiographs	JMRI.(Journal of Magnetic Resonance Imaging). 2022.09; 56 (3): 824-834	Original Article
93	Hiroki Katagiri, Mikio Shioda, Yusuke Nakagawa et al	整形外科	Risk Factors Affecting Return to Sports and Patient-Reported Outcomes After Opening-Wedge High Tibial Osteotomy in Active Patients	Orthop J Sports Med. 2022.09; 10 (9): 23259671221118836	Original Article
94	Seiji Noda, Tadashi Hosoya, Yoji Komiya et al	整形外科	CD34+THY1+ synovial fibroblast subset in arthritic joints has high osteoblastic and chondrogenic potentials in vitro	Arthritis Res Ther. 2022.09; 24 (1): 224	Original Article
95	Mituru Mizuno, Takahisa Matsuzaki, Nobutake Ozeki et al	整形外科	Cell membrane fluidity and ROS resistance define DMSO tolerance of cryopreserved synovial MSCs and HUVECs	Stem Cell Research & Therapy. 2022.05; 13 (1): 177	Original Article
96	Guo Tang, Yoshinori Asou, Etsuko Matsumura et al	整形外科	Short cytoplasmic isoform of IL1R1/CD121a mediates IL1 β induced proliferation of synovium-derived mesenchymal stem/stromal cells through ERK1/2 pathway	Heliyon. 2022.05; 8 (5): e09476	Original Article
97	Yuji Kohno, Hideyuki Koga, Nobutake Ozeki et al	整形外科	Biomechanical analysis of a centralization procedure for extruded lateral meniscus after meniscectomy in porcine knee joints	J Orthop Res. 2022.05; 40 (5): 1097-1103	Original Article
98	Yusuke Nakagawa, Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga	整形外科	A narrative review of lateral meniscus root tears and extrusion: techniques and outcomes	Annals of Joints. 2022.04; 7 (15): (ONLINE)	Review
99	Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Ichiro Sekiya	整形外科	Degenerative meniscus in knee osteoarthritis: from pathology to treatment	life. 2022.04; 12 (4): 603	Review
100	Yuji Kohno, Mitsuru Mizuno, Kentaro Endo et al	整形外科	Yields of mesenchymal stromal cells from synovial fluid reflect those from synovium in patients with rheumatoid arthritis	Tissue and Cell. 2022.04; 75 101727. (ONLINE)	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
101	Nobutake Ozeki, Hideyuki Koga, Tomomasa Nakamura et al	整形外科	Ultrasound-assisted arthroscopic all-inside repair technique for posterior lateral meniscus tear	Arthroscopy Techniques. 2022.04; 11 (5): e929-e935	Original Article
102	M Isono, H Koga, Y Nakagawa et al	整形外科	Inferior Healing Rate in Isolated Meniscal Repair than that in Meniscal Repair with Concomitant ACL Reconstruction Evaluated with MRI	Malays Orthop J. 2023.03; 17 (1): 61-69	Original Article
103	Naoki Yamamoto, Ryohei Takada, Tetsuya Jinno et al	整形外科	Wear rate and osteolysis in two types of second-generation annealed highly cross-linked polyethylene in total hip arthroplasty: A retrospective comparative study with a minimum of five years	Orthop Traumatol Surg Res. 2023.02; 109 (1): 103147	Original Article
104	Hiroki Katagiri, Yusuke Nakagawa, Kazumasa Miyatake et al	整形外科	Short-Term Outcomes after High Tibial Osteotomy Aimed at Neutral Alignment Combined with Arthroscopic Centralization of Medial Meniscus in Osteoarthritis Patients	J Knee Surg. 2023.02; 36 (3): 261-268	Original Article
105	Mai Katakura, Angela E Kedgley, Joseph W Shaw et al	整形外科	Epidemiological Characteristics of Foot and Ankle Injuries in 2 Professional Ballet Companies: A 3-Season Cohort Study of 588 Medical Attention Injuries and 255 Time-Loss Injuries	Orthop J Sports Med. 2023.02; 11 (2): 23259671221134131	Original Article
106	Koji Fujita, Kana Matsuo, Takafumi Koyama, et al	整形外科	Development and testing of a new application for measuring motion at the cervical spine.	BMC Med Imaging. 2022.11; 22 (1): 193.	Original Article
107	Takafumi Koyama, Ryota Matsui, Akiko Yamamoto, et al	整形外科	High-Dimensional Analysis of Finger Motion and Screening of Cervical Myelopathy With a Noncontact Sensor:	Diagnostic Case-Control Study JMIR Biomed Eng. 2022.07; 7 (2): e41327.	Original Article
108	Toru Sasaki, Shigenori Kawabata, Jun Hashimoto, et al	整形外科	Assessing carpal tunnel syndrome with magnetoneurography.	Clin Neurophysiol. 2022.07; 139 1-8.	Original Article
109	Takafumi Koyama, Koji Fujita, Hirotaka Iijima, et al	整形外科	Analysis of Spastic Gait in Patients With Cervical Myelopathy Using the Timed Up and Go Test With a Laser Range Sensor.	Spine (Phila Pa 1976). 2022.06; 47 (12): 892-898.	Original Article
110	Isamu Ozaki, Miho Akaza, Shigenori Kawabata, et al	整形外科	Detailed magnetoelectric analysis of a nerve impulse propagation along the brachial plexus.	Clin Neurophysiol. 2023.01; 145 129- 138.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
111	Wada S, Namiki T, Takano M, et al	皮膚科	Kaposi-Sarkom mit HHV-8-Immunreaktivität in einer Magenläsion, aber nicht in Hautläsionen.	Journal der Deutschen Dermatologischen Gesellschaft = Journal of the German Society of Dermatology : JDDG. 2022.11; 20 (11): 1511-1513.	Original Article
112	Wada S, Namiki T, Takano M, et al	皮膚科	Kaposi sarcoma with HHV-8 immunoreactivity in a gastric lesion but not in skin lesions.	Journal der Deutschen Dermatologischen Gesellschaft = Journal of the German Society of Dermatology : JDDG. 2022.11; 20 (11): 1512-1514	Original Article
113	Okiyama Naoko, Tanaka Ryota	皮膚科	免疫チェックポイント阻害剤による様々な臓器における免疫関連有害事象(Immune-related adverse events in various organs caused by immune checkpoint inhibitors)	Allergology International. 2022.04; 71 (2): 169-178	Original Article
114	Okiyama N, Tanaka R	皮膚科	Immune-related adverse events in various organs caused by immune checkpoint inhibitors.	Allergology international : official journal of the Japanese Society of Allergology. 2022.04; 71 (2): 169-178.	Original Article
115	Ichimura Yuki, Konishi Risa, Shobo Miwako, et al	皮膚科	Reliability of antinuclear matrix protein 2 antibody assays in idiopathic inflammatory myopathies is dependent on target protein properties(和訳中)	The Journal of Dermatology. 2022.04; 49 (4): 441-447.	Original Article
116	Konishi R, Ichimura Y, Okiyama N	皮膚科	Murine models of idiopathic inflammatory myopathy.	Immunological medicine. 2023.03; 46 (1): 9-14.	Original Article
117	Mako Ota-Itadani, Hiroyuki Takahashi, Zaixing Mao, et al	眼科	Deep learning-based 3D OCT imaging for detection of lamina cribrosa defects in eyes with high myopia.	Sci Rep. 2022.12; 12 (1): 22195.	Original Article
118	Jianping Xiong, Ran Du, Shiqi Xie, et a	眼科	Papillary and Peripapillary Hemorrhages in Eyes With Pathologic Myopia	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2022.11; 63 (12): 28.	Original Article
119	Hongshuang Lu 1 , Ran Du, Shiqi Xie, et al	眼科	Hongshuang Lu, Ran Du, Shiqi Xie, et al.: ANOMALIES OF CHOROIDAL VENOUS STRUCTURE IN HIGHLY MYOPIC EYES	Retina. 2022.09; 42 (9): 1655-1664	Original Article
120	Hiroyuki Takahashi, Zaixing Mao, Ran Du, et al	眼科	Machine learning-based 3D modeling and volumetry of human posterior vitreous cavity of optical coherence tomographic images	Sci Rep. 2022.08; 12 (1): 13836.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
121	Uramoto K, Azuma T, Watanabe T, et al	眼科	Extreme macular schisis simulating retinal detachment in eyes with pathologic myopia	Retina. . 2022.10;42(10):1836-1843.	Original Article
122	Nakao N, Igarashi-Yokoi T, Takahashi H, et al	眼科	Quantitative Evaluations of Posterior Staphylomas in Highly Myopic Eyes by Ultra-Widefield Optical Coherence Tomography	Invest Ophthalmol Vis Sci. . 2022.07; 8 (63(8)): 20	Original Article
123	Ran Du, Kyoko Ohno-Matsui	眼科	Novel Uses and Challenges of Artificial Intelligence in Diagnosing and Managing Eyes with High Myopia and Pathologic Myopia	Diagnostics (Basel). 2022.05; 12 (5): 1210	Original Article
124	Shiho Mochida, Takeshi Yoshida, Takuhei Nomura, et al	眼科	Association between peripheral visual field defects and focal lamina cribrosa defects in highly myopic eyes	Jpn J Ophthalmol. 2022.05; 66 (3): 285-295	Original Article
125	Shiqi Xie, Koju Kamoi, Tae Igarashi-Yokoi, et al	眼科	LONGITUDINAL STUDY OF CHANGES IN INNER SCLERAL CURVATURE PATTERNS AND DEVELOPMENT OF POSTERIOR STAPHYLOMAS IN HIGHLY MYOPIC EYES OF CHILDREN AND ADOLESCENTS	Retina. 2023.03; 43 (3): 454-463	Original Article
126	Yuan Zong, Koju Kamoi, Jing Zhang, et al	眼科	Mpox (Monkeypox) and the Eye: Ocular Manifestation, Diagnosis, Treatment and Vaccination	Viruses. 2023.02; 15 (3): 616	Review
127	Mingming Yang, Koju Kamoi, Yuan Zong, et al	眼科	Human Immunodeficiency Virus and Uveitis	Viruses. 2023.02; 15 (2):444.	Review
128	Jing Zhang, Koju Kamoi, Yuan Zong, et al	眼科	Cytomegalovirus Anterior Uveitis: Clinical Manifestations, Diagnosis, Treatment, and Immunological Mechanisms	Viruses. 2023.01; 15 (1):185.	Review
129	Yuan Zong, Koju Kamoi, Hisako Kurozumi-Karube, et al	眼科	Safety of intraocular anti-VEGF antibody treatment under in vitro HTLV-1 infection	Front Immunol. 2023.01; 13 1089286	Original Article
130	Hongshuang Lu, Shiqi Xie, Jianping Xiong, et a	眼科	Complex hemodynamics of intervortex vein anastomoses in highly myopic eyes	Retina. 2023.May 1;43(5):723-732	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
131	Shintaro Horie, Kyoko Ohno-Matsui	眼科	Progress of Imaging in Diabetic Retinopathy-From the Past to the Present	Diagnostics (Basel). 2022.07; 12 (7): 1684	Review
132	Sakihama N, Okada R, Takahashi N, et al	耳鼻咽喉科	Post-intubation laryngeal injury after COVID-19 treatment causing dyspnea: A report of six cases	Auris, nasus, larynx. 2022.12; (オンライン)	Case report
133	Fujikawa T, Tanimoto K, Kawashima Y, et al	耳鼻咽喉科	Cholesteatoma has an altered microbiota with a higher abundance of Staphylococcus species.	Laryngoscope investigative otolaryngology. 2022.12; 7 (6): 2011-2019	Original Article
134	Tanaka Kentaro, Suesada Nobuko, Homma Tsutomu, et al	耳鼻咽喉科	Early postoperative complications and their measures after skull base reconstruction: A study from the standpoint of plastic and reconstructive surgeons	AURIS NASUS LARYNX. 2022.10; 49 (5): 845-855	Original Article
135	Tanaka Kentaro, Suesada Nobuko, Homma Tsutomu, et al	耳鼻咽喉科	手術目的に基づく前頭蓋底再建と側方頭蓋底再建における術式のコンセプトの差(The different concepts of surgical managements between anterior and lateral skull base reconstructions based on surgical purposes)	Auris・Nasus・Larynx. 2022.04; 49 (2): 271-278	Original Article
136	Tanaka Kentaro, Suesada Nobuko, Homma Tsutomu, et al	耳鼻咽喉科	The different concepts of surgical managements between anterior and lateral skull base reconstructions based on surgical purposes	AURIS NASUS LARYNX. 2022.04; 49 (2): 271-278	Original Article
137	Matsubayashi T, Sanjo N	脳神経内科	Systematic Review of Clinical and Pathophysiological Features of Genetic Creutzfeldt-Jakob Disease Caused by a Val-to-Ile Mutation at Codon 180 in the Prion Protein Gene	Int J Mol Sci. 2022.12;23:15172.	Review
138	Zeniya S, Sanjo N, Kuwahara H, et al	脳神経内科	Spinocerebellar Ataxia Type 31 Exacerbated by Anti-amino Terminal of Alpha-enolase Autoantibodies	Intern Med. 2022.09;61:2793-2796	Case report
139	Tamaki K, Nishida Y, Sanjo N, et al	脳神経内科	A patient with generalized myasthenia gravis facing an impending crisis triggered by early fast-acting treatment	Clinical and Experimental Neuroimmunology. 2022.05; 13 99-101	Case report
140	Iwase R, Kanouchi T, Yoshii T, et al	脳神経内科	Diverging pathophysiology in superficial siderosis with proximal upper limb amyotrophy	J Neurol Sci. 2022.05;436:120248	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
141	Nabeshima J, Mizuno T, Nagaoka E	心臓血管外科	Bovine pericardial patch repair for abdominal aortic pseudoaneurysm to preserve lumbar arteries	Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery. 2022.11; 35 (6):ivac261.	Case report
142	Keiji Oi, Hirokuni Arai, Eiki Nagaoka, et al	心臓血管外科	Long-term Outcomes of Papillary Muscle Relocation Anteriorly for Functional Mitral Regurgitation	Interact Cardiovasc Thorac Surg.. 2022. Nov 8;35(6):ivac245	Original Article
143	Nagaoka E, Arai H	心臓血管外科	Mechanical simulation study of reapproximated sternum rigidity comparing sternal fixation devices	General thoracic and cardiovascular surgery. 2022.08; 71 (2): 98-103	Original Article
144	Oishi Kiyotoshi, Arai Hirokuni, Oi Keiji, et al	心臓血管外科	The rotational position of the aortic valve: implications for valve-sparing aortic root replacement	EUROPEAN JOURNAL OF CARDIO-THORACIC SURGERY. 2022.08; 62 (3):ezac179.	Original Article
145	Mizuno Tomohiro, Hachimaru Tsuyoshi, Fujiwara Tatsuki, et al	心臓血管外科	One-Stage Hybrid Total Aortic Arch and Descending Thoracic Aortic Repair is a Safe and Secure Procedure With Less Postoperative Complications for Extended Aortic Arch Aneurysms	JOURNAL OF ENDOVASCULAR THERAPY. 2022.04; 29 (2): 204-214	Original Article
146	Takeshita M, Arai H, Nagaoka E, et al	心臓血管外科	Ring annuloplasty, optionally combined with edge-to-edge leaflet plications, should be amended with subvalvular repair techniques to efficaciously treat tricuspid regurgitation with severe tethering	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 2023.03 23;ezad108	Original Article
147	Mizuno T, Goya M, Fujiwara T, et al	心臓血管外科	Surgical extraction of cardiac implantable electronic device leads based on a heart team approach	Journal of cardiology. 2023.01; 81 (1): 111-116	Original Article
148	Ishibashi H, Wakejima R, Asakawa A, et al	呼吸器外科	Postoperative delirium in lung cancer anatomical resection - Analysis of risk factors and prognosis	World J Surg 2022 May;46(5): 1196-1206.	Original Article
149	Okamoto T, Dobrinskikh E, Hennessy CE, et al	呼吸器内科	Muc5b plays a role in the development of inflammation and fibrosis in hypersensitivity pneumonitis induced by Saccharopolyspora rectivirgula.	American journal of physiology. Lung cellular and molecular physiology. 2022.09; 323 (3): L329-L337.	Original Article
150	Mitsumura T, Okamoto T, Tosaka M, et al	呼吸器内科	Association of SARS-CoV-2 RNA Copy Number with the COVID-19 Mortality Rate and Its Effect on the Predictive Performance of Mortality in Severe Cases	Japanese journal of infectious diseases. 2022.09; 75 (5): 504-510	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
151	Komatsu M, Yamamoto H, Matsui S, et al	呼吸器内科	Respiratory lesions in IgG4-related disease: classification using 2019 American College of Rheumatology/European League Against Rheumatism criteria	ERJ open research. 2022.07; 8 (3): 00120-2022	Original Article
152	Ikeda T, Ichiba S, Sasaki T, et al	呼吸器内科	A case of severe respiratory failure due to interstitial pneumonia successfully bridged to lung transplantation from a brain-dead donor using 109-day veno-arterial extracorporeal membrane oxygenation	JOURNAL OF ARTIFICIAL ORGANS. 2022.06; 26 (1): 84-88.	Case report
153	Kawamoto Y, Yatomi Y, Furusawa H, et al	呼吸器内科	Understanding the process of people with hypersensitivity pneumonitis implementing continuous antigen avoidance and their affecting situations: A grounded theory study	Journal of clinical nursing. 2022.06; 32(11-12):2880-2891.	Original Article
154	Ejima M, Okamoto T, Suzuki T, et al	呼吸器内科	Role of serum surfactant protein-D as a prognostic predictor in fibrotic hypersensitivity pneumonitis	Respiratory investigation. 2022.05; 60 (3): 369-378	Original Article
155	Minegishi Y, Akagami , Arai M, et al.	呼吸器内科	Real-world outcomes of chemotherapy for lung cancer patients undergoing hemodialysis: A multicenter retrospective cohort study (NEJ-042)	LUNG CANCER. 2022.10; 172 1-8.	Original Article
156	Tateishi T	呼吸器内科	Do we still live under a silica rock?	ANNALS OF PALLIATIVE MEDICINE. 2022.06; 11 (7): 2191-2193.	Review
157	Sakashita H, Uchibori K, Jin Y, et al.	呼吸器内科	A phase II feasibility study of carboplatin and nab-paclitaxel for advanced non-small cell lung cancer patients with interstitial lung disease (YLOG0114)	THORACIC CANCER. 2022.05; 13 (9): 1267-1275.	Original Article
158	Tateishi T, Shimada S, Yamana T, et al	呼吸器内科	COVID-19 Pneumonia Followed by Anti-signal Recognition Particle Antibody-positive Fibrosing Interstitial Lung Disease: A Case Report	Internal medicine. 2023.02; 62 (9): 1323-1328.	Case report
159	Yamashita S, Okamoto T, Kawahara T, et al	呼吸器内科	Database analysis of hypersensitivity pneumonitis in Japan	Respiratory investigation. 2023.01; 61 (2): 172-180	Original Article
160	Okuda R, Ogura T, Hisata S, et al	呼吸器内科	Design and rationale of the Japanese Idiopathic Interstitial Pneumonias (JIPS) Registry	Respiratory investigation. 2023.01; 61 (1): 95-102.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
161	Kaneko S, Asahina Y, Nakagawa M, et al	呼吸器内科	Factors associated with liver injury and prognosis in advanced cancer patients treated with immune checkpoint inhibitors. Hepatology research	the official journal of the Japan Society of Hepatology. 2023.01;53(5):450-459	Original Article
162	Ikeda M, Okugawa S, Kashiwabara K, et al	呼吸器内科	Multicenter, Single-Blind, Randomized Controlled Study of the Efficacy and Safety of Favipiravir and Nafamostat Mesilate in Patients with COVID-19 Pneumonia.	International journal of infectious diseases : IJID : official publication of the International Society for Infectious Diseases. 2023.01; 128 355-363.	Original Article
163	Hidaka Takeaki, Mori Hiroki, Shimizu Hiroaki, et al	形成・美容外科	Comparison of Lumbar Artery and Superior Gluteal Artery Perforator Flaps for Breast Reconstruction Multislice CT-Based Anatomical Study	ANNALS OF PLASTIC SURGERY. 2022.12; 89 (6): e39-e44	Original Article
164	Tanaka K, Suesada N, Homma T, et al	形成・美容外科	Early postoperative complications and their measures after skull base reconstruction: A study from the standpoint of plastic and reconstructive surgeons	Auris, nasus, larynx. 2022.10; 49 (5): 845-855	Original Article
165	Ishida N, Usami S, Tanaka K, et al	形成・美容外科	Use of a Fascial Reverse Dorso-Ulnar Metacarpal Bone Flap for Non-union of the Distal Phalanx of the Thumb: A Case Report	The journal of hand surgery Asian-Pacific volume. 2022.10; 27 (5): 902-906	Case report
166	Wen Shuheng, Unuma Kana, Makino Yohsuke, et al	形成・美容外科	Fatal consequence after MiraDry treatment: Necrotizing fasciitis complicated with streptococcal toxic shock syndrome(タイトル和訳中)	Legal Medicine. 2022.09; 58 1-4.	Case report
167	Oda G, Nakagawa T, Mori H, et al	形成・美容外科	Factors predicting upstaging from clinical N0 to pN2a/N3a in breast cancer patients	World journal of clinical oncology. 2022.09; 13 (9): 748-757	Original Article
168	Usami S, Kawahara S, Inami K, et al	形成・美容外科	Identifying Predictors of Radiographic Distal Phalangeal Nonunion After Fingertip Replantation	The Journal of hand surgery. 2022.08; 12;S0363-5023(22)00395-1	Original Article
169	Tanaka K, Suesada N, Homma T, et a	形成・美容外科	Muscle-penetration method: Cable nerve grafting with well vascularized surrounding tissue and shortest graft length	Journal of plastic, reconstructive & aesthetic surgery : JPRAS. 2022.07; 75 (7): 2387-2440	Original Article
170	Tanaka Kentaro, Suesada Nobuko, Homma Tsutomu, et al	形成・美容外科	The different concepts of surgical managements between anterior and lateral skull base reconstructions based on surgical purposes(和訳中)	Auris・Nasus・Larynx. 2022.04; 49 (2): 271-278	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
171	Kato Sayuri, Mori Hiroki, Koga Haruka, et al	形成・美容外科	The triangular prism approximation method for volume estimation of deep inferior epigastric artery perforator flap in breast reconstruction	MICROSURGERY. 2023.02; 43 (2): 125-130	Original Article
172	Yusuke Ota, Chihiro Tani Sassa, Masayo Kashiwagi et al	検査部	Complete Genome Sequence of an Enterobacter roggenkampii Strain with Reduced Carbapenem Susceptibility Isolated from a Home-Visit Nursing Agency	Microbiol Resour Announc. 2022 Aug (オンライン)	Original Article
173	Yuasa S, Nakajima J, Takatsuki Y et al	検査部	Viral load of SARS-CoV-2 Omicron is not high despite its high infectivity	Journal of Medical Virology. 2022 Jul; 94: 5543-6	Letter
174	Hamada Satomi, Sasaki Kanae, Kito Hotaka et al	検査部	Effect of the recording condition on the quality of a single-lead electrocardiogram	HEART AND VESSELS. 2022 Jun; 37: 1010-26	Original Article
175	Ryoichi Saito, Jun Nakajima, Isaac Prah et al	検査部	Penicillin- and Ciprofloxacin-Resistant Invasive Neisseria meningitidis Isolates from Japan	Microbiol Spectr. 2022 Apr (オンライン)	Original Article
176	Chihiro Tani-Sassa, Yumi Iwasaki, Naoya Ichimura et al	検査部	Viral loads and profile of the patients infected with SARS-CoV-2 Delta, Alpha, or R.1 variants in Tokyo	J Med Virol. 2022 Apr; 94: 1707-10	Original Article
177	Takatsuki Yuna, Takahashi Yuta, Nakajima Jun et al	検査部	Viral load of SARS-CoV-2 Omicron BA.5 is lower than that of BA.2 despite the higher infectivity of BA.5	IMMUNITY INFLAMMATION AND DISEASE. 2023 Feb (オンライン)	Original Article
178	Hanafusa Mariko, Nawa Nobutoshi, Goto Yuki et al	検査部	Effectiveness of remdesivir with corticosteroids for COVID-19 patients in intensive care unit: A hospital-based observational study	JOURNAL OF MEDICAL VIROLOGY. 2023 Jan (オンライン)	Original Article
179	Kawasaki T, Ohji S, Aizawa J et al	スポーツ医学診療センター	:Correlation between the Photographic Cranial Angles and Radiographic Cervical Spine Alignment	Int J Environ Res Public Health. 2022 May; 19(10):6278.	Original Article
180	Aizawa J, Hirohata K, Ohji S et al	スポーツ医学診療センター	:Cross-sectional study on relationships between physical function and psychological readiness to return to sport after anterior cruciate ligament reconstruction	BMC sports science, medicine & rehabilitation. 2022 Jun, 14(1); 97	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
181	Hirohata K,Aizawa J,Ohmi T et al	スポーツ医学診療センター	Reactive strength index during single-limb vertical continuous jumps after anterior cruciate ligament reconstruction: cross-sectional study.	BMC sports science, medicine & rehabilitation. 2022 Aug,14(1); 150.	Original Article
182	Mitomo S,Aizawa J,Hirohata K et al	スポーツ医学診療センター	Association Between Knee Extension Strength at 3 and 6 Months After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction	Journal of sport rehabilitation. 2022 Aug,32(1);76-84	Original Article
183	Ohmi T,Yamada T,Misaki S et al	スポーツ医学診療センター	Differences in gait kinetics and kinematics between patients with rotating hinge knee and cruciate-retaining prostheses: a cross-sectional study	Journal of Physical Therapy Science. 2022 Sep,34(9);635-641	Original Article
184	Ohji S,Aizawa J,Hirohata K et al	スポーツ医学診療センター	Changes in subjective knee function and psychological status from preoperation to 6 months post anterior cruciate ligament reconstruction	Journal of experimental orthopaedics. 2022 Dec,9(1);114	Original Article
185	Ohji S,Aizawa J,Hirohata K et al	スポーツ医学診療センター	Kinesiophobia is negatively associated with psychological readiness to return to sport in patients awaiting anterior cruciate ligament reconstruction.Arthroscopy	The Journal of Arthroscopic & Related Surgery.2023 Feb,S0749-8063(23)00183-00184	Original Article
186	Ohmi T,Aizawa J,Hirohata K et al	スポーツ医学診療センター	Biomechanical characteristics of the lower extremities during running in male long-distance runners with a history of medial tibial stress syndrome: a case control study	.BMC Musculoskeletal Disorders 2023 Feb,24(1):103	Original Article
187	Amemiya M, Nakamura R, Yoshimura M,et al	スポーツ医学診療センター	:Proximal tibiofibular joint (PTFJ) dislocation due to Ehlers-Danlos syndrome: posterolateral open-wedge high tibial osteotomy combined with medial closed-wedge distal femoral osteotomy can correct the severe valgus deformity with a markedly increased tibial posterior slope	BMJ Case Rep. 2022 Nov 29;15(11):e250308	Case report
188	Sekiya I, Koga H, Katano H, et al	輸血・細胞治療センター	Second-look arthroscopy after meniscus repair and synovial mesenchymal stem cell transplantation to treat degenerative flaps and radial tears of the medial meniscus	A case report. J Orthop Sci 2022 Jul;27(4):821-34	Original Article
189	Takayama W, Endo A, Otomo Y	救命救急センター	Therapeutic anticoagulation using heparin in early phase severe coronavirus disease 2019: A retrospective study	Am J Emerg Med. 2022.08; 58: 84-88	Original Article
190	Endo A, Yamakawa K, Tagami T, et al	救命救急センター	Optimal target blood pressure in elderly with septic shock (OPTPRESS) trial: study protocol for a randomized controlled tria	Trials. 2022;09;23(1):799	Others
191	Hiroko Terui-Kohbata, Noriko Tanabe, Masayuki Yoshida	遺伝子診療科	Attitudes towards reproductive genetic testing for HBOC among public healthy people, cancer patient and clinical genetic professionals	OSP Journal of Health Care and Medicine. 2022.09; 3 (2): 1-7	Original Article
192	Uehara Y, Ikeda S, Kim KH, et al	がんゲノム診療科	Targeting the FGF/FGFR axis and its co-alteration allies	ESMO Open. 2022 Dec;7(6):100647	Original Article
193	Noji R, Tohyama K, Kugimoto T, et al	臨床腫瘍科	Comprehensive Genomic Profiling Reveals Clinical Associations in Response to Immune Therapy in Head and Neck Cancer	Cancers. 2022.07; 14 (14):3476.	Original Article
194	Yusuke Ota, Isaac Prah, Yoko Nukui, et al	感染症内科	blaKPC-2-Encoding IncP-6 Plasmids in Citrobacter freundii and Klebsiella variicola Strains from Hospital Sewage in Japan	Appl Environ Microbiol. 2022.04;88(8): e0001922	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
195	Yasuyuki Kowaka, Kosuke Nozaki, Tomoyuki Mihara, et al.	義歯科	Nanosheets with High Dye Degradation Performance by Regulating Crystal Growth	Materials (Basel). 2023.01; 16 (3):1229	Original Article
196	Ruri Tsukahara, Wataru Komada, Shinya Oishi, et al.	義歯科	Fracture strength of flared root canals reinforced using different post and core materials	J Prosthodont. 2022 Oct (オンライン)	Original Article
197	Shinya Oishi, Wataru Komada, Ruri Tsukahara, et al.	義歯科	A composite resin core with a new zirconia tube reduces the surface strain at the cervical area of a mandibular molar: A model tooth study	J Prosthodont Res. 2023 Jan 6;67(1):70-76.	Original Article
198	Nakai H, Inokoshi M, Nozaki K, et al.:	義歯科	Osteoblast Response of Additively Manufactured Zirconia and Alumina-Toughened Zirconia	Materials (Basel). 2022.12; 15 (23): 8685	Original Article
199	Soeda Y, Komagamine Y, Kanazawa M, et al.:	義歯科	Trueness and precision of artificial teeth in CAD-CAM milled complete dentures from custom disks with a milled recess	The Journal of prosthetic dentistry. 2022.12(オンライン)	Original Article
200	Masataka Watanabe, Manabu Kanazawa, Daisuke Sato, et al.:	義歯科	Oral function of implant-assisted removable partial dentures with magnetic attachments using short implants	A prospective study Tokyo Medical and Dental University. 2022.12 33(12):1265-1272.	Original Article
201	Tonprasong W, Inokoshi M, Shimizubata M, et al.:	義歯科	Impact of direct restorative dental materials on surface root caries treatment. Evidence based and current materials development: A systematic review	Jpn Dent Sci Rev. 2022.11; 58 13-30	Original Article
202	Trang BNH, Kanazawa M, Murakami N, et al.:	義歯科	Stress distribution of one-piece and two-piece mini-Implant overdentures with various attachment systems and diameters: A finite element analysis.	Journal of prosthodontic research. 2022.11(オンライン)	Original Article
203	Inokoshi M, Soeda Y, Akiyama Y, et al.:	義歯科	Fully Digital Workflow for the Fabrication of Three-Dimensionally Printed Surgical Splints for Preventing Postoperative Bleeding: A Case Report	Int J Environ Res Public Health. 2022.10; 19 (19): 12773.	Case report
204	Sai Tun Naing, Manabu Kanazawa, Tamaki Hada, et al.:	義歯科	In vitro study of the effect of implant position and attachment type on stress distribution of implant-assisted removable partial dentures.	J Dent Sci. 2022.10; 17 (4): 1697-1703.	Original Article
205	Suzuki H, Furuya J, Nakagawa K, et al.:	義歯科	Changes in Nutrition-Intake Method and Oral Health through a Multidisciplinary Team Approach in Malnourished Older Patients Admitted to an Acute Care Hospital.	Int J Environ Res Public Health. 2022.08; 19 (16):9784.	Original Article
206	Suzuki H, Furuya J, Matsubara C, et al.:	義歯科	Comparison of the Amount of Used and the Ease of Oral Care between Liquid and Gel-Type Oral Moisturizers Used with an Oral Care Simulators	Int J Environ Res Public Health. 2022.07; 19 (13): 8158	Original Article
207	Furuya J, Suzuki H, Hidaka R, et al.:	義歯科	Association between oral health and advisability of oral feeding in advanced cancer patients receiving palliative care: a cross-sectional study.	Support Care Cancer. 2022.07; 30 (7): 5779-5788	Original Article
208	Inokoshi M, Yoshihara K, kehata M, et al.:	義歯科	Preliminary Study on the Optimization of Femtosecond Laser Treatment on the Surface Morphology of Lithium Disilicate Glass-Ceramics and Highly Translucent Zirconia Ceramics.	Materials (Basel). 2022.05; 15 (10): 3614.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
209	Ryosuke Otake, Manabu Kanazawa, Maiko Iwaki,et al.:	義歯科	: Patient-reported outcome and cost-effectiveness analysis of milled and conventionally fabricated complete dentures in a university clinic: A retrospective study.	J Prosthet Dent. 2022.04 16;S0022-3913(22)00043-9.	Original Article
210	Hada T, Komagamine Y, Kanazawa M,et al.:	義歯科	Fabrication of sports mouthguards using a semi-digital workflow with 4D-printing technology.	Journal of prosthodontic research. 2023.03(オンライン)	Others
211	Inokoshi M, Liu H, Yoshihara K,et al.:	義歯科	Layer characteristics in strength-gradient multilayered yttria-stabilized zirconia.	Dent Mater. 2023.03; 39 (4): 430-441.	Original Article
212	Yo Akiyama, Manabu Kanazawa, Maiko Iwaki,et al.:	義歯科	Fabrication of milled removable partial dentures using a custom plate with prefabricated artificial teeth.	J Prosthodont Res. 2023.02(オンライン)	Others
213	Tonprasong W, Inokoshi M, Tamura M,et al.:	義歯科	Impact of surface pre-reacted glass ionomer filler eluate on lipase gene expression in Candida albicans: An in vitro study.	Dent Mater J. 2023.01; 42 (1): 49-54.	Original Article
214	Shuji Oishi, Takashi Ono:	矯正歯科	A Case Treated with Maxillary Molar Distalization through the Maxillary Sinus: Three-Dimensional Assessment with a Cone-Beam Computed Tomography Superimposition.	Appl Sci. 2022.09; 12 (19): 9494.	Case report
215	Chiho Kato, Ippei Watari, Jun Aida, :et al	矯正歯科	Factors associated with the eruption of the impacted maxillary third molars after second molar extraction.	Am J Orthod Dentofacial Orthop. 2022.07;14(14):3476.	Original Article
216	Sunmin Kim, Ikuo Yonemitsu, Hiroshi Takemura,:et al.	矯正歯科	Influence of different ligation methods on force and moment generation in a simulated condition of the maxillary crowded anterior dentition with linguo-version and rotation.	Biomed Mater Eng. 2022.05; 33 (6): 453-463.	Original Article
217	Misaki Aoyagi, Marie Oshima, Masamichi Oishi,:et al.	矯正歯科	Computational fluid dynamic analysis of the nasal respiratory function before and after postero-superior repositioning of the maxilla.	PLoS One. 2022.04; 17 (4): e0267677.	Original Article
218	Cheng ES, Tsuji M, Suzuki S,:et al	矯正歯科	An overview of the intraoral features and craniofacial morphology of growing and adult Japanese cleidocranial dysplasia subjects.	European Journal of Orthodontics. 2022.12; 44 (6): 711-722.	Original Article
219	Inoue A, Tsuji M , Baba Y,et al.	矯正歯科	Non-prosthetic treatment using segmental osteotomy and bone grafting in a patient with cleft lip and palate	Plastic and Aesthetic Research. 2022.09; 9 51.	Case report
220	Soe KM, Ogawa T, Moriyama K:	矯正歯科	Molecular mechanism of hyperactive tooth root formation in oculo-facio-cardio-dental syndrome.	Frontiers in Physiology. 2022.07; 13 946282	Original Article
221	Ogura K, Kobayashi Y, Hikita R,:et al.	矯正歯科	Three-dimensional analysis of the palatal morphology in growing patients with Apert syndrome and Crouzon syndrome.	Congenital Anomalies (Kyoto). 2022.07; 62 (4): 153-160.	Original Article
222	Kano S, Higashihori N, Thiha P,:et al.	矯正歯科	The role of the histone methyltransferase SET domain bifurcated 1 during palatal development	Biochemical and Biophysical Research Communications. 2022.04; 598 74-80	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
223	Junichiro Wada, Kanae Wada, Mona Gibreel, et al.:	小児歯科	Effect of 3D Printer Type and Use of Protection Gas during Post-Curing on Some Physical Properties of Soft	Occlusal Splint Material Polymers. 2022.10; 14 (21): 4618.	Original Article
224	Junichiro Wada, Kanae Wada, Mona Gibreel, et al.:	小児歯科	Effect of Nitrogen Gas Post-Curing and Printer Type on the Mechanical Properties of 3D-Printed Hard Occlusal Splint	Material Polymers. 2022.10; 14 (19): 3971.	Original Article
225	Li Zhao, Kakino Satoko, Iwamoto Tsutomu:	小児歯科	A Characteristic Analysis of the Pulse Transit Time to Dental Pulp: An Attempt at a New Approach to Dental Pulp Diagnoses Based on the Microcirculatory System(タイトル和訳中)	Journal of Oral Health and Biosciences. 2023.03; 35 (2): 61-70.	Original Article
226	Junichiro Wada, Kanae Wada, Sufyan Garoushi, et al.:	小児歯科	Effect of 3D printing system and post-curing atmosphere on micro- and nano-wear of additive-manufactured occlusal splint materials	Journal of the Mechanical Behavior of Biomedical Materials. 2023.03; 142 105799.	Original Article
227	Shin Yujeong, Wada Kanae, Tsuchida Yumi, et al.:	小児歯科	Wear behavior of materials for additive manufacturing after simulated occlusion of deciduous dentition	JOURNAL OF THE MECHANICAL BEHAVIOR OF BIOMEDICAL MATERIALS. 2023.02; 138 105627.	Original Article
228	Wada Kanae, Ijbara Manhal, Salim Nesreen A., et al.:	小児歯科	Three-dimensional microscopic comparison of wear behavior between immature and mature enamel: an in vitro study	BMC ORAL HEALTH. 2023.01; 23 (1): 40.	Original Article
229	Junichiro Wada, Kanae Wada, Mona Gibreel, et al.:	小児歯科	Effect of Surface Polishing on Physical Properties of an Occlusal Splint Material for Additive Manufacturing under	Protection Gas Post-Curing Condition Polymers. 2023.01; 15 (3): 625.	Original Article
230	Taichen L, Min N, Aoki A, Chuan-Hang Y: Er:	歯周病科	YAG laser-assisted comprehensive periodontal pocket therapy (Er-LCPT) under microscope in a severe periodontitis with type 2 diabetes mellitus patient:	A case report Journal of Dental Science. 2022.12; 18 (2): 924-926.	Case report
231	Nagasawa Y, Katagiri S, Nakagawa K, Hirota T, Yoshimi K, Uchida A, Hatasa M, Komatsu K, Shiba T, Ohsugi Y, Uesaka N, Iwata T, Tohara H:	歯周病科	Xanthan gum-based fluid thickener decreases postprandial blood glucose associated with increase of Glp1 and Glp1r expression in ileum and alteration of gut microbiome	Journal of Functional Foods. 2022.11(オンライン)	Original Article
232	Lin T, Taniguchi Y, Aoki A, Chen CC:	歯周病科	Management of furcation-involved molar using Er:YAG laser-assisted bone regenerative therapy:	A case report Journal of Dental Science. 2022.06; 17 (4): 1836-1838	Case report
233	Mizutani K, Mikami R, Tsukui A, Nagai S, Pavlic V, Komada W, Iwata T, Aoki A:	歯周病科	Novel flapless esthetic procedure for the elimination of extended gingival metal tattoos adjacent to prosthetic teeth: Er:YAG laser micro-keyhole surgery.	Journal of prosthodontic research. 2022.04; 66 (2): 346-352.	Others
234	Liu J, Watanabe S, Mochizuki S, et al.:	むし歯科	Comparison of vapor bubble kinetics and cleaning efficacy of different root canal irrigation techniques in the apical area beyond the fractured instrument	Journal of Dental Sciences. 2022.11; (オンライン)	Original Article
235	Adel S, Hashimoto K, Kawashima N, et al.:	むし歯科	Biocompatibility and pro-mineralization effect of tristrontium aluminate cement for endodontic use	Journal of Dental Sciences. 2022.07; 17 (3): 1193-1200.	Original Article
236	Yasushi Shimada, Takaaki Sato, Go Inoue, et al.:	むし歯科	Evaluation of Incipient Enamel Caries at Smooth Tooth Surfaces Using SS-OCT	Materials. 2022.08; 15 (17): 5947.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
237	Noriko Hiraishi, Mahmoud Sayed, Robert Hill,et al.:	むし歯科	Solid-state NMR spectroscopy measurement of fluoride reaction by bovine enamel and dentin treated with silver diammine fluoride.	Dent Mater. 2022.05; 38 (5): 769-777.	Original Article
238	Chen X, Inoue G, Ikeda M,et al.:	むし歯科	Time-dependent structural changes and hypermineralisation of artificially demineralised dentine following treatment with silver diammine fluoride and glass ionomer cement.	Journal of dentistry. 2023.02; 131 104452.	Original Article
239	Ken Takahashi,Yasuhiro Nakagawa, Yu Sato,et al.:	歯科麻酔科	pH-responsive release of anesthetic lidocaine derivative QX-OH from mesoporous silica nanoparticles mediated by ester bonds	Journal of Drug Delivery Science and Technology. 2022.12; 78	Original Article
240	Takahashi K, Matsumura T, Abe Y,et al.:	歯科麻酔科	Perioperative Management of a Patient With Tongue Cancer Who Developed Pneumomediastinum Following Tracheostomy Performed to Secure the Airway	Anesthesia progress. 2022.12; 69 (4): 37-39.	Case report
241	Matsumura T, Hosokawa S, Hanaoka M,et al.:	歯科麻酔科	Transient ventricular bigeminy during emergence from general anesthesia in a pediatric patient with catecholaminergic polymorphic ventricular tachycardia.	Journal of electrocardiology. 2022.05; 73 38-41.	Case report
242	Budiman Hilmanda, Wakita Ryo, Ito Takaya,et al.:	歯科麻酔科	Factors Associated with Variability in Pulse Wave Transit Time Using Pulse Oximetry: A Retrospective Study	JOURNAL OF CLINICAL MEDICINE. 2022.07; 11 (14)	Original Article
243	Chaoli Hong, Yoshinori Hayashi, Suzuro Hitomi,et al.:	歯科心身医療科	Astrocytic and microglial interleukin-1 β mediates complement C1q-triggered orofacial mechanical allodynia.	Neurosci Res. 2023 Mar;188:68-74.	Original Article
244	T T H Tu, M Watanabe, A Toyofuku,et al.:	歯科心身医療科	Phantom bite syndrome.	Br Dent J. 2022.06; 232 (12): 839-840.	Review
245	Motoko Watanabe, Tetsuo Nakabayashi, Gayatri Nayanar,et al.:	歯科心身医療科	Case Report: Auditory Hallucination Induced by Amitriptyline for the Treatment of Atypical Odontalgia.	Front Psychiatry. 2022.05; 13 863485.	Case report
246	G K Nayanar, T Thi Huyen Tu, T Nagamine,et al.:	歯科心身医療科	The assessment of the long-term prognosis of burning mouth syndrome following treatment necessitates a reappraisal.	Int J Oral Maxillofac Surg. 2023.02;8;S0901-5027(23)00012-7.	Letter
247	Mitsuhiro Asami, Yasuyuki Kimura, Miho Takenoshita,et al.:	歯科心身医療科	Dental conditions in patients with medically unexplained oral symptoms	Journal of Dental Sciences. 2023.01 (オンライン)	Original Article
248	Takuya Komiyama, Takeshi Kuroshima, Takehito Sugasawa, Shin-Ichiro Fujita, Yuta Ikami, Hideaki Hirai, Fumihiko Tsushima, Yasuyuki Michi, Kou Kayamori, Fumihiko Higashino, Hiroyuki Harada:	口腔外科	High expression of Sam68 contributes to metastasis by regulating vimentin expression and a motile phenotype in oral squamous cell carcinoma	Oncol Rep. 2022.10; 48 (4): 183.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
249	Noji R, Tohyama K, Kugimoto T, Kuroshima T, Hirai H, Tomioka H, Michi Y, Tasaki A, Ohno K, Ariizumi Y, Onishi I, Suenaga M, Mori T, Okamoto R, Yoshimura R, Miura M, Asakage T, Miyake S, Ikeda S, Harada H, Kano Y:	口腔外科	Comprehensive Genomic Profiling Reveals Clinical Associations in Response to Immune Therapy in Head and Neck Cancer.	Cancers. 2022.07; 14 (14): 3476.	Original Article
250	Y Kurasawa, A Iida, K Narimatsu,et al.:	口腔外科	Effects of Perioperative Oral Management in Patients with Cancer	JOURNAL OF CLINICAL MEDICINE. 2022.11; 11 (21): 6576	Original Article
251	M Shibata, K Yagihara, J Ishii, et al.:	口腔外科	Two cases of secretory carcinoma in the minor salivary glands Journal of Oral and Maxillofacial Surgery	Medicine, and Pathology. 2022.11; 34 850-857.	Case report
252	M Shibata, A Ishikawa, J Ishii, et al.:	口腔外科	Stiffness as measured with strain elastography is a prognostic factor for pT1/T2 tongue squamous cell carcinoma with muscle-layer invasion.	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 2022.11 (オンライン)	Original Article
253	N Takahara, S Nakagawa, K Sumikura,et al.:	口腔外科	Comparison of magnetic resonance imaging findings in patients with intermittent closed lock and acute closed lock of the temporomandibular joint: a cross-sectional retrospective study.	Oral Radiol. 2022.10(オンライン)	Original Article
254	Zhu Hongfei, Tamura Atsushi, Zhang Shunyao,et al.:	口腔外科	Mitigating RANKL-induced cholesterol overload in macrophages with beta-cyclodextrin-threaded polyrotaxanes suppresses osteoclastogenesis	BIOMATERIALS SCIENCE. 2022.07; 10 (18): 5230-5242.	Original Article
255	Y Kim , K Yagihara, J Sumino,et al.:	口腔外科	Squamous cell carcinoma of the tongue in von Recklinghausen's disease:	A case report Oral and Maxillofacial Surgery Cases. 2022.06; 8 (2): 100255.	Case report
256	N Tomomatsu, N Takahara, K Nakakuki,et al.:	口腔外科	Study of Morphological Changes in the Inferior Turbinate After Le Fort I Osteotomy.	The Journal of craniofacial surgery. 2022.06(オンライン)	Original Article
257	N Takahara, N Tomomatsu, A Kimura,et al.:	口腔外科	Changes in the condylar volume and skeletal relapse following orthognathic surgery in patients with dentofacial deformity: A retrospective study.	Cranio. 2022.05(オンライン)	Original Article
258	M Shibata, N Takahara, N Tomomatsu,et al.:	口腔外科	Risk factors of neurosensory disturbances at 1 year postoperatively after bilateral sagittal split osteotomy	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology. 2022 12;134(6):695-701.	Original Article
259	Shibata Mari, Ishikawa Ayataka, Ishii Junichi,et al.:	口腔外科	Stiffness of tongue squamous cell carcinoma measured using strain elastography correlates with the amount of collagen fibers in the tumor	Oral Radiology. 2022.04; 38 (2): 278-287.	Original Article
260	Masuda H, Arisaka Y, Hakariya M,et al.:	口腔外科	Molecular mobility of polyrotaxane surfaces alleviates oxidative stress-induced senescence in mesenchymal stem cells.	Macromolecular bioscience. 2023.03;23(5) e2300053.	Original Article
261	Shibata Mari, Ishikawa Ayataka, Ishii Junichi,et al.:	口腔外科	Stiffness of tongue squamous cell carcinoma measured using strain elastography correlates with the amount of collagen fibers in the tumor(vol 38, pg 278, 2022)	ORAL RADIOLOGY. 2023.02; 39 (2): 451-453.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
262	Yamazaki S, Hirayama R, Ikeda Y, et al.:	口腔外科	Hyaluronic acid hydrogels support to generate integrated bone formation through endochondral ossification in vivo using mesenchymal stem cells.	PloS one. 2023.02; 18 (2): e0281345.	Original Article

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。 合計262件

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	金兼弘和, 高木正稔	小児科	自己免疫性リンパ増殖症候群とRAS関連自己免疫性リンパ増殖症候群疾患	臨床免疫・アレルギー科. 2022.11; 78 (5): 599-610	Review
2	森尾友宏	小児科	自己免疫疾患 層別化する新時代へ 臨床検体のマルチオミクス解析、腸内細菌によって見えてきた免疫経路の全容【(第1章)精密医療を目指したマルチオミクス解析によるアプローチ	遺伝性免疫疾患研究から展開する精密医療 実験医学. 2022.09; 40 (15): 2401-2407	Review
3	神谷尚宏, 森尾友宏	小児科	臨床編 造血細胞移植後の日和見感染症に対する複数ウイルス特異的T細胞療法	【小児医療の最先端】2022.07; 282 (5): 435-440	Review
4	山下基, 森尾友宏	小児科	先天性免疫異常症におけるAIOLOS変異	臨床免疫・アレルギー科. 2022.07; 78 (1): 98-103	Review
5	岡野翼, 森尾友宏	小児科	炎症・免疫制御におけるゲノム編集(ゲノム医療)(第6回) 炎症・自己免疫をきたすsomatic mutationとその遺伝子改変	炎症と免疫. 2022.06; 30 (4): 356-360	Review
6	森有弥香, 山下基, 友政弾, 他	小児科	NEMO異常症に対する骨髄移植後の二次性生着不全に対する移植後シクロホスファミド法を用いたHLA半合致サルベージ骨髄移植	日本小児血液・がん学会雑誌. 2023.02; 59 (5): 420-425	Original Article
7	杉原 玄一, 村井 俊哉	精神科	ICD-11 「精神,行動,神経発達 of 疾患」分類と病名の解説シリーズ ICD of 統合失調症の診断がDSMと異なる背景	精神神経学雑誌. 2022.09; 124 (9): 645-646	Review
8	治徳 大介	精神科	eスポーツと精神医療のかかわり	臨床精神医学. 2022.07; 7 (51): 761-767	Review
9	高木 俊輔	精神科	発達障害とスポーツ-Neurodevelopmental disorders and sports-特集 スポーツ精神医学の展開	臨床精神医学 = Japanese journal of clinical psychiatry. 2022.07; 51 (7): 791-795	Review
10	藤野 純也, 高橋 英彦	精神科	【神経回路の可視化-何が見える、どこまで見える】疾患で見る 精神疾患における機能的結合	Clinical Neuroscience. 2022.06; 40 (6): 778-782	Review

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
11	竹内 崇, 松岡 裕美, 金子 慈史 他	精神科	【メンタルヘルスの視点からみたCOVID-19感染の影響とその対応】メンタルヘルスケアシステムと感染症蔓延下における工夫 東京医科歯科大学病院における母子支援システム	周産期医学. 2022.06; 52 (6): 848-850	Review
12	高木 俊輔	精神科	【脳波の読み方-up to date】睡眠脳波	Clinical Neuroscience. 2022.04; 40 (4): 425-428	Review
13	稲次 基希, 前原 健寿, Doyle Werner K	脳神経外科	【機能外科】新規抗てんかん薬時代のてんかん外科治療 てんかん外科へのneuromodulationの導入	脳神経外科ジャーナル. 2022.07; 31 (7): 440-447	Review
14	若林 光, 稲次 基希, 橋本 聡華, 他	脳神経外科	病巣切除のみで対側棘波が消失した海綿状血管腫に伴う側頭葉てんかんの一例	てんかん研究. 2022.06; 40 (1): 28-34	Case report
15	稲次 基希	脳神経外科	【核医学を考える】てんかんと核医学	脳神経内科. 2022.04; 96 (4): 493-499	Others
16	稲次 基希, 前原 健寿, Doyle Werner K	脳神経外科	【脳波の読み方-up to date】特殊な脳波 Responsive eurostimulation(RNS)	Clinical Neuroscience. 2022.04; 40 (4): 514-516	Others
17	吉井 俊貴, 橋本 泉智	整形外科	【上位頸椎疾患・外傷の病態と治療】上位頸椎高位の後縦靭帯骨化症の特徴と治療	整形・災害外科. 2022.08; 65 (9): 1141-1147	Review
18	小山 恭史, 杉浦 裕太, 藤田 浩二	整形外科	【上肢疾患の診断と治療の進歩(新鮮外傷を除く)】総論 病態・診断 動作解析 スマートフォンと機械学習を用いた手根管症候群スクリーニングアプリケーションの開発	別冊整形外科. 2022.10; (82): 21-25	Original Article
19	藤田 浩二, 小山 恭史, 杉浦 裕太	整形外科	【整形外科領域における人工知能の応用】母指運動に着目した手根管症候群スクリーニングアプリの開発	臨床整形外科. 2022.10; 57 (10): 1213-1218.	Original Article
20	藤田 浩二, 佐々木 亨	整形外科	【超音波診断 2022 BOOK】臨床 整形外科 手根管症候群診断におけるエコー活用の可能性	映像情報Medical. 2022.05; 54 (6): 52-55.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
21	沖山 奈緒子	皮膚科	私の視点 小児への治療は先の先をみて	皮膚病診療. 2022.12; 44 (12): 1109.	Review
22	小西 里沙, 沖山 奈緒子	皮膚科	写真で学ぶ皮膚科学 これが抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎だ!	皮膚アレルギーフロンティア. 2022.11; 20 (2): 88-89.	Review
23	大竹 里奈, 沖山 奈緒子	皮膚科	【これ1冊!皮膚科領域における膠原病診療の極意】限局性強皮症の診断と 治療の極意	Derma.. 2022.09; (326): 19-25	Review
24	沖山 奈緒子	皮膚科	【全身性強皮症-最新の話-】臨床 皮膚硬化	皮膚科. 2022.05; 1 (5): 605- 611.	Review
25	沖山 奈緒子	皮膚科	【病態から考える薬物療法】(第VIII章)膠原病 皮膚筋炎	皮膚科の臨床. 2022.04; 64 (5): 774-779.	Review
26	小西 里沙, 沖山 奈緒子	皮膚科	【皮膚筋炎とその周辺】疾患動物モデルからみた炎症性筋疾患の病態	皮膚科. 2023.01; 3 (1): 6-11.	Others
27	堤 剛	耳鼻咽喉科	外視鏡の耳科手術への応用	耳鼻咽喉科. 2022.12; 2 (6): 793-799	Others
28	渡邊 愛, 伊藤 卓, 川島 慶之, 他	耳鼻咽喉科	側頭骨外科における移動型イメージングシステムO-armとStealthStationを用 いた術中ナビゲーションシステムの使用経験	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学 会会報. 2022.11; 125 (11): 1586-1592	Original Article
29	堤 剛	耳鼻咽喉科	【経外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)】錐体尖部病変に対する手術手技	ENTONI. 2022.09; (275): 108- 114	Others
30	川島 慶之, 堤 剛	耳鼻咽喉科	【悪性か?良性か?開業医のためのがんの見つけ方】症状・所見からのアプ ローチ 難治性外耳道病変 外耳道癌、悪性外耳道炎の鑑別	JOHNS. 2022.08; 38 (8): 899- 902.	Others
31	本田 圭司, 渡邊 浩基, 大岡 知樹, 他	耳鼻咽喉科	Microsoft Excelによるめまい診断基準判定支援システム	Equilibrium Research. 2022.06; 81 (3): 123-135	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
32	堤 剛	耳鼻咽喉科	外耳道癌診療のポイント	耳鼻咽喉科臨床. 2022.06; 115 (6): 544-545	Others
33	岡本 師, 宮崎 泰成	呼吸器内科	【好きになる呼吸器学-珠玉の症例集から】珠玉の症例集 印象深い症例・ 思い出の症例より [Case 11]職業・生活環境だけでなく,患者の趣味まで聴 取する	内科. 2022.11; 130 (5): 907- 910.	Review
34	宮崎 泰成	呼吸器内科	【肺炎の最近の動向-感染症から特殊な肺炎まで】過敏性肺炎	カレントセラピー. 2022.11; 40 (11): 1077-1082.	Review
35	飯島 裕基, 宮崎 泰成	呼吸器内科	【呼吸器診断マスター-病歴,身体所見,画像所見でここを見る!】呼吸器内科 医がよく遭遇するコンサルト案件 職業関連肺疾患	呼吸器ジャーナル. 2022.11; 70 (4): 581-589	Review
36	宮崎 泰成, 富岡 洋海	呼吸器内科	【間質性肺疾患の研究と診療UPDATE】過敏性肺炎 国際診断ガイドライン とわが国の診療指針	医学のあゆみ. 2022.10; 283 (1): 67-75	Review
37	小松崎 恵子, 宮崎 泰成	呼吸器内科	【シン・アレルギー診療 プライマリ・ケア領域のアレルギーアップデート】 「〇〇」とアレルギー 「仕事」とアレルギー	治療. 2022.10; 104 (10): 1235- 1237	Review
38	宮崎 泰成	呼吸器内科	過敏性肺炎をめぐる最近の話題 診断 呼吸器内科医の役割	日本サルコイドーシス/肉芽腫性 疾患学会雑誌. 2022.10; 42 (1- 2): 47-55.	Review
39	宮崎 泰成	呼吸器内科	治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 過敏性 肺炎 サルコイドーシス	日本医事新報. 2022.10; (5138): 51	Review
40	岡本 師	呼吸器内科	【びまん性肺疾患-病態・臨床の最新知見-】診断と治療 過敏性肺炎 非線 維性過敏性肺炎	日本臨床. 2022.09; 80 (9): 1425-1431	Review
41	宮崎 泰成	呼吸器内科	【びまん性肺疾患-病態・臨床の最新知見-】総論 びまん性肺疾患の原因と 分類	日本臨床. 2022.09; 80 (9): 1346-1350	Review
42	立石 知也	呼吸器内科	【びまん性肺疾患-病態・臨床の最新知見-】診断と治療 過敏性肺炎 線維 性過敏性肺炎	日本臨床. 2022.09; 80 (9): 1432-1441	Review

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
43	古澤 春彦	呼吸器内科	【びまん性肺疾患-病態・臨床の最新知見-】診断と治療 膠原病関連肺疾患と類縁疾患 肺サルコイドーシス	日本臨床. 2022.09; 80 (9): 1461-1465	Review
44	宮崎 泰成	呼吸器内科	治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 過敏性肺炎	日本医事新報. 2022.08; (5131): 42-43	Review
45	宮崎 泰成	呼吸器内科	【吸い込みでおこる肺疾患の画像診断と病理】過敏性肺炎ガイドライン	画像診断. 2022.08; 42 (10): 962-971	Review
46	恵島 将, 岡本 師, 島村 貴史, 他	呼吸器内科	線維性過敏性肺炎のステロイド治療における気管支肺泡洗浄液中のリンパ球分画と予後との関連	気管支学. 2022.07; 44 (4): 259-267	Original Article
47	宮崎 泰成	呼吸器内科	【間質性肺疾患:実地臨床における診療のポイント】過敏性肺炎における診療のポイント	日本内科学会雑誌. 2022.06; 111 (6): 1084-1091	Review
48	石山 裕之, 秀島 雅之, 犬飼 周佑, 他	呼吸器内科	閉塞性睡眠時無呼吸における、口腔内装置療法の効果予測因子としての呼吸抵抗の評価 予備研究	睡眠口腔医学. 2022.05; 8 (3): 64-72	Original Article
49	宮崎 泰成	呼吸器内科	【1ページでわかる内科疾患の診療ノート-“あたりまえ”のなかにある大事な視点】(第1章)呼吸器 急性・慢性(非線維性・線維性)過敏性肺炎	内科. 2022.04; 129 (4): 558-562	Review
50	森 弘樹, 植村法子	形成・美容外科	【私の乳房再建選択アルゴリズム】私の乳房再建選択アルゴリズム 東京医科歯科大学病院2022年版	形成外科. 2022.09; 65 (9): 1035-1042	Review
51	Hirohata K,Koga H	スポーツ医学診療センター	【進歩する低侵襲手術に応じた理学療法-治療プログラム,目標設定,リスク管理】膝関節の低侵襲手術と理学療法	理学療法ジャーナル. 2022年2月; 56 (2): 170-176.	Original Article
52	加納 嘉人	臨床腫瘍科	【最新・転移性肝腫瘍の外科治療と遺伝子検査の治療への考え方】遺伝子検査の基礎知識 ゲノム検査はどんな場合に行うか?臨床医として知っておくべきこと	肝臓クリニカルアップデート. 2022.12; 8 (2): 102-106.	Others
53	加納嘉人	臨床腫瘍科	【革新的技術が変える肝疾患診療】リキッドバイオプシーがもたらすがん診療の変革	消化器・肝臓内科. 2022.04; 11 (4): 479-482	Others

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
54	末永 光邦, 植竹 宏之	臨床腫瘍科	【がん薬物療法中の腹部救急疾患・有害事象に対する対策と治療】化学療法中の消化器関連有害事象に対する治療アプローチ コロナ禍が医療現場へもたらす負担	日本腹部救急医学会雑誌. 2023.03; 43 (3): 629-635	Others
55	石山裕之, 秀島雅之, 犬飼周佑, 他	歯科総合診療科	閉塞性睡眠時無呼吸症における, 口腔内装置療法の効果予測因子としての呼吸抵抗の評価	予備研究 睡眠口腔医学. 2022.05; 8 (3): 64-72.	Original Article
56	羽田多麻木, 岩城麻衣子, 金澤学	義歯科	3Dプリントデンチャーの現在と未来.	歯科技工 別冊「はじめる! 使いこなす! 3Dプリンターの基礎と臨床」. 2022.11; 140-141.	Review
57	猪越正直	義歯科	咬合挙上による適切なアンテリアガイダンスの付与により咬合回復した一症例	日本補綴歯科学会誌. 2022.07; 14 (3): 269-272.	Case report
58	猪越正直, 水口俊介	義歯科	ジルコニア: マテリアルサイエンスから見た最新のエビデンス	日本補綴歯科学会誌. 2022.04; 14 (2): 124-130	Review
59	小野 卓史	矯正歯科	成人の矯正歯科治療のススメ 歯の自家移植という選択	日本歯科医師会雑誌. 2022.02; 74 (11): 1009-1018.	Others
60	小野 卓史, 米満 郁男	矯正歯科	【矯正歯科材料・装置:アップデート】改良型超弾性Ni-Ti合金ワイヤーおよびβチタン合金ワイヤーの特徴	日本歯科理工学会誌. 2022.01; 41 (1): 7-10.	Review
61	阿南康太, 辻美千子, 大河原愛奈, 他	矯正歯科	Turner 症候群を伴う患者における歯の特徴	日本矯正歯科学会雑誌. 2022.09; 81 (2): 79-86.	Original Article
62	興地隆史, 重谷佳見, 吉羽邦彦, 他	むし歯科	GaAlAs半導体レーザーの象牙質・歯髄複合体に対する硬組織形成促進作用	日本レーザー医学会誌. 2022.07; 43 (2): 113-119.	Review
63	渡辺聡, 興地隆史	むし歯科	Er:YAGレーザーによる根管洗浄の応用	レーザー医学会雑誌. 2022.07; 43 (2): 98-112.	Review
64	渡邊 素子, 高尾 千紘, 前田 智寿古, 他	歯科心身医療科	アミトリプチリン単剤療法が奏功した疼痛を伴う口腔セネストパチーの1例	日本歯科心身医学会雑誌. 2022.12; 37 (1-2): 5-11.	Case report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
65	高尾 千紘, 渡邊 素子, 木村 康之, 他	歯科心身医療科	かかりつけ歯科医との連携治療が奏功した非定型歯痛の1例	日本歯科心身医学会雑誌. 2022.12; 37 (1-2): 20-26.	Case report
66	須賀 隆行, 渡邊 素子, 高尾 千紘, 他	歯科心身医療科	短期入院下の心身医学的治療が奏功した高齢舌痛症の1例	日本歯科心身医学会雑誌. 2022.12; 37 (1-2): 12-16.	Case report
67	豊福 明	歯科心身医療科	歯科・口腔外科領域の心身医学	本医師会雑誌. 2022.10; 151 3 22-323	Review
68	倉沢泰浩, 森田圭一, 高原楠旻, 他	口腔外科	エナメル上皮腫再発に関与する因子の臨床病理学的検討	日本口腔外科学会雑誌. 2022.04; 68 (4): 184-192.	Original Article

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

合計68件

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 研究者等の責務、研究計画書に関する手続・記載事項、研究に関する登録・公表、インフォームド・コンセントを受ける手続等、倫理審査委員会の要件等、利益相反の管理、研究に係る試料及び情報等の保管、モニタリング及び監査	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントの対象、マネジメントの概要、手続等（書類の記入方法等）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年14回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年8回
・ 研修の主な内容 研究不正の防止、広報規則の遵守、倫理指針の改正に関する最新情報、利益相反管理について（研修会に参加できない場合は、随時e-learningで受講が可能）	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

○内科専門研修プログラム

1) 東京医科歯科大学内科専門研修プログラム（以下、本研修プログラム）は、東京医科歯科大学病院を基幹施設として、茨城県・千葉県・埼玉県・神奈川県・山梨県・長野県・静岡県・島根県・福岡県・東京都内近隣医療圏にある連携施設および特別連携施設で内科専門研修を行います。東京都にとどまらず、他県の各医療圏で研修を積むことにより、都心や各地域を理解した医療も行えるように訓練され、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後は、内科領域Subspecialty 専門医への道を歩む場合と高度な総合内科のGeneralityを獲得する場合、もしくは内科系集中治療医を目指す場合を想定して、複数のコース別に研修をおこなって内科専門医を育成します。

2) 初期臨床研修を修了した医師は、本研修プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設1年以上＋連携施設および特別連携施設1年以上）で、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、「研修カリキュラム（項目表）」に定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

○小児科専攻医研修プログラム

東京医科歯科大学小児科専攻医後期研修プログラムは、「最高レベルの一般診療と最先端の専門医療の提供」をモットーに、小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成することを目的とします。また「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となるべく、一定の専門領域に偏ることのない幅広い研修を提供し、上記の社会的要望に応えられるような優れた小児科医の育成を目指します。

○皮膚科研修プログラム

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

○精神科専門医研修プログラム

精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

基幹病院となる東京医科歯科大学病院精神科は、41床の開放病棟であり、急性期の精神病状態の患者の対応は限定されるものの、十分な指導体制のもとに、生理学的検査・心理検査実施による診断や治療に対する詳細な検討、電気けいれん療法、身体合併症診療、リエゾン診療、デイケア活動や小集団精神療法への参加などの全般的な研修が可能である。また、司法精神医学、児童精神医学、老年精神医学に関しては、専門の研修体制を整備しており、全般的な研修に加えて、柔軟に取り入れることができる。

また、連携施設には、首都圏の総合病院を中心に、民間の精神科病院も複数擁している。それぞれ特色のある病院であり、希望に応じて柔軟な研修体制を選択することが出来る。

○外科専門研修プログラム

1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること

- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- 4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
- 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科）、またはそれに準じた外科関連領域（乳腺や内分泌領域）の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

○整形外科専門研修プログラム

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児から高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を習得するために、本研修プログラムでは1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとります。全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、基幹病院および協力病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた単位数以上を修得し、4年間で48単位を修得するプロセスで研修を行います。

また東京医科歯科大学整形外科集談会への参加（年2回）および同会での研究発表（3年目まで年1回）、外部の学会での発表（年1回以上）と論文執筆（研修期間中1編以上）を行うことによって、各専門領域における臨床研究に深く関わりを持つことができます。

○産婦人科研修プログラム

当研修プログラムでは、産婦人科医としての基本的な診療技術、幅広い知識の習得を超えて、婦人科腫瘍、周産期、女性医学、生殖医療、内視鏡手術などの専門的かつ高度な研修が可能です。さらに連携施設での研修により、地域医療で求められる幅広い知識・技能をも習得することが可能です。

研修終了後は東京都下のみならず、地域医療の担い手として都外も含めた多様な施設で就業できます。さらに後期研修後には、大学院への進学や各種サブスペシャリティ領域の研修を開始する準備も整っており、継続的にスキル・キャリアアップできます。

○眼科専門研修プログラム

東京医科歯科大学病院では、幅広い分野の紹介患者があり、眼科全領域の疾患が経験できる。しかも各専門分野において、専門性の高い医療を提供しているため最先端の診断治療を学び、経験できる。また希少症例も経験することができる。

専攻医の研修は、眼科病棟、外来および手術室をローテートすることで行われる。まず各プログラムの疾患の基本について研修を行い、基本的検査、診断技術および処置、手術を習得し、それぞれのプログラムの目標到達を目指す。毎週行う症例カンファレンスでは、プレゼンテーションの訓練を行う。また、月一回のspot diagnosisでは画像読影能力を高め、リサーチプロセスでは英語でのディスカッションの能力とリサーチマインドを培う。また、各分野の医師から専門分野の疾患レクチャーを医局勉強会で受ける。さらに、周産母子センター等の関連診療科と連携し未熟児診療を含めた全身疾患に伴う眼病変も学習し、他科連携も連携委員を中心に指導を行う。また東京医科歯科大学では、専攻医や所属医が英語文献、書籍からアップデートした知識を常に吸収できる環境への配慮にも重点を置いている。学会報告や論文作成を専門研修基幹病院在籍中に専攻医は積極的に行う。

○耳鼻咽喉科専門研修プログラム

・本学には耳鼻咽喉科と頭頸部外科が独立した教室として併存しながら、実臨床において一つの教室として機能している。これにより、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の幅広い専門分野全てにおいて、高度の医療を提供することができている。従って、どの分野においても偏り無く最新医療を研修することができる。

・本学には国内随一の歯学部があり、歯科領域の幅広い専門分野において高度な診療・研究が行われている。これら各分野と協力して診療を行うことで、顔面深部外科手術後の再建や咀嚼・嚥下診療、咬合と無呼吸の一貫した診療など、他施設では不可能な高度な診療を経験できる。

・小児科・NICU、神経内科、消化器外科、形成外科、呼吸器科など耳鼻咽喉科・頭頸部外科と関連する各科も国内随一の高レベルの診療を行っており、これらと連携した診療が研修できる。また、頭頸部・頭蓋底腫瘍先端治療センター、スポーツ医学診療センター（高気圧治療部を含む）や快眠センター、長寿・健康人生推進センターなど、当科と深く関わるセンターにおいて病院全体をあげて高度な診療を行っており、極めて高いレベルの診療が研修できる。

・学内には難治疾患研究所や医用生体材料工学研究所など、最先端医療に関わる大規模な研究施設を有しており、これらと連携した最先端の診療が経験できる。

・多彩な連携施設を有し、それぞれに専門を生かした高いレベルの指導を行える指導医が派遣されている。他大学の附属病院に加え、都心の中核病院や地方の基幹病院、各種専門病院を多数含んでおり、大学病院での最先端の専門的診療とともに、一般的な初期診療や地方の基幹病院での救急、高齢者医療や小児医療を含む多彩な臨床経験によって、将来どのような場でも通用する幅広くかつレベルの高い医療技術を身につけることができる。

○泌尿器科専門研修施設群専門研修プログラム

東京医科歯科大学泌尿器科専門研修プログラムは東京医科歯科大学病院を基幹施設とし、15の連携施設と4つの協力施設から構成されています。東京医科歯科大学泌尿器科研修プログラムの連携施設と協力施設は都会拠点病院、地方拠点病院、都会診療所を含み、幅広い研修が可能です。これらの中には、10がん診療拠点病院（4がんセンター含む）、8地域医療支援病院を含み、ほとんどの施設が悪性腫瘍を中心に症例の多い病院であり、これらの施設で質、量ともに十分な研修が受けられます。最先端手術として、ロボット支援手術を実施する病院が10施設、ガスレス・シングルポート・ロボサージャン手術（先端型腹腔鏡下小切開手術）を実施する病院が2施設、腹腔鏡下手術を実施する病院が8施設含まれます。また、小児泌尿器科、女性泌尿器科、透析医療、生殖医療、地域医療などの幅広い領域の研修が可能で、サブスペシャリティ領域の研修も十分に経験できます。さらに、基幹施設である東京医科歯科大学病院では、充実した臨床研究や基礎研究を行うことができ、国際発表も経験できます。また、専門研修後には、大学院への進学や専門分野の研修も可能です。国際的に活躍できる泌尿器科医師を育成することを目標にしています。

○脳神経外科プログラム

脳神経外科専門研修では、初期臨床研修後4年間の研修により、脳神経外科領域の疾患に対する診断、手術的治療および非手術的治療、リハビリテーションあるいは救急医療における総合的かつ専門的な知識と診療技能を獲得します。

本プログラムでは、4年間の研修期間で脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍などの脳神経外科が扱う疾患の診断、標準的治療、基本手術手技の習得を目標とします。さらに本プログラムには20名以上の日本脳血管内治療学会専門医が在籍しており、開頭手術と並行して血管内治療を学べる体制を強化しています。その他、基幹施設においてはてんかん外科、三叉神経痛を中心とした機能的疾患の治療にも力を入れており、多彩な症例を学ぶことができます。また、脳卒中センターにおけるstrokeカンファレンスなど、さまざまな複数診療科でのカンファレンスを行っており、他診療科との連携も充実しています。連携施設や関連施設とは新御茶ノ水セミナー、血管内治療症例検討会、脳腫瘍カンファレンス、鏡視下手術研究会などを合同で開催して全体的な診療レベルの向上に努めています。専門医取得後にはハーバード大学の研究室などとの連携による海外研修にも力を入れていきます。

○放射線科専門研修プログラム

放射線科専門医の使命は、放射線科領域の専門医として、放射線診療・放射線医学の向上発展に資し、医療および保健衛生を向上させ、かつ放射線を安全に管理し、放射線に関する専門家として社会に対して適切に対応し、もって国民の福祉に寄与することにあります。

放射線科専門研修プログラム整備基準では、放射線科専門医制度の理念のもと、放射線科専門医としての使命を果たす人材育成を目的として専門研修の経験目標を定めています。本研修プログラムでは、研修施設群内における実地診療によって専門研修の経験目標を十分に達成できる研修体制の構築に努めていますが、実地診療のみでは経験が不足する一部の研修については、日本専門医機構が認める講習会（ハンズオン・トレーニング等）及び e-learningの活用等によって、その研修を補完します。

東京医科歯科大学放射線科専門研修プログラムは上記の整備基準に従い、放射線科領域における幅広い知識、錬磨された技能と高い倫理性を備え、コミュニケーション能力とプロフェッショナルリズムを備えた放射線科専門医をめざし、放射線科専攻医を教育します。

○麻酔科専門研修プログラム

本研修プログラムでは、多様な手術を施行する総合病院的な研修施設に加えて、小児麻酔、産科麻酔、心臓手術麻酔、集中治療、ペインクリニック、救急などの領域について、強化研修施設を組み入れるなどの形で専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医の育成をめざしている。

当院は東京都の中心に位置し、大学病院として高度な専門医療に対応するため経験豊富な専門医を有し、先進的な手術を受けた患者さんが最適なコースで回復できるような周術期管理を目指している。また、救急医療においても3次救急の受け入れを行っており、麻酔科専門医として必要な救急患者の管理を研修できる施設となっている。また、手術・麻酔を受けた患者の予後に関する研究や、様々なバイオマーカーの動態、新規医療機器に関わる臨床研究が行われ、研究活動との接点を持ちながら研修を進めることもできる。

○病理専門研修プログラム

東京医科歯科大学では医療に関する基本理念として、『心と身体(からだ)を癒す質の高い医療を、地域に提供するとともに、国内さらに世界へと広めていく』と掲げています。本プログラムにおいても、安定して確実な診断を行える技量を身に付け、地域基幹病院にて即戦力として活躍する人材を育成するとともに、教育者や研究者などへの進路にも対応できる知識と経験を積む機会も提示し、国際的に通用する人材の輩出も視野に入れた内容となっています。

○臨床検査専門研修プログラム

本研修プログラムでは、臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行います。基幹施設である東京医科歯科大学（TMDU）病院検査部で多くの研修を行いますが、連携施設である東京都教職員互助会三楽病院臨床検査科でも研修を行うことにより、深みのある研修となるように工夫しています。

○救急科専門研修プログラム

本研修プログラムの目的は、「国民に良質で安心な標準的医療を提供できる」救急科専門医を育成することです。救急科専門医育成プログラムを修了した救急科領域の専攻医は急病や外傷の種類や重症度に応じた総合的判断に基づき、必要に応じて他科専門医と連携し、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めることが可能になります。また、急病や外傷で複数臓器の機能が急速に重篤化する場合は初期治療から継続して、根本治療や集中治療にも中心的役割を担うことも可能です。さらに加えて地域の救急医療体制、特に消防機関・救急搬送（プレホスピタル）と医療機関との連携の維持・発展、また災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する仕事を担うことも可能となります。

○形成外科研修プログラム

本プログラムでは基幹施設と連携施設の病院群で指導医のもとに研修が行なわれます。外傷、先天異常、腫瘍、瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド、難治性潰瘍、炎症・変性疾患、美容外科などについて研修することができます。

研修の一部には臨床系大学院を組み入れることもできます。また、Subspecialty領域専門医の研修準備をすることもできるよう配慮しています。更に、医師としての幅が広げられるよう、臨床現場から見つけ出した題材の研究手法、論理的な考察、統計学的な評価、論文にまとめ発表する能力の育成を行います。専門研修プログラム修了後には専門知識と診療技術を習得し、他の診療科とのチーム医療を実践できる能力を備えるとともに社会性と高い倫理性を持った形成外科専門医となります。

○リハビリテーション科専門研修プログラム

本プログラムは、将来の日本のリハビリテーション医療を支え、新たな専門医の育成を行う指導的なリハビリテーション専門医を育てる教育システムを構築しています。またリハビリテーション領域の研究の発展のために基礎的な知識、方法を身に付け、研究を専門医取得後も継続して行なうことのできる医師を育てることを目標としています。

基幹研修施設である東京医科歯科大学病院は様々な高度医療を実施しています。その中でリハビリテーション部門は中央診療部門として年間1800名以上の患者のリハビリテーション医療に携わっています。疾患の内容は急性期疾患、整形外科術後、神経難病など多岐にわたり、研修中に多くの症例を経験することができます。一方、大学病院では様々な研究も行っており、臨床と同時に研究を行うことも可能です。リハビリテーション部門では、リハビリテーション医学分野として博士課程大学院生の教育も行っており、研修中にテーマを見つけた場合、さらに大学院に進学し、博士の学位取得を目指し研究を行うことも可能です。

○総合診療専門研修プログラム

将来、総合診療医として活動する場に応じて、診療所に比べて主に病院での研修に重点を置く研修（病院重点）や病院に比べて主に診療所での研修に重点を置く研修（診療所重点）など、多様なローテーションを組み立てることができる。そのために、規模としては中小規模病院・診療所・大学病院等、立地としては市中・郊外・遠隔地といった様々なセッティングの医療施設を用意している。

専攻医の選択での研修も充実している。

様々なセッティングの医療施設で、総合診療医としての核となる臨床能力や、専門医として必要なその他の臨床能力、手技を含めた多様な希望に応じた研修が可能である。あらゆる場面やニーズに総合診療医として対応できる能力習得を目標とする。

とくに、東京医科歯科大学に茨城県や長野県からの地域枠学生のために、茨城県や長野県の医師不足地域に立地している医療機関にても研修できるようになっている。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	541人
-------------	------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
宮崎 泰成	呼吸器内科	診療科長	32年	
森尾 友宏	小児科	診療科長	39年	
沖山 奈緒子	皮膚科	診療科長	23年	
高橋 英彦	精神科	診療科長	25年	
田邊 稔	肝胆膵外科	診療科長	37年	
吉井 俊貴	整形外科	診療科長	24年	
宮坂 尚幸	周産・女性診療科	診療科長	33年	

大野 京子	眼科	診療科長	35年
堤 剛	耳鼻咽喉科	診療科長	30年
藤井 靖久	泌尿器科	診療科長	34年
前原 健寿	脳神経外科	診療科長	37年
立石 宇貴秀	放射線診断科	診療科長	27年
内田 篤治郎	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	診療科長	32年
明石 巧	病理部	副部長	35年
東田 修二	検査部	部長	38年
森下 幸治	救命救急センター	センター長	23年
森 弘樹	形成・美容外科	診療科長	29年
酒井 朋子	リハビリテーション部	部長	33年
橋本 正良	総合診療科	診療科長	35年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容：ジェネラリストラダー制度のラダーレベル I～V や静脈注射認定プログラムの中で、高度な知識、技術習得のための研修を位置つけて実施した。・研修の期間・実施回数：2022年4月6日～2023年1月30日・計7回（E-Learning、Zoom研修）・研修の参加人数：計326名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 情報セキュリティ・個人情報保護講習会・研修の期間・実施回数 2022年12月6日～2023年3月31日・研修の参加人数 1,695名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. <u>現状</u>
管理責任者氏名	病院長 藤井 靖久
管理担当者氏名	(総務課長) 田中 功一 (管理課長) 渡邊 剛志 (労務課長) 上村 七奈 (医事一課長) 磯部 敦志 (医事二課長) 岩瀬 英一 (医療支援課長) 佐藤 奈生 (医療品質管理課長) 三好 直子 (病院経営企画課) 平野 秀紀

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課総務係
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部、中央電算室
		手術記録	中央電算室、病歴管理室
		看護記録	中央電算室、病歴管理室
		検査所見記録	中央電算室、病歴管理室
		エックス線写真	
		紹介状	中央電算室、病歴管理室
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	中央電算室、病歴管理室
		従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事企画課・人事労務課
		高度の医療の提供の実績	医療支援課企画係
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	臨床研究監視室
		高度の医療の研修の実績	労務課医師研修係
		閲覧実績	総務課総務係
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事一課医事係 医事二課医事係
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事一課医事係、医事二課医事係、薬剤部		
		<p>電子化されているものは中央電算室で、紙媒体のものは病歴管理室で一括管理している。病院外への診療情報の持ち出しは、診療情報提供、診療報酬請求等の特定の用途に制限している。やむを得ない事情により持ち出す場合には病院長の許可が必要となる。</p> <p>【総務部人事企画課・人事労務課】 本学の人事システムで一括管理を行っている。</p> <p>【医療支援課企画係】 ネットワーク上のファイルサーバー及びファイルにより保管管理している。</p> <p>【臨床研究監視室】 電子化されている諸記録は、臨床研究監視室で管理している。</p> <p>【労務課医師研修係】 紙媒体及び電子媒体で管理している。</p> <p>【総務課総務係】 文書にて保管し、年度毎にまとめている。(閲覧実績なし)</p> <p>【医事一課、医事二課】 〔紹介患者に対する医療提供の実績〕 諸記録は、上記診療に関</p>	

				<p>する諸記録と同じ。紹介患者数は、医事一課・医事二課で電子データ管理。</p> <p>〔入院患者数、外来患者数〕</p> <p>医事一課・医事二課で電子データ管理。</p>
規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	<p>【医療安全管理部、感染制御部】</p> <p>電子化されている諸記録は、医療安全管理部、感染制御部それぞれの部署で管理し、紙媒体についてもそれぞれの部署で管理している</p>	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部		
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部 感染制御部		
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部		

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	【医療安全管理部、感染制御部】 電子化されている諸記録は、医療安全管理部、感染制御部それぞれの部署で管理し、紙媒体についてもそれぞれの部署で管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事一課診療報酬対策室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課患者サービス係
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課総務係
		職員研修の実施状況	医療安全管理部 感染制御部
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部		
管理者が有する権限に関する状況	総務課総務係		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課総務係		
			<p>【医療安全管理部、感染制御部】</p> <p>電子化されている諸記録は、医療安全管理部、感染制御部それぞれの部署で管理し、紙媒体についてもそれぞれの部署で管理している。</p> <p>【医事一課診療報酬対策室】</p> <p>電子データで保存。</p> <p>【医療支援課患者サービス係】</p> <p>電子入力し、パスワード管理している。</p> <p>【総務課総務係】</p> <p>専用電話、専用メールアドレス、投書箱を設置済。</p> <p>【医療安全管理部】</p> <p>電子化されている諸記録は、医療安全管理部、感染制御部それぞれの部署で管理し、紙媒体についてもそれぞれの部署で管理している。</p> <p>【総務課総務係】</p> <p>病院規則に管理者が有する権限を明記</p> <p>【監査室】</p> <p>電子媒体情報にて、監査室で管理している</p> <p>【総務課総務係】</p> <p>役員会の運営に関する申し合わせの審議事項に明記。</p>

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	(事務部長)秋葉 泰樹
閲覧担当者氏名	(総務課長)田中 功一
閲覧の求めに応じる場所	・病院特別会議室
閲覧の手続の概要 閲覧の希望する者は、閲覧責任者の許可を得て閲覧することができる。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容： インフォームド・コンセントを徹底した患者本位の全人的医療、安全な医療の提供を行う。 ○医療現場でのインシデント報告を通しての検証及び事故防止対策を策定・実施する ○医療における基本の徹底と質の向上を図る。 ○上記の目的を実施するため、次の機構を組織する。 (1) 医療安全管理委員会…本院における医療事故防止に関する方策の検討・実施、各種マニュアルの策定及び研修等を行う。 (2) リスクマネージャー会議…各診療科、中央診療部門の中核となる実務者で構成し、日常における安全管理レポート等から事故の検証と再発防止につとめる。 (3) 医療安全管理部…安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関するマニュアルの追加並びに指導を行う。 ○患者からの相談に対応するため、院内に患者相談室を置き、必要に応じ、関連部署との連絡調整を行い、相談内容を適切に処理する。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有)・無) ・ 開催状況：年14回 ・ 活動の主な内容： ○医療事故防止に関する方策の検証・実施、各種マニュアルの策定及び研修等を行う。 ○安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止策の検討 ○安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する指導を行う。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の内容(すべて)： ○医療安全のさらなる推進と向上を目指して ○医療機器の安全管理～ファントルくん運用後のレポートから～ ○医薬品安全管理と病院機能評価 ○放射線診療の正当化と患者への情報提供 ○医療安全管理体制、インフォームド・コンセント、高難度新規医療技術 ○病院機能評価と医薬品安全管理体制再整備</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○インシデント・アクシデント報告の内容分析 ○医療安全管理委員会における重大事故に対する対策の検討 ○内容分析を踏まえたワーキンググループの設置 ○M&Mカンファレンスにおける、多職種・多診療科で今後の方向性の議論 ○臨床研究監視委員会において、インシデント、アクシデントレポートの確認 ○ICノート・病状説明テンプレートの導入による患者説明の充実</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感染の予防、教育活動、発生時の対応等及び抗菌薬の適正使用に関して審議・実施をするため感染対策委員会を置く。 ○ 感染対策委員会と連携し、医療関連感染の予防、教育活動及び医療関連感染発生時に速やかに対応するため、また、抗菌薬を適正に使用するため、管理・指導を行うことを目的として、感染制御部を置く。 ○ 医療関連感染の防止・対策に資するため、感染対策チームを置く。 ○ 院内の抗菌薬適正使用に資するため、抗菌薬適正使用支援チームを置く。 ○ 職員に対する研修に関する基本方針 <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染対策の基本的考え方および具体的方策や、抗菌薬使用の適正化について、職員に周知徹底を図ることを目的に実施する。 (2) 感染対策に関する職員研修は、就職時の初期研修のほか、全職員および職種別対象を年 2 回以上開催する。抗菌薬適正使用に関する職員研修は、年 2 回程度開催する。 (3) 研修の開催結果を記録・保存する。 ○ 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 <p>MRSA等の感染を防止するため、「院内感染現況報告」を週 1 回程度作成し、感染制御部にて確認・検討を行うとともに、対策チームを通じ院内への情報提供・注意喚起に活用する。また、検討結果は委員会にて報告され、再確認等、活用する。</p> ○ 院内感染発生時の対応に関する基本方針 <p>異常発生時は、その状況および患者への対応等を病院長に報告する。感染制御部にて速やかに発生の原因を究明し改善策を立案するとともに、状況に応じ委員会を開催する。改善策を実施するために感染制御部・対策チームを中心に全職員への周知徹底を図る。</p> 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 院内感染防止に関する検討・実施・各種マニュアルの策定および教育・研修等を行った。 ○ 院内感染状況報告と対策の協議ならびに抗菌薬使用状況等の分析を行った。 ○ 医療現場における感染防止対策に関する取組みの評価を行った。 ○ 新型コロナウイルスに関する対策の策定、情報共有を行った。 ○ 抗菌薬サーベイランスについて報告を行った。 ○ 抗菌薬適正使用プログラムについて協議を行い、運用を開始した。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 0 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 病院全職員を対象とした院内感染、感染症及び抗菌薬適正使用等に関する研修 ○ 手指衛生実習 ○ 標準予防策と感染経路別予防策（COVID-19 含む） ○ 基本的な感染対策 ○ PPE 着脱講習 ○ 医療機関における薬剤耐性（AMR）対策の基本 ○ 職業感染対策 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 医療現場の感染対策に関する環境整備の定期的な確認及び指導。 (2) 感染に関するニュースレター及び各種研修資料の提供。 (3) 細菌検査担当者、薬剤部担当者とともに院内感染に関する情報を共有し改善に努める。 (4) エピネット等による針刺し事故等の報告分析と再発防止に努める。 (5) 平日は感染制御部医師、看護師、薬剤師、検査技師にて微生物ミーティングを行い、院内の医療関連感染の情報収集、分析を行っている。 	

- (6) デバイスに関連した感染症の発生状況を把握し、医療関連感染対策防止対策を推進するためにデバイスサーベイランス（一般病棟、重症系）を実施している。
- (7) 広域抗菌薬開始症例のレビューや感染対策に関わる問題の共有を行い、必要時、感染症内科の介入や感染制御部が現場に赴き、適切な感染防止対策が実施されるよう伝達、指導を行っている。
- (8) 耐性菌検出ベースラインを算出しアウトブレイクの予兆を早期に発見し対応している。
- (9) 感染経路別予防策は医療端末の病棟マップと病室前に表示し、全職員が把握できるように工夫している。
- (10) 標準予防策の遵守や个人防护具の着用については、全職員研修および新入職者研修にて教育するとともに、病室前に防護具を設置し、職員が適切に使用できるように整備している。
- (11) 抗菌薬適正使用の推進として血液培養陽性例の確認とフィードバック、感染症コンサルテーション診療、広域抗菌薬届出制、一部抗MRSA薬許可制等を導入している。
- (12) 検査診断の適正化として、血液培養施行状況のモニタリングとフィードバックを実施し、感染症検査全般の見直しと整備、迅速遺伝子診断を導入した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 全職員研修を以下の演題にて行った。 ○医薬品安全管理と病院機能評価 ○病院機能評価と医薬品安全管理体制再整備 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ○医薬品の採用、購入 ○医薬品の管理(麻薬等の管理方法等) ○入院、外来への医薬品の供給・使用・管理 ○患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 ○患者に対する与薬や服薬指導 ○医薬品の安全使用に係る情報の取扱い ○部門(救急部、手術部、輸血部、化学療法部など)における医薬品の使用・管理など ○他施設(病院等、薬局等)との連携 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： ○Vistide注射(海外輸入品)(原発性免疫不全症候群) ○SADBE液(院内製剤)(円形脱毛症) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページにあるPMDA医療安全情報や公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページにある医療安全情報などから情報収集 ○リスクマネージャー会議での周知、お知らせ回覧ファイルによる情報提供 ○鎮静剤の使用に関し、院内ワーキングにて審議中 ○未承認新規医薬品等評価委員会へ申請していない医薬品の適応外使用・禁忌使用の情報収集のための体制を確立、医薬品の適正使用についてモニタリングを継続している 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年51回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○輸液ポンプ・シリンジポンプの安全な操作法 ○除細動装置 ○人工呼吸器の安全管理 等 ○医療機器の安全管理について</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>○人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、人工心肺、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置 等</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： 該当なし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページにあるPMDA医療安全情報や公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページにある医療安全情報などから情報収集 ○リスクマネージャー会議での周知、お知らせ回覧ファイルによる情報提供</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師) 歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者の統括状況</p> <p>○医療安全管理責任者は、医療安全管理部からの報告を受けるとともに、医療安全管理委員会に委員として出席し、医療機器安全管理責任者、医薬品安全管理委員会及び医療放射線安全管理委員会の報告を受ける体制となっている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (8名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○薬剤部 医薬品情報室において情報を整理、集約し、医薬品安全性情報を周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>1) 未承認薬品・適応外使用医薬品については、治験・臨床研究担当薬剤師が臨床試験管理センターから当該審査委員会審査結果・緊急審査結果の情報を受け、次の手順で実施する。</p> <p>2) 審査結果内容に準じ、必要な場合には電子カルテ薬品マスターをDI室に作成依頼する。</p> <p>3) 情報ファイルを整理し、調剤室等処方調剤、注射セット現場に存置した「未承認薬品・適応外使用医薬品資料ファイル」にファイルする。</p> <p>4) アップデート情報については、毎朝の朝礼時に情報提供し、全薬剤師に周知する。</p> <p>5) 詳細な内容については、毎月の部員会において治験薬情報と共に報告する。</p> <p>6) 治験・臨床研究担当薬剤師は登録されている未承認薬品・適応外使用医薬品の使用状況についてモニタリングし、月報を作成し、医薬品安全管理責任者に報告する。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有) ・無)</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部，職種：薬剤師) (所属：肝胆膵外科，職種：医師)</p> <p>(所属：歯科心身医療科，職種：歯科医師) (所属：救命救急センター，職種：医師)</p> <p>(所属：クオリティ・マネジメント・センター，職種：医師) (所属：脳神経内科，職種：医師)</p> <p>(所属：顎関節症外来，職種：歯科医師) (所属：呼吸器内科，職種：医師)</p> <p>(所属：心臓血管外科，職種：医師) (所属：集中治療部，職種：医師)</p> <p>(所属：手術部，職種：医師) (所属：歯科心身医療科，職種：歯科医師)</p>	

(所属：麻酔・蘇生・ペインクリニック科，職種：医師) (所属：統合診療機構，職種：看護師) (所属：看護部，職種：看護師) (所属：看護部，職種：看護師) (所属：看護部，職種：看護師) (所属：薬剤部，職種：薬剤師)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ((有)・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：IC委員会において、ICの取得状況とモニタリングの内容について報告を行っている。また、死亡退院事例検証においてICの有無についてのチェックを行い、不十分なものについて診療科への確認を行っている。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 診療録監査要項・診療録監査実施要項に基づき、今年度より年4回、医師・歯科医師による同僚監査および各コメディカル（看護師、薬剤師、栄養士、リハビリ、診療情報管理士）による診療録監査を実施予定で、現在2回目まで完了。 量的監査の他に、質的監査については入院患者から各診療科のカルテを任意に抽出し、診療録監査を行っている。結果については病院運営会議で報告し、各診療科へもフィードバックしている。 また、学内HP、保険診療講習会、病院メルマガ等で診療録記載の留意点を指導・周知している。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無
・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（12）名 うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（7）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（2）名、専任（1）名、兼任（ ）名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： ○医療事故防止に関する方策の検討・実施、各種マニュアルの方策及び研修等を行う。	

○安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止につとめる。

○安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する指導を行う。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（9件）、及び許可件数（8件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

○診療科長から担当部門長に対し、高難度新規医療技術の提供の実施に関する相談があった場合には

相談のあった医療技術が高難度新規医療技術に該当するか一義的判断する。

○当該高難度新規医療技術の提供の実施の適否、実施条件等について評価委員会の意見を求める。

○評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の実施の適否、実施条件等につ

いて決定し、診療科長に通知し、病院長に報告する。

○高難度新規医療技術の提供を実施した診療科に対して、定期的及び対象患者に有害事象が発生した

場合その他必要な場合において、診療録等の記載内容を確認し、病院長にその結果を報告する。

○高難度新規医療技術の提供を実施した診療科に対して、定期的に所属する者が高難度新規医療技術

規則等を遵守して高難度新規医療技術の提供を実施しているか遵守状況を確認し、病院長にその結

果を報告する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（105件）、及び許可件数（97件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

○未承認新規医薬品等の提供の適否、実施条件等について評価委員会の意見を求めること。

○評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等の医療提供の実施の適否、使用条件等について決定し、診療科長に通知し、病院長に報告する。

○未承認新規医薬品等の医療提供を実施した診療科に対して、定期的及び対象患者に有害事象が発生した場合、又はその他必要な場合において、診療録等の記載内容を確認し、病院長にその結果を報告する。

○未承認新規医薬品等の医療提供を実施した診療科に対して、定期的に所属する者が未承認新規医薬品等規則等を遵守して未承認新規医薬品等の医療提供を実施しているか遵守状況を確認し、病院長にその結果を報告する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年591件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年341件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

○医療安全に係る各委員会からの説明と報告を受け、内容の精査を行う

○医療事故防止に関する方策の検証・実施、各種マニュアルの策定及び研修等を行う。

○安全管理レポート等からの事故の検証と再発防止策の検討

○安全管理レポートの調査分析等を行うとともに、事故防止に関する指導を行う。

○M&Mカンファレンスの開催等

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有）（病院名：札幌医科大学附属病院）・無）
 - ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有）（病院名：滋賀医科大学医学部附属病院）・無）
 - ・技術的助言の実施状況
- Web 訪問における技術的助言はなし。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

患者相談室を設置し、患者や家族からの相談や申し出に対応している。

対応内容については、連携メーリングリストを使用して迅速な情報共有を行っている。

対応経過については、日常的に患者相談室から医療安全管理部に報告を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

（医療安全）

○医療者が知るべき医療安全について、医療機器の安全使用、改正薬機法と保険薬局への情報提供などを含めた研修内容としている。

（研修内容）

○医療安全のさらなる推進と向上を目指して

○医療機器の安全管理～ファントルくん運用後のレポートから～

○医薬品安全管理と病院機能評価

○放射線診療の正当化と患者への情報提供

○医療安全管理体制、インフォームド・コンセント、高難度新規医療技術

○病院機能評価と医薬品安全管理体制再整備

研修の実施状況

（感染対策）

2022年度における感染対策に関わる職員研修は全2回の実施であった。

・第1回 感染対策・抗菌薬適正使用研修：「基本的な感染対策について」（5/10～6/30の期間、Eラーニングにて実施）

・第2回 感染対策研修：「院内感染対策」「標準予防策 手指衛生について」「抗菌薬適正使用支

援プログラムについて当院における取り組みと現状」(11/8～翌年1/4の期間、Eラーニングにて実施 医療安全管理研修と同時開催)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：2022年度特定機能病院管理者研修(公益財団法人 日本医療機能評価機構)

医療安全管理責任者：2022年度特定機能病院管理者研修(公益財団法人 日本医療機能評価機構)

医薬品安全管理責任者：2022年度特定機能病院管理者研修(公益財団法人 日本医療機能評価機構)

医療機器安全管理責任者：2022年度特定機能病院管理者研修(公益財団法人 日本医療機能評価機構)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構、一般病院3 (Ver. 2)、2022年9月14日～16日に受審し、2023年3月10日付けで条件付き認定を受けた。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

令和5年3月10日にHPに掲載

・評価を踏まえ講じた措置

①臨床倫理委員会の組織を大学本部から病院直轄へ変更し、臨床倫理コンサルテーションチームを発足。

②SSIサーベイランスの対象手術を2023年4月～食道外科手術、6月～産婦人科手術にも拡大し実施している。当該診療科と連携し、消化器領域(大腸肛門外科、食道外科)、循環器領域(心臓血管外科)、婦人科領域のSSIサーベイランスを実施している。

一般病棟でのデバイスサーベイランスをシステムティックに実施すべく電子カルテ(看護師が入力す

る経過表入カマスタ項目) および感染対策支援システムの改修、全看護師対象としたサーベイランスの目的、方法を再教育のうえ、2023年3月～試行的に実施した。3月の試行結果を受けて、再度電子カルテ、感染対策支援システムの微修正を行い、4月～全病棟のデバイスサーベイランスを本格的に稼働させた。また、経過表入力が適正にされているかの記録監査とデータの精度管理の仕組みを構築し、実施した。

③外来・病棟において抗がん剤使用時の観察事項を含む記録テンプレートの試行を実施。4月1日からの全部署でのテンプレート使用開始。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療法第10条に定める管理者の要件を満たす医師であること。 2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有していること。 具体的には、医療安全管理業務の経験や、患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力を有する者 3. 病院管理運営に必要な資質・能力を有していること。 具体的には、本院又は他院における組織管理経験を有し、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有する者 4. 本院の理念と実践に深い理解があること。とりわけ以下の点について深い理解があること。 <ol style="list-style-type: none"> ① 働き方改革 ② チーム医療 ③ 公的医療制度 ④ 地域連携 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ 公表の方法 大学HPにて公表
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ 公表の方法 大学HPにて公表 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
大川 淳	理事・副学長 (医療担当)	○	医療担当理事として大学及び病院の運営に精通している。	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
東田 修二	東京医科歯科大学 医学部長 大学院 医歯学総合研究科		医学部長及び検査部長として、大学、病院の運営に精通している	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無

	教授			
大野 京子	大学院医歯学総合 研究科教授		本院の眼科長として病院運営及 び診療科管理に関し広く精通し ている	有・無
依田 哲也	東京医科歯科大学 歯学部長 大学院 医歯学総合研究科 教授		歯学部長及び口腔外科系診療領 域長として、大学、病院の運営 に精通している	有・無
安藤 昌之	公益財団法人 東 京都保健医療公社 豊島病院 院長		豊島病院院長として病院管理に 関し広くかつ高い見識を有して いる。	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		○ 有 ・ 無	
<p>・ 合議体の主要な審議内容</p> <p>(1) 病院内諸規則の制定改廃に関する事項</p> <p>(2) 病院内の人事に関する事項</p> <p>(3) 病院の運営方針、中期計画、予算及び決算に関する事項</p> <p>(4) その他病院の運営に関する重要事項・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>・ 審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>会議資料配付システム、資料共有システムにより周知</p> <p>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)</p> <p>・ 公表の方法</p> <p>大学HPIにて公表</p> <p>・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
藤井 靖久	○	医師	病院長/泌尿器科長
新田 浩		歯科医師	首席副病院長(歯科統括)/歯科総合診療科長
宮崎 泰成		医師	副病院長(医療安全)※筆頭/呼吸器内科長/快眠センター長
大野 京子		医師	副病院長(診療・地域連携)/眼科長
堤 剛		医師	副病院長(手術・先進医療・働き方改革)/耳鼻咽喉科長
木下 淳博		歯科医師	副病院長(診療情報)(歯系)/医療情報部(歯科部門)長
浅香 えみ子		看護師	副病院長(看護・サービス・環境整備)/看護部長

笹野 哲郎		医師	病院長補佐(診療整備・内科) / 循環器内科長
絹笠 祐介		医師	病院長補佐(診療整備・外科) / 大腸・肛門外科長/低侵襲医療センター長
高橋 弘充		薬剤師	病院長補佐(メディカルスタッフ)
永田 将司		薬剤師	病院長補佐(薬剤) / 薬剤部長
藍 真澄		医師	病院長補佐(診療報酬) / 医療情報部(医科部門)長/保険医療管理部長/臨床研究監視室長
田村 郁		医師	病院長補佐(医療連携・広報) / 医療連携支援センター長
小池 竜司		医師	病院長補佐(臨床研究) / 臨床試験管理センター長
工藤 篤		医師	病院長補佐(安全管理) / 医療安全管理部長
具 芳明		医師	病院長補佐(感染) / 感染症内科長/感染制御部長
森下 幸治		医師	病院長補佐(救命救急) / 救急科長/救命救急センター長
若林 健二		医師	病院長補佐(集中治療・ベッドコントロールセンター) / 集中治療部長/ベッドコントロールセンター長
植木 穰		医師	病院長補佐(災害) / 災害テロ対策室長
武内 寛明		その他	病院長補佐(ウイルス制御)
秋葉 泰樹		事務職員	病院長補佐(経営改善)
金澤 学		歯科医師	病院長補佐(再整備)(歯系) / 歯科技工部長
笛木 賢治		歯科医師	病院長補佐(臨床研究・教育等)(歯系) / 義歯科長
前田 茂		歯科医師	病院長補佐(手術・病

			棟・医歯連携・安全管理）（歯系）/歯科麻酔科長
小野 卓史		歯科医師	病院長補佐（診療整備・感染・災害）（歯系）/矯正歯科長
森 毅彦		医師	血液内科長/がん先端治療部長
保田 晋助		医師	膠原病・リウマチ内科長
山田 哲也		医師	糖尿病・内分泌・代謝内科長
内田 信一		医師	腎臓内科長
橋本 正良		医師	総合診療科長
岡本 隆一		医師	消化器内科長
末永 光邦		医師	臨床腫瘍科長
佐藤 信吾		医師	緩和ケア科長
池田 貞勝		医師	がんゲノム診療科長
吉田 雅幸		医師	遺伝子診療科長
石川 欽也		医師	長寿・健康人生推進科長/長寿・健康人生推進センター長
春木 茂男		医師	食道外科長
徳永 正則		医師	胃外科長
小田 剛史		医師	乳腺外科長
岡本 健太郎		医師	小児外科長
工藤 敏文		医師	末梢血管外科長
田邊 稔		医師	肝胆膵外科長
藤田 知之		医師	心臓血管外科長
大久保 憲一		医師	呼吸器外科長
朝蔭 孝宏		医師	頭頸部外科長
大橋 健一		医師	病理診断科長/病理部長
沖山 奈緒子		医師	皮膚科長
森 弘樹		医師	形成・美容外科長
田中 顕太郎		医師	再建形成外科長
吉井 俊貴		医師	整形外科長
古賀 英之		医師	運動器外科長
酒井 朋子		医師	リハビリテーション科長/リハビリテーション部長
森尾 友宏		医師	小児科長/周産期母子医療センター長/難病診療部長
宮坂 尚幸		医師	周産・女性診療科長
前原 健寿		医師	脳神経外科長
横田 隆徳		医師	脳神経内科長
壽美田 一貴		医師	血管内治療科長

高橋 英彦		医師	精神科長
竹内 崇		医師	心身医療科長/メンタルヘルス・リエゾンセンター長
内田 篤治郎		医師	麻酔・蘇生・ペインクリニック科長/手術部長
吉村 亮一		医師	放射線治療科長
立石 宇貴秀		医師	放射線診断科長/放射線部長
大塚 和朗		医師	光学医療診療部長
柳下 和慶		医師	高気圧治療部長/スポーツ医学診療センター長
岩本 勉		歯科医師	小児歯科長
島田 康史		歯科医師	むし歯科長
岩田 隆紀		歯科医師	歯周病科長
丸川 恵理子		歯科医師	口腔インプラント科長
戸原 玄		歯科医師	摂食嚥下リハビリテーション科長
原田 浩之		歯科医師	口腔外科長
依田 哲也		歯科医師	口腔外科副科長
豊福 明		歯科医師	歯科心身医療科長
三浦 雅彦		歯科医師	歯科放射線科長
荒川 真一		歯科医師	口腔健康管理科長
森山 啓司		歯科医師	矯正歯科副科長
興地 隆史		歯科医師	むし歯科副科長
上野 剛史		歯科医師	義歯科副科長
中川 量晴		歯科医師	摂食嚥下リハビリテーション科副科長
渡邊 裕		歯科医師	歯科口腔外科副科長
東田 修二		医師	検査部長
久保田 英雄		医師	材料部長
内藤 省太郎		医師	血液浄化療法部長
倉島 直樹		臨床工学技士	MEセンター長
宮崎 晋介		医師	不整脈センター長
川田 研郎		医師	臨床栄養部長
関矢 一郎		医師	輸血・細胞治療センター長
山田 徹		医師	コロナ外来診療センター長
足達 淑子		歯科衛生士	歯科衛生保健部長
水口 俊介		歯科医師	先端歯科診療センター長
松尾 浩一郎		歯科医師	オーラルヘルスセンター長
石川 智則		医師	リプロダクションセ

			ンター長
岡田 英理子		医師	総合教育研修センター長
伏見 清秀		医師	クオリティ・マネジメント・センター長
岡田 卓也		医師	国際医療部長
石黒 めぐみ		医師	臨床研究中核病院設置準備室長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
大学HPにて公表
- ・ 規程の主な内容
3 病院長は、次の権限を有する。
 - ・ 副病院長、病院長補佐、第5条に定める組織の長、東京医科歯科大学病院の院内組織に関する細則（平成16年4月1日制定）第5条に規定する各診療科の長の任命及び解任に関すること。ただし、看護部及び医療技術職員の役職に関する要項（平成25年8月1日制定）に基づき役職が付されている医療技術職員については除く。
 - ・ 病院予算の執行に関すること。
 - ・ 病院の診療許可に関すること。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長を若干名置き、本院の管理運営等に関する企画・立案に関わるとともに、病院の教育・研究及び診療に関わる職務を分担する。分担する職務については病院長が定める。
病院長補佐を若干名置き、次の職務の企画立案等を検討し、提言する。
 - (1) 教育・研修に関すること。
 - (2) 研究・診療に関すること。
 - (3) 組織・管理運営・経営に関すること。
 - (4) 地域医療・企画広報・危機管理に関すること。
 - (5) 環境整備・医療サービスに関すること。事務部に経営企画課を置き、理事、病院長、副病院長、看護部長、事務部長、事務スタッフで構成された企画戦略会議を実施し、病院の将来構想および経営戦略に関することを審議することにより、管理者をサポートしている。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
国立大学附属病院長会議による、病院長のリーダーシップ及び病院長を支えるサポート体制の強化等、病院執行部のガバナンス強化を目的とした「病院長塾」、「病院経営次世代リーダー養成塾」に病院長、副病院長等が参加している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理や高難易度新規医療技術、未承認医薬品等に関する活動監査及び事例対応検証を実施。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：本学及び本院のHPに掲載。</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
中島 勸	虎の門病院 医療安全部 部長	○	虎の門病院医療安全部長として、医療安全に対し豊富な経験と知識を有している。	有・ 無	1
児玉安司	新星総合法律事務所 弁護士 国立がん研究センター 理事 医師		医療安全の問題に取り組むなど、医学及び法学の立場から幅広い視野視点を有し、医療安全に関し精通している。	有・ 無	1
豊田 郁子	NPO 法人 架け橋 理事長		患者・家族と医療をつなぐ NPO 法人 架け橋理事長として、患者・家族と医療従事者のより良い関係の促進やコミュ	有・ 無	2

			ニケーションに関する豊富な知見を有している。		
岡田 就将	本学政策科学分野教授 本学寄附講座 東京都地域医療政策学講座 寄附講座教授		日本における保険医療政策に対し豊富な経験と知識を有している。	有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容
監査室による内部監査において、管理者等の法令適合状況を検証

- ・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
大学HPに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 大学の役員会で病院の予算執行状況等管理運営に関する重要事項を審議することとする。 ・ 会議体の実施状況（ 年39回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年9回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・ 公表の方法 大学HPにて公表 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：役員会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
田中 雄二郎	学 長	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
廣川 和憲	理 事 (財務・資産活用担当)		<input checked="" type="radio"/> 有・無
内田 信一	理 事 (医療担当)		<input checked="" type="radio"/> 有・無
古川 哲史	理 事 (研究・改革担当)		<input checked="" type="radio"/> 有・無
若林 則幸	理 事 (教育担当)		<input checked="" type="radio"/> 有・無
東條 有伸	理 事 (産官学連携・教員人事担当)		<input checked="" type="radio"/> 有・無
今村 聡子	理 事 (事務総括・男女共同参画・障害者雇用担当)		<input checked="" type="radio"/> 有・無
高田 正雄	学外理事 (大学統合担当・非常勤)		有 <input checked="" type="radio"/> 無
松澤 香	学外理事 (ガバナンス改革担当・非常勤)		有 <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法・ 一斉メールでの周知・ HP での周知・ 院内ポケットマニュアルへの記載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>本院では、パンフレットやホームページにより、病院の理念、目標、案内、各診療科等の治療内容及び統計データについて触れ、より多くの方々に情報発信を行っている。</p> <p>また、広報誌オアシス及び市民公開講座を定期的に作成、開催するなどして、本院の果たす役割を伝えている。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>1. アレルギー疾患先端治療センター</p> <p>内科・小児科・皮膚科・耳鼻科のアレルギー専門医が横断的に密接に協力して総合的にアレルギー疾患の治療を行う。それにより、全身のアレルギー疾患を同時に根本から治療することが可能。</p> <p>2. 稀少疾患先端医療センター</p> <p>様々な臓器に症状がおこる稀少難病に対して、その稀少難病毎に、内科・小児科・外科・耳鼻科・皮膚科等の複数の診療科の専門医が横断的に密接に協力して診療を行うことにより、全人的医療の提供が可能となる。</p> <p>3. がん先端治療部</p> <p>がん治療の進歩は目覚ましく、仕事をしながら治療を継続する長期生存患者が増えており、こうした患者を支援していくための横断的な診療・支援部門を設置することにより、患者・</p>	

家族に対する支援を適切かつ迅速に提供することができる。

4. オーラルヘルスセンター

入院中の口の健康増進を支援するため、口腔外科、歯周病、老年歯科、歯科麻酔、障害歯科等の専門医と歯科衛生士で構成され、病院横断的に多くの診療科や看護部などと連携して口腔ケアの推進に取り組んでいる。